

学 習 要 項

2020 年度
(56 回生)



日本大学医学部附属看護専門学校

目 次

本学の理念, 教育目的, 教育目標, 教育課程	1
履修概要	7
カリキュラム概要	8
履修系統図	9
教育課程・授業時間・単位数・進度表	10
学年目標	12
基礎分野	13
論理的思考演習	15
自然科学	17
情報科学	19
生命と倫理	21
文学	23
社会学	25
心理学	27
人間関係論Ⅰ	30
人間関係論Ⅱ	32
英語	34
医用英語	36
英会話	38
ドイツ語	40
スポーツトレーニング	42
専門基礎分野	45
医学概論	47
解剖学Ⅰ	49
解剖学Ⅱ	51
生理学Ⅰ	53
生理学Ⅱ	55
生化学	57
栄養学	60
基礎薬理学	63
薬物治療学	65

病理学	67
病態生理学Ⅰ	69
病態生理学Ⅱ	72
病態生理学Ⅲ	75
病態生理学Ⅳ	77
病態生理学Ⅴ	79
微生物学	82
公衆衛生学	86
社会福祉（社会福祉・社会保障）	89
関係法規	91
<u>専門分野Ⅰ</u>	93
基礎看護学	95
看護学概論Ⅰ	96
看護学概論Ⅱ	98
看護の方法Ⅰ－1～Ⅰ－6	100
看護の方法Ⅱ－1～Ⅱ－2	112
看護の方法Ⅲ	116
<u>専門分野Ⅱ</u>	119
成人看護学	121
成人看護学概論	122
看護の方法Ⅰ－1（急性期にある患者の看護①）	124
看護の方法Ⅰ－2（急性期にある患者の看護②）	126
看護の方法Ⅰ－3（回復期にある患者の看護）	128
看護の方法Ⅱ－1（慢性期にある患者の看護①）	130
看護の方法Ⅱ－2（慢性期にある患者の看護②）	132
看護の方法Ⅱ－3（終末期にある患者の看護）	134
看護の方法Ⅱ－4（看護過程の展開・技術演習）	136
老年看護学	139
老年看護学概論Ⅰ	140
老年看護学概論Ⅱ	142
看護の方法Ⅰ	145
看護の方法Ⅱ	147
小児看護学	149

小児看護学概論Ⅰ	150
小児看護学概論Ⅱ	153
看護の方法Ⅰ	155
看護の方法Ⅱ	158
母性看護学	161
母性看護学概論	162
看護の方法Ⅰ－1	164
看護の方法Ⅰ－2	167
看護の方法Ⅱ	169
精神看護学	171
対象の理解	172
看護の目的	174
看護の方法Ⅰ	176
看護の方法Ⅱ	178
<u>統合分野</u>	181
在宅看護論	183
在宅看護概論	184
看護の方法Ⅰ	186
看護の方法Ⅱ－1	188
看護の方法Ⅱ－2	190
看護の統合と実践	193
災害看護	194
国際看護	196
看護管理	198
医療安全	200
ケース・スタディ	202
<u>専門・実習</u>	205
臨地実習	207
臨地実習	208
学習効果を高めるための教科外学習	209
実務経験のある教員による授業内容	210

目的および使命

日本大学は 日本精神にもとづき
道統をたつとび 憲章にしたがい
自主創造の気風をやしなひ
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

日本大学は 広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

日本大学の教育理念

自主創造

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

- ・ **社会に貢献する姿勢**

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

- ・ **問題発見・解決力**

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

- ・ **コミュニケーション力**

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

- ・ **リーダーシップ・協働力**

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

- ・ **省察力**

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

看護専門学校の教育理念

医学部附属看護専門学校は、日本大学教育憲章に基づき、やさしさ・倫理観・豊かな感性を備え、対象である人間を尊重した看護を実践できる専門職業人を育てます。

看護専門学校の教育目的

看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者として日本大学および社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

看護専門学校の教育目標

- 1 人間に深い関心を寄せ、統合体としての人間を理解できる能力を養う。
- 2 人々の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働し、看護をマネジメントする基礎的な能力を養う。
- 4 社会の変化に目を向け、看護を探究する能力を養う。
- 5 看護の本質を理解し、看護観を形成する能力を養う。
- 6 生命の尊厳と個々の人格を尊重できる態度を養う。

看護専門学校の教育基本方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

医学部附属看護専門学校は、日本大学教育憲章に基づき、看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者として日本大学および社会に貢献できる人材の育成を目指しています。そのため、本校では以下に示す「求める学生像」を理解し、意欲的に学修を進めていくことのできる学生を求めています。

『求める学生像』

- 1 思いやりの心をもって他者と関わることができる人
- 2 他者の話をよく聴き、自分の考えを表現できる人
- 3 目標達成のために自ら学び、努力できる人
- 4 生活・健康の自己管理ができる人

入学試験では、学科試験により、3年間の学修に必要な知識・技能・思考力・判断力を評価します。また、面接試験により、表現力・判断力・柔軟性・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価します。

ディプロマ・ポリシー（専門士授与・卒業の認定に関する方針）

医学部附属看護専門学校は、日本大学教育憲章に基づき、日本大学の教育理念「自主創造」を構成する3つのカテゴリーである「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」姿勢を育み、本校の教育理念に基づき看護を实践する能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、専門士（医療専門課程）の称号を授与する。

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。
専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を实践することができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**
国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**
看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。
- ・ **問題発見・解決力**
看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。

＜ 自ら道をひらく ＞

- ・ **挑戦力**

新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。

- ・ **コミュニケーション力**

看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。

- ・ **リーダーシップ・協働力**

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。

- ・ **省察力**

専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

医学部附属看護専門学校は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた看護の実践者を育成するため、3年間を通じて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野で構成される体系的なカリキュラムを編成し実施する。

また、各科目における学習目的・学習目標・学習内容・学習方法・成績評価方法・評価内容をシラバス等で明示し学生に周知した上で、公正かつ厳正に評価する。

教育課程の体系を履修系統図で示す。

- 1 看護職に必要な豊かな人間性と倫理観を育成するための科目とすべての看護実践の基礎となる科目を並行して配置する。
- 2 看護職に必要な知識・技術およびそれらの科学的根拠を学ぶことができるように、看護専門領域の科目を健康・疾病・障害の理解を得てから看護の基本、看護援助の方法、看護の実践の順に配置する。
- 3 看護職に必要な実践力を高めるために、1年次に原理原則に基づく基礎的な看護技術習得科目を配置し、2年次で基礎看護学実習および専門科目をすべて配置し、3年次では看護専門領域実習・統合実習に集中的に履修できるよう配置する。
- 4 将来の多様なキャリア発展への意識を高めるために、主体となって構想し、実現していくための国際看護・看護展望・看護マネジメントなど、キャリア形成に関連する科目を3年次に配置する。

教育課程

1. 基礎分野…専門基礎分野と専門分野Ⅰ，専門分野Ⅱ，統合分野の基礎となる科目。人格形成に役立つ科目であり，看護学との関連性を考慮し，なおかつ一般教育的な意味がある。
2. 専門基礎分野…専門分野Ⅰ，専門分野Ⅱ，統合分野の基礎となる科目。看護の対象である人間を理解するために，からだの仕組みの理解と同時に人間の心の概念や成長・発達についても理解する。
3. 専門分野Ⅰ…すべての看護実践の基礎となる科目。基礎看護学で，科学的根拠に基づいた看護実践を行う上で必要な知識・技術を学ぶ。
4. 専門分野Ⅱ…対象別の看護を中心とした科目。「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」で構成され，対象の発達段階に応じた看護の実践を学ぶ。
5. 統合分野…基礎分野，専門基礎分野，専門分野Ⅰ，専門分野Ⅱで学習した知識・技術を統合させる科目。地域療養者とその家族を対象とする「在宅看護論」と「看護の統合と実践」で構成される。

履修概要

カリキュラム概要

学年	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	1年		■	■	■	■	□	■	■	■	■	□	■
2年		■	■	■	■	□	■	■	■	■	□	■	■
3年		■	■	■	■	□	■	■	■	■	□	■	■

: 講義
 : 臨地実習

講義

時限	時 間
1	9:00 ~ 10:30
2	10:40 ~ 12:10
3	13:00 ~ 14:30
4	14:40 ~ 16:10

※土曜日は1, 2限のみ

実習

曜日	場 所	時 間
月	病院 訪問看護ステーション 介護老人保健施設	8:00 ~ 16:45
火		
水		
木		
金	実践活動外学習 (記録整理・文献検索)	9:00 ~ 16:30
土		9:00 ~ 12:00

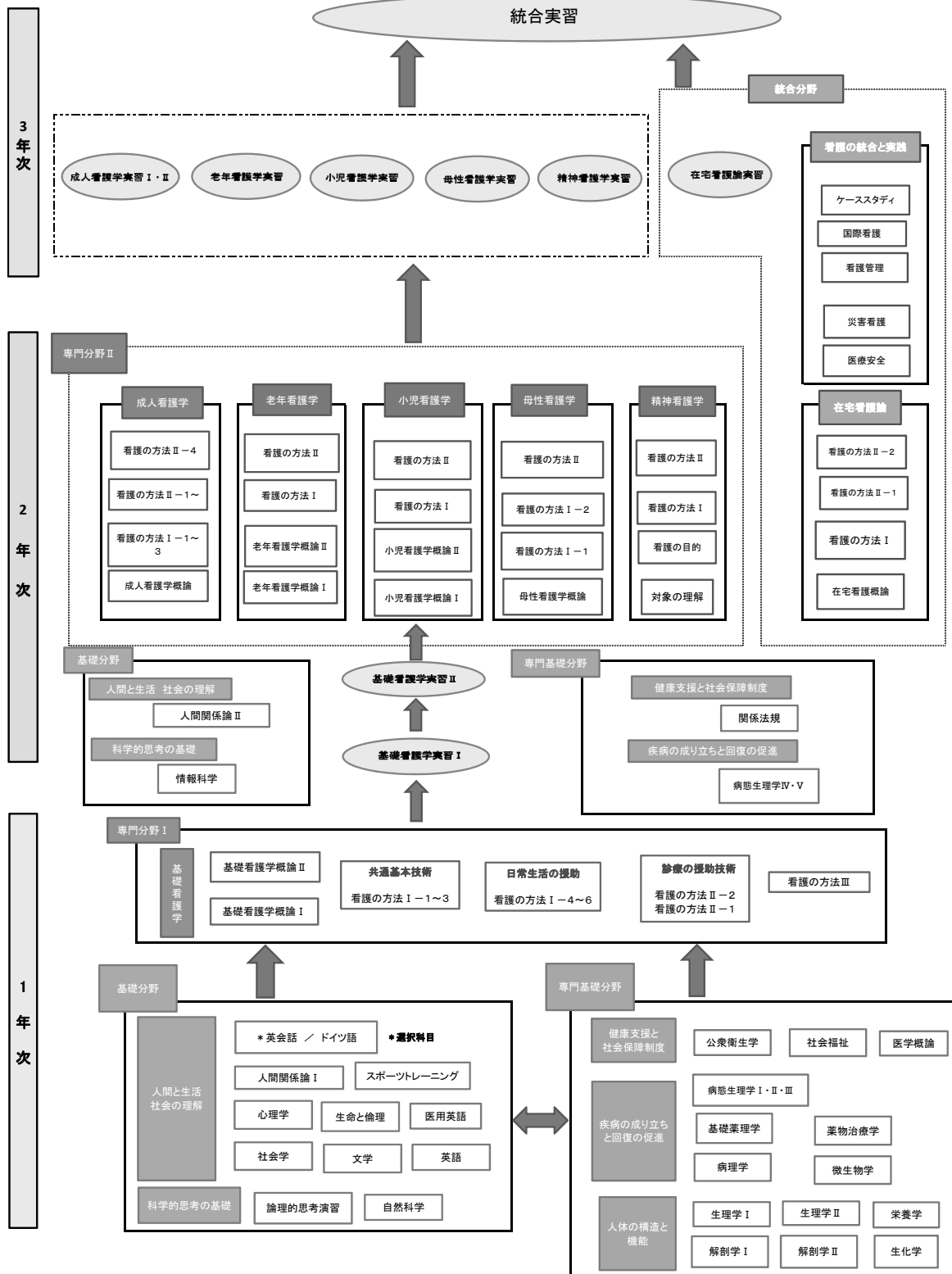
※実習施設

- ・ 日本大学医学部附属板橋病院
- ・ 日本大学病院
- ・ 訪問看護ステーション
- ・ 介護老人保健施設

履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

- 看護職に必要な豊かな人間性と倫理観を育成するための科目とすべての看護実践の基礎となる科目を並行して配置する。
- 看護職に必要な知識・技術およびそれらの科学的根拠を学ぶことができるように、看護専門領域の科目を健康・疾病・障害の理解を得てから看護の基本、看護援助の方法、看護の実践の順に配置する。
- 看護職に必要な実践力を高めるために、1年次に原理原則に基づく基礎的な看護技術習得科目を配置し、2年次で基礎看護学実習および専門科目をすべて配置し、3年次では看護専門領域実習・統合実習に集中的に履修できるように配置する。
- 将来の多様なキャリア発展への意識を高めるために、主体となって構想し、実現していくための国際看護・看護展望・看護マネジメントなど、キャリア形成に関連する科目を3年次に配置する。



教育課程・授業時間・単位数・進捗表

区分	科目	単位数 (時間数)	履修学年						
			1 学年		2 学年		3 学年		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的基礎	論理的思考演習	1 (30)	*****					
	人間と生活、 社会の理解	自然科	1 (30)	****					
		情報科	1 (30)			*****	*		
		生命と倫理	1 (30)	*****					
		文学	1 (30)		*****				
		社会学	1 (30)		*****				
		心理学	1 (30)		*****				
		人間関係論 I	1 (15)	***					
		人間関係論 II	1 (15)				***		
		英語	1 (30)		*****				
		医用英語	1 (30)				***		
※ 英会話	1 (30)	*****	*****						
※ ドイツ語	1 (30)	*****	***						
スポーツレニング	1 (30)	*****	***						
小 計		13 (360)	10 (285)		3 (75)		0 (0)		
専門基礎分野	人体の構造と機能	医学概論	1 (30)	*****					
		解剖学 I	1 (15)	****					
		解剖学 II	1 (30)	*****					
		生理学 I	1 (30)	*****					
		生理学 II	1 (15)	****	**				
	生化学	1 (30)	*	*****					
	栄養学	1 (30)	*****						
	疾病の成り立ちと回復の促進	基礎薬理学	1 (15)	***	***				
		薬物治療学	1 (30)		*****				
		病理学	1 (30)	*****	*****				
		病態生理学 I	1 (30)		*****				
		病態生理学 II	1 (30)		*****				
		病態生理学 III	1 (30)		****				
		病態生理学 IV	1 (30)			*****			
		病態生理学 V	1 (30)				*****		
		微生物学	1 (30)	*****	*****				
		公衆衛生学	2 (30)	*****	*****				
	社会保健制度	社会福祉社	2 (30)	*****					
		関係法	2 (30)			*****			
小 計		22 (525)	18 (435)		4 (90)		0 (0)		
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学概論 I	1 (30)	*****					
		基礎看護学概論 II	1 (15)		****				
		看護の方法 I-1 ~ I-6	基本技術	安全・安楽・感染予防 コミュニケーション・指導	1 (30)	*****			
				観察技術	1 (30)		*****		
				看護過程	1 (30)		*****		
				環境 活動と休息	1 (30)	****			
				清潔・衣生活	1 (30)	**	**		
				食と排泄 *嘔気・嘔吐、排泄困難、食事療法含む	1 (30)		*****		
		看護の方法 II-1	1 (30)		*****				
		看護の方法 II-2	[経過別看護] 急性期・回復期・慢性期・終末期	1 (30)					
			[症状別看護] 発熱・呼吸困難・意識障害・疼痛・出血傾向・浮腫			****			
		看護の方法 III	基礎看護技術の統合	1 (15)		*			
		基礎看護学実習 I	日常生活援助	1 (45)			****		
		基礎看護学実習 II	看護過程の展開	2 (90)				****	
小 計		14 (435)	11 (300)		3 (135)		0 (0)		

※は選択科目。いずれか1科目を選択。

区分	科 目	単位数 (時間数)	履修学年							
			1 学年		2 学年		3 学年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	対象の理解・成人の健康問題	1 (15)		****				
		看護の方法Ⅰ-1	急性期にある患者の看護①	1 (15)			*****			
		看護の方法Ⅰ-2	急性期にある患者の看護②	1 (30)			**	*****		
		看護の方法Ⅰ-3	回復期にある患者の看護	1 (15)				****		
		看護の方法Ⅱ-1	慢性期にある患者の看護①	1 (30)			*****			
		看護の方法Ⅱ-2	慢性期にある患者の看護②	1 (30)			****	****		
		看護の方法Ⅱ-3	終末期にある患者の看護	1 (15)				*****		
		看護の方法Ⅱ-4	看護過程の展開 (慢性期・急性期)	1 (30)				*****		
	老年看護学	老年看護学概論Ⅰ	老年期の理解	1 (15)			****			
		老年看護学概論Ⅱ	高齢者社会における保健医療福祉、 老年看護の理念・看護の役割・機能	1 (15)			*****			
		看護の方法Ⅰ	高齢者の生活機能を整える看護・ 健康障害と看護	1 (15)				*	****	
		看護の方法Ⅱ	高齢者への看護技術・看護過程	1 (30)					*****	
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ	小児看護の理念・小児の特徴と成長、 発達・小児保健	1 (30)			*****			
		小児看護学概論Ⅱ	コミュニケーション技術・小児と遊び・ 保育園実習	1 (30)			*****			
		看護の方法Ⅰ	小児の健康障害と看護	1 (30)				*****		
		看護の方法Ⅱ	症状別看護・看護過程	1 (30)					*****	
	母性看護学	母性看護学概論	対象の理解・母性保健	1 (30)			*****			
		看護の方法Ⅰ-1	妊娠分娩産褥の正常・異常、新生児の正 常・異常	1 (30)			*****			
		看護の方法Ⅰ-2	妊娠分娩産褥・新生児の看護	1 (30)			*****	*		
		看護の方法Ⅱ	母性看護に必要な看護技術・看護過程	1 (30)					*****	
	精神看護学	対象の理解	精神保健	1 (30)	*****					
		看護の目的	精神看護の目的・看護の役割、機能	1 (15)			****			
		看護の方法Ⅰ	精神障害の症状・治療・症状別看護	1 (30)			*****			
		看護の方法Ⅱ	看護過程	1 (30)				*****		
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	急性期・回復期	3 (135)					*****	*****
		成人看護学実習Ⅱ	慢性期・終末期	3 (135)					*****	*****
		老年看護学実習		4 (180)					*****	*****
		小児看護学実習		2 (90)					*****	*****
母性看護学実習			2 (90)					*****	*****	
精神看護学実習			2 (90)					*****	*****	
小 計			40 (1320)	2 (45)		22 (555)		16 (720)		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	在宅看護の概念・変遷・看護の目的・役割・ 社会資源と他職種との連携	1 (15)			****			
		看護の方法Ⅰ	日常生活技術・医療処置技術	1 (30)			****	****		
		看護の方法Ⅱ-1	状態別看護	1 (15)				****		
		看護の方法Ⅱ-2	在宅看護過程の特徴・事例展開	1 (30)				****		
	看護の統合と実践	在宅看護論実習		2 (90)					*****	*****
		災害看護		1 (15)				***		
		国際看護		1 (15)					*****	
		看護管理		1 (15)					***	
		医療安全		1 (15)			***			
		ケーススタディ		1 (30)					*****	*****
統 合 実 習			2 (90)						**	
小 計			13 (360)	0 (0)		6 (120)		7 (240)		
合 計			102 (3000)	41 (1065)		38 (975)		23 (960)		

学年目標

【1年生】

1. 生命の尊さを理解し、人間理解を深めることができる。
2. 看護に必要な基礎的知識を深め、根拠を踏まえた基礎看護技術を習得できる。
3. 学習の必要性を認識でき、学習習慣を身につけることができる。
4. 看護師を目指すものとして、心身の健康管理ができる。
5. 他者に興味・関心をもち、良好な人間関係を築くことができる。

【2年生】

1. 日々の体験や学習を看護に関連させ、論理的に考える力を養うことができる。
2. 対象の状況に応じた、看護過程展開の技術を習得できる。
3. 看護師を目指すものとして自覚と責任を持ち、主体的に学習することができる。
4. 看護に対する決意を新たにし、自らの理想とする看護師像を目指すことができる。
5. 他者との関係の中で自己の役割を認識し、協力的な行動がとれる。

【3年生】

1. 目的意識をもって積極的に実習に取り組み、看護の実践者として必要な知識・技術を身につけることができる。
2. これまでの学びを統合させながら、国家試験合格に向けた取り組みができる。
3. 社会人になる自覚を持ち、自己を律し、良識ある態度をとることができる。
4. 他者理解ができ、協働し目的を達成することができる。
5. 理論と実践を統合させ、自己の看護感を確立することができる。

基礎分野

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
論理的思考演習	1	前期	1	30	演習	必修
担当教員	松野 智章〔非常勤講師〕					
学習目的	論理的に考えるとはどういうことだろうか。実は、「考える」ということ自体が「論理的」に思考することに他ならず、論理的に思考することができることが「考える」ということに他ならないのだ。多くの人が「考えている」つもりでも、実はただ「悩んでいる」だけということが多い。さらに、メディアや他人の意見を鵜呑みにするのではなく、自分で検証して考えることが出来るようになれば怖いものはない。将来、医療に関わる者は、適切に言葉を使用し、思考することが求められるのであろう。また、自分で考えたことを文章で表現することも大事である。本授業では、そのための論理的思考と文章力を養うものである。					
到達目標	(1) 論理的に思考できるようになる。 (2) 発想力を養うことができる。 (3) 人前で自分の意見を言えるようになる。 (4) 小論文が書けるようになる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	論理的思考を修得するためには、学生自身が実践してみることが最も重要である。ゆえに、各授業で配布される資料をもとに下記の復習を行うと非常に効果的であり、それが予習となる。なお、本演習の準備学習時間としては次の分量が適切であると考えられる。 予習・復習時間：60分（授業中に指示をする重要ポイントについて、しっかり整理を行っておく）					

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：試験（50%）、ディスカッション（30%）、授業態度（20%）。	
教科書	レジュメを配分する。テキストを購入する必要はない。	
参考書	岩崎武雄『正しく考えるために』講談社現代新書，1972年。 アン・トムソン（斎藤浩文・小口裕史訳）『論理のスキルアップ—実践クリティカル・リーズニング入門』春秋社，2008年。	
学習の心得 学生へのメッセージ	論理的思考を理解できるようになることが目標である。 岩崎武雄『正しく考えるために』講談社新書を参考にしながら，講義形式で教員が講義する。ただし，受講者自身にもいろいろな問題や身近な事例を挙げてもらいながら，その事例を講義中に議論する。また，その内容をもとに小論文を書く。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	自己PRを学ぶ。知ることと考えることの違い。	松野
2	考えることとは何か？批判的な心構えとは何か？	
3	判断する前に必要なこと。何について判断するのか？	
4	推理するための論理を学ぶ。前件否定と後件肯定の誤り。	
5	選言推理の場合の誤り。概念と意味の同一性。	
6	ディスカッションと小論文の心得。	
7	ディスカッションをして小論文を書く。	
8	ディスカッションをして小論文を書く。	
9	ディスカッションをして小論文を書く。	
10	ディスカッションをして小論文を書く。	
11	ディスカッションをして小論文を書く。	
12	ディスカッションをして小論文を書く。	
13	ディスカッションをして小論文を書く。	
14	ディスカッションをして小論文を書く。	
15	終了試験・解説	

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
自然科学	1	前期	1	30	講義	必修
担当教員	阿 部 健 之 [医学部 (生物学)] 小 松 徳太郎 [医学部 (化学)]					
学習目的	看護学生として必要な自然科学について知識を習得し理解する。これは一般教養として必要であるばかりでなく、専門基礎科目を学習するための基礎となる。すなわち、生命現象の諸問題について考察し、人間を含めた生物そのものの理解を深めるとともに、将来、医療・看護において直面する自然科学の様々な問題を自ら認識、判断できるようにする。					
到達目標	(1) 原子と分子の構造と性質について説明することができる。 (2) 水溶液の性質と溶液の調製法について説明することができる。 (3) 生体を構成する主要な物質の構造と性質について説明することができる。 (4) 細胞の基本的なはたらきについて、細胞の構造との関連性を示しながら説明することができる。 (5) 生体膜の構造とはたらきについて説明することができる。 (6) 自然界のエネルギーについて、その基本概念を理解し、説明することができる。 (7) 生物のATP生産とそれを利用した生物の活動を理解し、説明することができる。 (8) 生態系における物質循環とエネルギーの流れを理解し、説明することができる。 (9) 細胞周期を理解し、DNA複製の意義と細胞分裂の仕組みを説明することができる。 (10) 遺伝情報の発現についての基本的な仕組みを説明することができる。 (11) 生殖に関わる現象、特に複相 (2n) と単相 (n) という核相の交代 (減数分裂、配偶子形成、受精) を説明することができる。 (12) メンデルの遺伝法則など、遺伝の基本的な仕組みを説明することができる。 (13) 初期発生の過程と細胞分化を説明することができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力						

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。

省察力

専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。

準備学習	各学習項目について、教科書・配布した資料等を読み、不明な点、疑問点を挙げ、必要に応じて調べながら理解に努め、授業に臨むこと。（1時間程度）
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100%
教科書	系統看護学講座 基礎分野 生物学／医学書院 系統看護学講座 基礎分野 化学／医学書院
参考書	解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理／岡田隆夫著／羊土社

回数	授 業 内 容	担当者
1	ガイダンス, 生命の特質:多様性と共通性	阿部
2	原子と分子, 元素の性質と周期表, 量の表し方	小松
3	水の性質, 濃度の計算, 水溶液の性質	
4	単位の換算, 危険な物質	
5	細胞の構造とはたらき	
6	生体膜の構造とはたらき	阿部
7	生体のエネルギー(同化と異化)	
8	生態系における物質循環とエネルギーの流れ	
9	細胞周期と細胞分裂(体細胞分裂と減数分裂)	
10	遺伝の法則と染色体	
11	DNAの構造と複製	
12	遺伝子の発現(転写と翻訳)	
13	生殖, 受精と初期発生, 細胞分化の仕組み	
14	遺伝子診断と遺伝子治療	
15	終了試験・まとめ	

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
情報科学	2	後期	1	30	講義・演習	必修
担当教員	宇田川 誠一 [医学部 (数学・情報科学)] 谷 口 哲也 [医学部 (数学・情報科学)] 宮 田 洋一郎 [医学部 (情報科学非常勤)] 田 中 有 希 [医学部 (情報科学非常勤)] 西 村 舞 [実習助手]					
学習目的	(1) 看護実務に必要なパソコンの基礎操作を身につける。 (2) 統計処理の基礎的技術を身につける。 (3) プレゼンテーションの基礎的方法を身につける。					
到達目標	(1) パソコンの基本操作ができる。 (2) インターネットで情報収集ができる。 (3) 資料から基本統計量を求めることができる。 (4) 表計算ソフトで統計処理ができる。 (5) プレゼンテーションソフトを利用することができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	2回目以降は、授業の前日までに、前回の内容を配布プリントなどで30分程度復習してから授業に出席すること。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 中間試験：25% ， 提出物：15% ， 出席・授業態度：10% ， 終了試験：50% ＊中間試験の時期は日程の都合により多少前後する場合がある。 ＊第1回目の授業時に連絡する。	
教科書	とくに指定しない。	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	Windowsの起動と終了。アプリケーションの起動と終了。USBメモリへの保存方法。	全教員
2	WORD(I): 仮名漢字変換を利用した文章の入力練習。文字飾りの方法。	
3	WORD(II): 表の作成と図形描画を行う。完成したものをプリンタで印刷する。	
4	EXCEL(I): EXCEL入門。数表での合計、平均の計算。コピー&貼り付けと相対参照。	
5	EXCEL(II): 表の作成と装飾。セルの書式設定の方法。BMIの算出。	
6	EXCEL(III): 度数分布表の作成。セルの相対参照と絶対参照。	
7	EXCEL(IV): 度数分布表の完成。ヒストグラムの作成および印刷。	
8	中間試験。	
9	Internetの利用方法。Updateの必要性とその方法。情報倫理。情報収集練習。	
10	WORD(III): アンケート文書の作成。ワードアートや図形描画の使用、写真画像の貼り付けなどを行う。	
11	PowerPoint(I): スライドの作成練習。表、グラフの作成を行い、写真などの貼り付けを行う。	
12	PowerPoint(II): 各人のオリジナル・テーマのスライドを作成する。Internetを利用した情報検索及び収集。	
13	PowerPoint(III): オリジナル・テーマのスライドの作成を行う。	
14	PowerPoint(IV): オリジナル・テーマのスライドを完成し提出する。発表を行う。	
15	終了試験・まとめ	

注意：この授業は、講義と実習が一体化している。

実習関係の細目については、授業開始時にオリエンテーションする。

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
生命と倫理	1	前期	1	30	講義	必修
担当教員	雨 宮 久 美 [非常勤講師]					
学習目的	<p>人間による人間への問いは他の存在物と人間を峻別する決定的事柄である。人間への問いとは人間の本質essentia(エッセンティア)を探求することであり、倫理はここから出発する。そして自己における自律的態度、他者に対する人格の尊重、この両者を向上させ深めてゆこうとする不断の意欲と努力が、倫理的自覚となり、人間そして生命の尊厳を認識する根底となることを理解する。</p> <p>その上で、医療・看護の実践において、起こり、判断し、そして解決を迫られるさまざまな倫理的諸問題の問題点を常に考えてゆくことができる医療人として持つべき感性を発掘し、加えて、看護実践で特徴的な倫理諸原則を理解することによって、常に患者の立場で把握することができるような思考回路を涵養し、看護における倫理観の重要性を認識する。</p>					
到達目標	<p>(1) 医療行為における「医療の倫理」と「倫理の論理」の本質的な相違点を理解できる。</p> <p>(2) 医療者-患者関係の各種モデルと医療におけるパターナリズムの問題点を理解できる。</p> <p>(3) QOLの真の意味を理解し、説明できる。</p> <p>(4) 人工授精・体外受精・代理出産・胚研究・人工中絶・胎児診断・選択的中絶・重度障害新生児の選択的治療停止など、生命操作によって起こり得る倫理的・社会的問題点と功利主義の関係を説明できる。</p> <p>(5) 脳死移植・生体移植など移植医療の倫理的・現実的諸課題と心身二元論および功利主義の関係を説明できる。</p> <p>(6) 安楽死・尊厳死をめぐる問題点と功利主義の関係を説明できる。</p> <p>(7) 種々の家庭内暴力(DV)について説明できる。</p> <p>(8) インフォームド・コンセントの意味・歴史・意義を理解し、説明できる。</p>					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	授業の復習として、1時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（100%）の結果から欠席を減点する。		
教科書	随時、資料プリントを配布する。		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	ガイダンス 倫理とは何か	医療技術と倫理的視点について	雨宮
2	トリアージ	災害医療・救急医療	
3	医療資源の配分倫理	サバイバル・ロタリーとトリアージ	
4	パターナリズムとオートノミー	患者と医療従事者の関係	
5	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセント成立の歴史と意義	
6	SOL倫理とQOL倫理	SOLの意味とQOLの意味	
7	優生思想と生殖医療	優生思想と着床前診断・出生前診断の倫理問題	
8	人工授精と体外受精	体外受精の倫理問題	
9	脳死・臓器移植	脳死・臓器移植の倫理問題・心身二元論	
10	DV問題	家庭内暴力など	
11	安楽死と尊厳死	生きる権利と死ぬ権利	
12	終末期医療と緩和ケア	アドバンスディレクティブなど	
13	死の受容	死の受容5段階（キューブラー・ロス）	
14	生命倫理とその根底の思想	生命倫理について根底にある思想	
15	終了試験・まとめ		

区分	基礎分野				R2(2020)年度		
	科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
	文学	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	山崎 泉 (日本大学講師)						
学習目的	文学・映像作品における「病」について考察する。 文学・映像作品において「病」を扱った作品を取り上げ、実際の作品を鑑賞(文学作品の場合は主としてその映像化作品を鑑賞)した上で、それらの作品において「病」がどのように描かれているのかを分析していく。						
到達目標	(1) たしかな読解力を養う。 (2) 文学作品を通して、人が病とどのように対峙してきたのかを理解する。 (3) 病を描いた文学作品を鑑賞することにより、他者の心情に共感する力を身に付ける。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分 復習：30分						
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 平常点20%、発表・レポート20%、終了試験60%						

教科書	なし	
参考書	プリントおよびレジュメを配布。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	ガイダンスおよび文学・映像作品における「病」について総説	山崎
2	有吉佐和子「恍惚の人」	
3		
4	伊藤俊也「花いちもんめ」	
5		
6	小菅もと子「忘れても、しあわせ」（「折り梅」）	
7		
8	耕治人「そうかもしれない」	
9		
10	荻原浩「明日の記憶」	
11		
12	岡野雄一「ペコロスの母に会いに行く」	
13		
14	まとめ	
15	テスト・解説	

区分	基礎分野				R2(2020)年度		
	科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
	社会学	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	服部 慶喜 (日本大学講師)						
学習目的	世の中は「自分の思い通りにいくものではない!」ということを理解しなければ、社会生活を成り立たせることは出来ない。では、どうすれば良いのか?——本講義は、1回の授業につき1つのトピック(学生にとって身近な話題)を呈示し、客観的に現実を考察する(社会学的想像力を身に付ける)ことを目的としながら進めていきます。						
到達目標	日常生活および医療社会での望ましい「人間関係」構築のための基礎知識・技術を身につけるために、「人間」が如何なる存在なのか、どのように「社会」と「人間」はかかわりを持っているのか、主としてこれらの側面について講義します。その際に、自分が「社会」を理解した「人間」となる必要性を認識するための材料を提供することになります。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							
準備学習	特別な予習は必要ないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)した上で(1時間以上必須)、次の講義にのぞんでほしい。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の(あるいは自分自身の)あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。						
成績評価基準	評価方法: 絶対評価 評価内容: 終講試験(70%), 受講態度(10%), 小レポート(20%)で評価する予定						

教科書	服部慶亘著 『改訂 ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学』 新協		
参考書	なし		
学習の心得 学生へのメッセージ	質問は随時受け付けます。講義の前後でも、またはインターネットでも可能です。		
回数	授 業 内 容		担当者
1	社会学の基礎づくり	ガイダンス（社会学とは何か？①）	服部
2		状況（情況）判断	
3		社会学とは何か？②	
4		社会的動物としての人間①	
5		社会的動物としての人間②	
6	コミュニケーション	概説（語源、本質的な意味）	
7		構造と原理	
8		フィードバック（語彙・構造）	
9		日本（人）的コミュニケーション	
10		実験演習	
11	Human Being 人間関係の諸相と構造	概説（人間を社会的に考える）	
12		地位と役割	
13		医療における地位—役割	
14		アイドル工学	
15	終講試験・まとめ		

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度		
	科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
	心理学	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	大 石 武 信 [非常勤講師]						
学習目的	心理学とは、人間の意識や行動を科学的方法に従って解明しようとする学問である。本講義では、心理学の基礎知識を習得して、患者の心理を理解するための基盤とするとともに、患者と主体的にかかわるために看護者自身が自己理解を深めることなどを目的とする。						
到達目標	看護は人間と人間の関係である。よりよい人間関係を構築するために、パーソナリティや発達を中心に、自己と他者を多面的な視点のメタ認知的視点から理解できるようにすることを目標とする。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							
準備学習	直接教科書に触れない内容についても、シラバスや前回の講義内容を確認して次回に臨むことが望まれる。 予習：30分 復習：30分						
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（100%）						
教科書	新体系看護学全書 基礎科目 心理学 / メヂカルフレンド社						

参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	人間のリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・サーカディアンリズム ・ウルトラディアンリズム ・インフラディアンリズム 	大石
2	パーソナリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・personality, character, temperamentについて ・パーソナリティの分類 <ol style="list-style-type: none"> 1. 類型論 <ol style="list-style-type: none"> (1) ガレノス (2) クレッチマー (3) シェルドン (4) シュプランガー 	
3	〃	(5) フロイト (6) ユング	
4	〃	<ol style="list-style-type: none"> 2. 特性論 <ol style="list-style-type: none"> (1) オルポート (2) キャッテル 3. 構造論 <ol style="list-style-type: none"> (1) アイゼンク (2) レヴィン 	
5	〃	YG性格検査実施 <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティ検査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 質問紙法 (2) 作業検査法 (3) 投影法 	
6	学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 古典的条件付け (2) 道具的条件付け (3) 技能学習 (4) 社会的学習 ・練習 	
7	記 憶	<ul style="list-style-type: none"> ・記憶の段階 ・記憶の分類 ・忘却 	
8	発 達	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の研究法 ・発達の理論 (1) ピアジェ (2) フロイト 	
9	〃	<ol style="list-style-type: none"> (3) エリクソン (4) マーラー (5) ハヴィガースト <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階 <ol style="list-style-type: none"> 1. 胎児期 2. 乳児期 <ol style="list-style-type: none"> (1) 感覚の発達 (2) 愛着 	
10	〃	<ol style="list-style-type: none"> 3. 幼児期 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1次反抗期 (2) 知覚の発達 	
11	〃	<ol style="list-style-type: none"> 4. 児童(学童)期 <ol style="list-style-type: none"> (1) informal group (2) formal group 	

12	〃	5. 青年期 (1) 青年期前期 ①身体的成熟②第2次反抗期 (1) 青年期後期 自我同一性の確立	大石
13	〃	6. 成人期 (1) 身体的変化 (2) 認知的様態の変化 (3) 結婚と家族生活	
14	〃	7. 老年期 agingの定義とプロセス (1) 身体的変化 (2) 認知的方面の変化 ①知能 ②記憶 (3) 老性自覚 (4) 死の問題	
	人間の欲求	マズローの欲求階層論	
15	終了試験・まとめ		

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
人間関係論 I	1	前期	1	15	講義	必修
担当教員	三 輪 雅 子 [医学部 心療内科]					
学習目的	(1) 「人間関係」について理解する。 (2) 人間関係を円滑に進めるために自己理解を深める。 (3) より良いコミュニケーションとはどのような状態なのかを理解する。					
到達目標	(1) 人間関係を理解するために必要となる基礎的な心理学的知識を身につける。 (2) 自己と他者の思考・行動特性を分析し理解できる。 (3) より良いコミュニケーションを構築するための方法論を身につける。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験 90% 出席・受講態度 10%					

教科書	プリントを随時配布する。	
参考書	図解&ワークでわかる・身につく初学者のための交流分析の基礎 中村延 田副真美 片岡ちなつ 金子書房 カウンセリングの技法を学ぶ 玉瀬耕治 有斐閣	
回数	授 業 内 容	担当者
1	人間関係論概論 交流分析：自我状態の分析	三輪
2	交流分析：エゴグラム	
3	交流分析：ストローク	
4	交流分析：人生の基本的態度	
5	交流分析：やりとりの分析	
6	交流分析：時間の構造化	
7	カウンセリングの技法 人間関係論のまとめ	

区分	基礎分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
人間関係論Ⅱ	2	後期	1	15	講義1時間 演習14時間	必修
担当教員	三輪雅子 [医学部 心療内科]					
学習目的	<p>看護活動の基本ともいえる看護師－患者関係(対人関係)を理解するために、自己や他者の様々な特徴について簡単なゲーム体験を通して学ぶことを目標とする。</p> <p>(1) 自己の考え方や行動の特徴を分析し理解する。 (2) 自己と他者の関係の持ち方に気づく。 (3) コミュニケーションの様々な状態を体験する。</p>					
到達目標	<p>(1) 自己の心的特徴や行動特徴、価値観などが分析できる。 (2) 他者の考えや行動が理解できる。 (3) 自己と他者のコミュニケーションの特徴が分析できる。 (4) より良い人間関係を築く。</p>					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						
準備学習	授業の復習を行い、実習の学習に臨むこと。予習30分、復習30分程度が望まれる。					

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験(筆記)・レポート・受講態度を総合的に判断する。		
教科書	プリントを随時配布する。		
参考書	なし		
学習の心得 学生へのメッセージ	毎回3～6人程度のグループを構成し、自己理解・他者理解のためのゲームを行う。 ゲームの体験を通して自己分析やグループ討論などを行い、毎回レポートとして提出する。		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	人間関係とは：ワーク「私はどんな人？」	演習 A/Bクラス別	三輪
2	対人認知と印象形成：ワーク「第1印象」		
3	コミュニケーション ：ワーク「ワンウェイ/ツーウェイ コミュニケーション」		
4	聞く・話す・観察する：ワーク「聞く・話す・観察する」		
5	共感的理解：ワーク「青山さんのケース」		
6	ポジティブな感情表出：ワーク「感情との付き合い方」		
7	葛藤との付き合い方：ワーク「サバイバルゲーム」		

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
英語	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	上 滝 圭 介 〔非常勤講師〕					
学習目的	<p>英語学習のなかで、外国語学習に対する心構え、ことばに対する感性、日々の出来事やメディアの言説などに対する判断力を学んでいく。社会人として、出版物やインターネットの英語を理解したり、道ばたや結婚式や海外旅行など、さまざまな場面でとつぜん要求される英語に対応したいものだし、医療従事者としては、英語に由来する用語の理解や患者との英会話を現場で求められることもあるだろう。また、英語学習というと、イギリスやアメリカなどの英語を母語とする国々に気をとられがちだが、アジアの近隣諸国と日本の連携において用いられる、第2言語としての英語にも眼を向けたい。</p>					
到達目標	<p>1) 英単語について、英和辞書を用いて、その語の発音、品詞、意味を的確に調べることができる。</p> <p>2) 英文について、SVOCを用いて文の構造を分析したうえで文意をつかむことができる。またさらに、文章全体の大意を説明できる。</p> <p>3) 音読や発表、グループワークやそのほかのアクティビティに積極的に取り組むことができる</p> <p>4) 英語表記の人名・地名や固有名詞や病名などについて、電子辞書や事典類、専門書やインターネットなどを用いて、臨機応変に調査できる。</p>					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	未知の単語の発音, 品詞, 意味を辞書で調べたうえで, SVOCと文意をつかんでおくこと。 予習: 30分~2時間 復習: 30分	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 60%・出席態度 30%・課題 10%	
教科書	J・メドウズ編『生命科学のあけぼの』虎岩正純+直子編注: 鶴見書店	
参考書	なし	
学習の心得 学生へのメッセージ	総合的に英語学習を指導する。受講者は復習よりも準備学習に比重を置くこと。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	オリエンテーション [発音や文法など]	上滝
2	Introduction	
3	Harvey and Galileo	
4	A Student at Padua	
5	Galen's views are challenged	
6	Galen's views are challenged [Activity 1: Turbo Lover]	
7	Return to England: the action of the heart	
8	Return to England: the action of the heart [Activity 2: Body Map]	
9	Demonstrations of circulation	
10	Harvey publishes his discovery	
11	Harvey publishes his discovery [Activity 3: Instruction]	
12	The generation of animals	
13	Harvey in old age	
14	Harvey's heritage	
15	終了試験と1回から今回までのまとめ	

区分	専門分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
医用英語	2	後期	1	30	講義	必修
担当教員	丸山 高史 [医学部(内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野)] JEGO, Eric Hajime [医学部(一般教育学系英語分野)] WILLIAMS, Timothy Pelham [医学部(一般教育学系英語分野)]					
学習目的	医療の現場において英語は日常的に使用されており、その理解は看護遂行上必須である。本講義は、基礎的な医学用語の理解を目的として行う。					
到達目標	(1)医療の現場において実際に使用される診察、検査、治療・看護上の医学専門英語の理解と修得ができる。 (2)人体各部の名称、症状、病名などの英語(略語)を理解できる。 (3)Problem Oriented System(POS:問題志向型システム)にそった病歴の記載や、問題解決のための検査計画、検査結果、治療計画、効果判定、など診察録に記載された英語記述や医学専門英語が理解できる。 (4)英語で患者と口頭によるコミュニケーションをとることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連						
<自ら学ぶ>						
<input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。						
<input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える>						
<input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
<input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く>						
<input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る リーダーシップ力						
<input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することができる。						
<input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験100%	
教科書	Medical English for Nurses (プリント) 看護英語ハンドブック / 東京医学社 ナースの英会話 / 学研	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	外部人体, 医学用語	丸山
2	呼吸器系疾患, 消化器系疾患	
3	循環器系疾患, 腎・尿路系疾患	
4	血液系疾患, 内分泌・代謝系疾患	
5	アレルギー・免疫系疾患, 筋・骨格・神経系疾患	
6	個人情報の提供 (questions and personal info)	T. P. WILLIAMS
7	基本的な病気や苦情を説明する (describing common complaints)	
8	基本的なリクエスト, オファー, 設定 (requests and preferences)	
9	アドバイスと指示を与える (giving advice and instructions)	
10	患者への説明, 交渉と意味の明確化 (negotiating meaning and clarifying info)	
11	患者対応の基本 (patient communication basics)	E. H. JEGO
12	初診時の患者を理解する (understanding patient symptoms)	
13	初診時の患者に対応する (chief concern and onset)	
14	患者の症状を診療科に結び付ける (connecting symptoms and depts.)	
15	受診科への行き方を説明する (giving directions in a hospital)	

区 分	基礎分野				R 2 (2 0 2 0) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
英会話	1	前期	1	30	演習	選択
担当教員	Stoud Todd Mason [医学部 兼任講師]					
学習目的	本授業は受講者にいろいろな場面（診察室など）における実用的英会話を体験させ、異文化間におけるコミュニケーションの理解を目的とする。					
到達目標	(1) 英語の基本語彙の習得 (2) 文章構成の見本 (3) 聞き取り力 (4) 発音 (5) 英語で自己主張，発表，討論，自由な会話					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						
準備学習	授業の予習・復習として、30分程度の自主学習が望まれる。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 (筆記試験50%・英会話 50%)	
教科書	プリント配布	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	Introductory activities. "Wh" questions. Hobbies, likes and dislikes. Asking follow up questions.	Stoud Todd Mason
2	Phonetic Alphabet: Names. Numbers I. Listening activity. Interviewing classmates. Reporting information.	
3	Review Phonetic alphabet. Adverbs of frequency.	
4	Phonetic alphabet quiz. Numbers II. Phone talking, the three parts to phone communications.	
5	Review numbers I and II. Reported speech. Talking about the past and changes: "Used to".	
6	Review "Used to". Telling time.	
7	Review Telling time. Shopping: Colors, patterns and materials. Correct order of adjectives.	
8	Review adjective order, sizes, color, patterns and materials. Reported speech practice.	
9	Expressing probability: Sure, probably, may, doubt, won't.	
10	Review probability. Talking about the future: plans and goals. Reported speech practice.	
11	Review talking about future plans and goals. Future and past Conditionals.	
12	Review Conditionals. Tag questions.	
13	Review Tag questions. Making requests and Giving Advice.	
14	Review	
15	Final exam.	

区分	基礎分野				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
ドイツ語	1	前期	1	30	講義	選択
担当教員	鍵谷 優介 [医学部 兼任講師]					
学習目的	ドイツ語という一つの言語を通して、その基本的な文法・表現等はもとより、西欧の思考法を理解し、ひいては自国の文化や思想との比較にまで視野を広げられるようにする。また、医療上必要な用語や簡単な会話の習得にも力を入れる。					
到達目標	(1) ドイツ語文法の基礎を理解する。 (2) ドイツ語で初歩的な挨拶、自己紹介、質問ができる。 (3) 医学上の基本的な用語を覚える。 (4) ドイツや西欧の文化の特徴を理解する。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分 復習：30分		
成績評価基準	終了試験（筆記）（50%）・中間に行う試験（50%）を加味して総合的に判断する。		
教科書	プリント		
参考書	授業中に提示		
回数	授 業 内 容		担当者
1	ドイツ語の話	やさしい文法（動詞）・・・1	鍵谷
2	ドイツ語の発音	やさしい文法（動詞）・・・1	
3	西欧の童話，文学の話	やさしい文法（動詞）・・・2	
4	ドイツに住む悪魔の話	やさしい文法（名詞）・・・3	
5	白雪姫は優しい娘か	やさしい会話・・・4	
6	クリームヒルトは復習する	会話と文法・・・8	
7	こわい男「青ひげ」とは誰か	会話と文法・・・10	
8	カエルを壁にぶつければ王子になる？	会話と文法・・・12	
9	小テスト	会話と文法・・・13	
10	ホレ叔母さんと悪い娘	医学用語—1・・・14	
11	ドイツの宗教の話	医学用語—2・・・16	
12	中世の魔女狩り	医学用語—3・・・18	
13	マザコンの話	会話・・・21	
14	いつまでも子供でいたい気分	会話・・・23	
15	赤ずきんは一人で旅に出る・終了テスト	会話・・・25	

※都合により上記予定が変更になることがある。

区 分	基礎分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
スポーツトレーニング	1	後期	1	30	講義2 実験実習校内28	必修
担当教員	山村孝之 [医学部(健康・身体教育学分野)] 栗原祐二 [医学部(スポーツトレーニング非常勤)] 目黒拓也 [医学部(スポーツトレーニング非常勤)] 三井梨沙子 [文理学部大学院]					
学習目的	身体活動の実践を通して、学生生活および将来の看護師に必要と考えられる体力の保持・増進を図るとともに、社会性や協調性を涵養すること、健康や安全管理への理解を深めることを目的とする。					
到達目標	(1) 相手を思いやり、協力してスポーツを楽しむ態度を身につける。 (2) 自発的にスポーツができるような態度を身につける。 (3) 生涯スポーツ実践のための基本的態度を身につける。 (4) 体力の保持・増進における基本的な考え方を理解し、実践できる。 (5) 水辺活動時の事故予防、スポーツ時の健康や安全管理に留意する態度を身につける。 (6) 各スポーツ種目におけるルールやマナー、スポーツ文化を理解する。 (7) バレーボール、バドミントン、卓球、フットサル、テニスなどの基本技能を習得する。 (8) 健康体力テストの目的を理解し、方法を実践できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	1. 授業の予習として、各実施種目の基本ルールについての理解が望まれる。 2. 運動・栄養・休養などの健康管理面について常に留意し、できる限り万全の体調で授業に臨むこと。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価（スポーツ種目の得意・不得意は関係ない） 評価内容 取り組み状況・学習態度（70%），レポートなどの提出物（30%）		
教科書	なし		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容	授業場所	担当者
1	ガイダンス，総論，健康体力テストの目的と方法	講義室	山村 孝之 栗原 裕二 目黒 拓也 三井 梨紗子
2	水辺活動時の安全認識と事故予防，着衣泳の実践	プール	
3	健康体力テストの実施	体育館	
4	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （基本技能の習得①）	体育館他	
5	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （基本技能の習得②）	体育館他	
6	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （基本技能の習得③）	体育館他	
7	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （習得度テスト，まとめ）	体育館他	
8	バドミントン，テニス，フットサル，フィットネス （基本技能の習得①）	体育館他	
9	バドミントン，テニス，フットサル，フィットネス （基本技能の習得②）	体育館他	
10	バドミントン，テニス，フットサル，フィットネス （基本技能の習得③）	体育館他	
11	バドミントン，テニス，フットサル，フィットネス （習得度テスト，まとめ）	体育館他	
12	バドミントン，卓球，テニス，ソフトテニス （基本技能の習得①）	体育館他	
13	バドミントン，卓球，テニス，ソフトテニス （基本技能の習得②）	体育館他	
14	バドミントン，卓球，テニス，ソフトテニス （基本技能の習得③）	体育館他	
15	バドミントン，卓球，テニス，ソフトテニス （習得度テスト，全体まとめ）	体育館他	

（受講者は4回～7回，8回～11回，12回～15回において異なる種目を選択する）

專門基礎分野

区分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
医学概論	1	前期	1	30	講義 医学部と合同講義	必修
担当教員	根 東 義 明 [医学部 (医療管理学)] 前 田 幸 宏 [医学部 (医療管理学)] 三 澤 仁 平 [医学部 (医療管理学)] 渋 谷 昭 子 [非常勤講師] 辻 典 明 [非常勤講師]					
学習目的	医療の発達, 医療体系と機能等を理解し, 医学がどのような社会的期待を担っているかについて認識を深める。					
到達目標	(1) 医学の体系とその発達の歴史について述べるができる。 (2) 医学・医療の関係と, 医療の発展の過程を述べるができる。 (3) 健康と疾病の概念を説明することができる。 (4) 病気の診断と治療の基本的な方法について述べるができる。 (5) 病気の予防の概念と方法について説明することができる。 (6) リハビリテーションの目的と方法について述べるができる。 (7) 地域の医療の提供システムについて説明することができる。 (8) 医の倫理のあり方について述べるができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 講義開始時に実施する前回講義についての小試験(毎回)30%，終了試験(筆記)70%		
教科書	系統看護学講座，別巻11，医学概論／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	医学と医療（第1章）	講義	三澤
2	医学史（第2章）		辻
3	健康と病気（第3章，第4章）		市川
4	病気による身体の変化Ⅰ（第5章）		根東
5	病気による身体の変化Ⅱ（第5章）		根東
6	病気の診断と治療（第6章）		根東
7	看護とリハビリテーション（第7章）		渋谷
8	病気の予防（第8章）		市川
9	新しい医療システム（第9章）		前田
10			前田
11	衛生統計（付章）		前田
12	生命へのアプローチ（第10章）		三澤
13	まとめ（全章）		根東
14	医療現場における多職種連携	医学部と合同講義	医学部教員
15			看護教員

区分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
解剖学 I	1	前期	1	15	講義	必修
担当教員	松川 睦 [医学部 (解剖学)] 内藤 美智子 [医学部 (解剖学)]					
学習目的	人体の構造 (かたち, つくり, しくみ) を徹底的に考察する姿勢を身につけることを目的とする。					
到達目標	(1) 人体各部の区分と名称および体位や運動方向を示す用語について理解する。 (2) 骨の役割を理解し, 次いで骨の形, 構造や存在位置について学び, それらが人体の中でどのように組み立てられているか理解する。加えて関節や靭帯についても学習する。 (3) 筋にはどのような種類があり, それらはどこに存在し, どのように機能しているかを理解する。 (4) 循環系を構成する脈管系と血液およびリンパについて理解する。 血液循環ポンプとしての心臓の位置, 形態, 機能について学習し, そこから排出される血液がどのような経路で各組織, 細胞に提供され, その後どのような経路で回収されるのかを学習する。また造血リンパシステムの総体についても学習する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%	
教科書	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院	
参考書	ヒューマンボディ／エルゼビア カラー人体解剖学／西村書店 からだの構造と機能／西村書店 解剖学アトラス／文光堂 解剖トレーニングノート／医学教育出版社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	人体の大要と用語，骨と骨の連結	松川
2	骨格筋の形状と働き，筋系の構成	
3	全身の骨格，主な骨格筋	
4	血液	内藤
5	心臓の構造	
6	末梢循環系の構造	
7	リンパとリンパ管，生体防御の関連臓器	

区分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
解剖学Ⅱ	1	前期	1	30	講義 実験実習校内	必修
担当教員	松川 睦 [医学部 (解剖学)] 内藤 美智子 [医学部 (解剖学)] 吉川 雅朗 [医学部 (解剖学)]					
学習目的	人体の正常構造についての基本的な解剖学知識を習得することで、生体の構造が細胞から組織、組織から器官へという一連のダイナミックな機構から成り立っていることを学び、人体の正常構造を理解する。 臨床系教科目を学習するにあたり必要な神経系の名称、用語を習得し神経系の基本的な構造と機能および感覚の受容とその伝達経路を理解する。また発生学では用語の理解と胎生期の器官形成の概要を理解する。					
到達目標	(1) 細胞の構造、各組織の構成要素について説明できる。 (2) 消化・排泄に関与する臓器の位置と形態について理解する。 (3) 気道と肺の形態について説明できる。 (4) 尿の生成、排泄器官および男女の生殖器の位置および形態について説明できる。 (5) 内分泌腺の構造および組織について説明できる。 (6) ニューロンとグリアの構造と主な機能を説明できる。 (7) 中枢神経 (脳・脊髄) と末梢神経の主な名称と機能を説明できる。 (8) 自律神経系の意義と機能について説明できる。 (9) 臨床に必要な神経の名称と主な伝導路について説明できる。 (10) 感覚受容器の構造と機能を説明できる。 (11) 発生学では、受精卵から初期発生および各器官形成について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						

- コミュニケーション力
看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。
- リーダーシップ力
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。
- 省察力
専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院		
参考書	ヒューマンボディ／エルゼビア カラー人体解剖学／西村書店 からだの構造と機能／西村書店 解剖学アトラス／文光堂 解剖トレーニングノート／医学教育出版社		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	細胞と組織	講義	松川
2	呼吸器系	講義	内藤
3	消化器系①		
4	消化器系②		
5	泌尿器系	講義	松川
6	生殖器系		
7	内分泌系		
8	神経組織・神経系の構造	講義	吉川
9	脳と脊髄		
10	脊髄神経, 脳神経		
11	自律神経系		
12	感覚器・伝導路		
13	人体の発生		
14	解剖見学オリエンテーション	実験実習 校内	松川
15	解剖見学実習		

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
生理学 I	1	前期	1	30	講義	必修
担当教員	高 尾 恭 一 [医学部 (生理学)]					
学習目的	<p>看護は人を対象とします。対象とする人の体の正常な構造と機能を正しく理解できていれば、体に問題を起こしている人、すなわち患者さんの体の中でおきている問題点を的確に理解することができます。看護において注意を払わなければならないこともわかってきます。ですから、生理学の学習を通して、是非とも正常な人体に関する正しい知識を身に付けて下さい。</p> <p>生理学では、人体の正常機能を二つの側面からとらえて学習していきます。一つは、心臓の動き、血液の循環、呼吸、栄養補給、排尿、内分泌など植物をも含めた生物として共通に持っている生命維持に必須な生理機能（植物性機能）です。もう一つは、動物だけが主として持っている、動くこと、感じること、考えることなどのもとなる神経、筋肉、感覚の機能（動物性機能）です。生理学 I では人の生命維持に必須な植物性機能を中心に学習します。</p> <p>以下の学習内容は教科書の章立てに準じて記載してあります。講義の時間数とのかね合いから1回の講義内容はかなり多くなります。したがって、各章の最後にあるゼミナール（復習と課題）に沿って重要な点を説明しますので、他の部分は教科書を読んで自分で学習することを奨励します。その際、わからないことがあれば是非質問して下さい。</p>					
到達目標	<p>(1) 生理学を学ぶための基礎を説明できる。</p> <p>(2) 消化機能と栄養の吸収機能の基礎を説明できる。</p> <p>(3) 呼吸機能の基礎を説明できる。</p> <p>(4) 血液の機能の基礎を説明できる。</p> <p>(5) 血液循環の基礎を説明できる。</p> <p>(6) 腎臓機能の基礎を説明できる。</p> <p>(7) 体液調節の基礎を説明できる。</p> <p>(8) 神経性調節と液性調節の基礎を説明できる。</p> <p>(9) 免疫機能の基礎を説明できる。</p>					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p>						

問題発見・解決力

看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。

<自ら道を開く>

挑戦力

新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。

コミュニケーション力

看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る

リーダーシップ力

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。

省察力

専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）（90%）および授業期間中に適宜行う小テスト（10%）の結果により総合的に評価する。	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 目で見るとからだのメカニズム 医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識（1）	高尾
2	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識（2）	
3	第2章 栄養の消化と吸収（1）	
4	第2章 栄養の消化と吸収（2）	
5	第3章 呼吸と血液のはらき（1）	
6	第3章 呼吸と血液のはらき（2）	
7	第4章 血液の循環とその調節（1）	
8	第4章 血液の循環とその調節（2）	
9	第5章 体液の調節と尿の生成（1）	
10	第5章 体液の調節と尿の生成（2）	
11	第6章 内蔵機能の調節（1）	
12	第6章 内蔵機能の調節（2）	
13	第6章 内蔵機能の調節（3）	
14	第9章 外部環境からの防御（1）	
15	第9章 外部環境からの防御（2）	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
生理学Ⅱ	1	前期	1	15	講義	必修
担当教員	高 尾 恭 一 [医学部 (生理学)]					
学習目的	<p>生理学では、人体の正常機能を二つの側面からとらえて学習していきます。一つは、人間が生きていくうえで不可欠な機能である、心臓の動き、血液の循環、呼吸、栄養補給、排尿、内分泌など植物をも含めた生物として共通に持っている生理機能（植物性機能とも呼ばれる）を、もう一つは、動物だけが主として持っている、動くこと、感じること、考えることなどのもとなる神経、筋肉、感覚の機能（動物性機能）です。これら正常機能の成り立ちが理解できれば、機能障害を示している人、すなわち患者さんですが、その患者さん（特に内科系の患者さん）を見たときに、たとえ病名がわからなくてもその患者さんの体の中でおきている問題点を的確に理解することができます。そして、その問題を理解できればどうしてそのような治療が行われているかも理解できるようになるし、実際に患者さんと接するにはどのような点に注意を払わなければならないかもわかってくると思います。ですから、生理学の学習を通して、是非正常人体機能の成り立ちに関する正しい知識を身に付けて下さい。</p> <p>以下の学習予定は教科書の章に準じて記載してあります。講義の時間数とのかね合いから1回の講義内容は教科書ではかなりのページ数になりますので、授業時間内では教科書のすべてを説明することはできません。したがって、各章の最後にあるゼミナール（復習と課題）の内容に沿って重要な点を説明しますので、他の部分は教科書を読んで自分で学習することを奨励します。その際、わからないことがあれば是非質問して下さい。</p>					
到達目標	<p>(1) 筋の収縮とその機構について説明できる。</p> <p>(2) 神経において活動電位の起こるしくみと、興奮の伝導について説明できる。</p> <p>(3) 脳や脊髄および関連する神経の機能について説明ができる。</p> <p>(4) 脳の高次機能について説明できる。</p> <p>(5) 運動機能と感覚機能について説明ができる。</p> <p>(6) 感覚器の構造と機能について説明ができる。</p> <p>(7) 生殖器の構造と機能、そして関連するホルモンについて説明できる。</p> <p>(8) 受精と胎児の発生、そして関連するホルモンについて説明できる。</p>					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p>						

問題発見・解決力

看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。

<自ら道を開く>

挑戦力

新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。

コミュニケーション力

看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る

リーダーシップ力

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。

省察力

専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）90%，授業態度 10%	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学／医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	第7章 からだの支持と運動（1）	高尾
2	第7章 からだの支持と運動（2）	
3	第8章 情報の受容と処理（1）	
4	第8章 情報の受容と処理（2）	
5	第10章 発生・生殖と老化のしくみ（1）	
6	第10章 発生・生殖と老化のしくみ（2）	
7	まとめ	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
生化学	1	前期	1	30	講義	必修	
担当教員	榎 島 誠 [医学部 (生化学)]						
学習目的	<p>生体を構成する細胞は、如何にしてエネルギーを獲得し活動しているのだろうか。生体が必要とする物質を理解し、摂取された物質がどのように代謝され、利用されて行くのかを理解する。さらに、様々な疾患と代謝との関係を理解し、より良い看護実践に活かすことができる。</p>						
到達目標	<p>(1) 生体におけるエネルギー代謝について説明できる。 (2) 酵素の機能と調節について説明できる。 (3) 糖質・脂質・タンパク質の性質および代謝について説明できる。 (4) 核酸のはたらきについて説明できる。 (5) 体液・ホルモンのはたらき、恒常性の維持について説明できる。 (6) 消化・吸収と栄養管理について説明できる。 (7) 血液・尿・免疫のはたらきについて説明できる。 (8) 各臓器における主な疾患について説明できる。</p>						
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>							

準備学習	授業内容にあたる教科書のページを読んでから授業に臨むこと。(約30分)	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記) 90% 課題提出等 10%	
教科書	わかりやすい生化学ー疾病と代謝・栄養の理解のためにー/ヌーヴェルヒロカワ	
回数	授 業 内 容	担当者
1	生体の成り立ちと生体分子 1) 生体の構造と機能 2) 生体を構成する物質 3) エネルギー代謝	榎島
2	タンパク質の性質, 酵素の性質と働き 1) タンパク質の構造と性質 2) 酵素の役割, 反応様式, 活性の調節	
3	生体内における糖質の代謝 1) 糖質の種類と代謝 2) 血糖調節と糖尿病	
4	生体内における脂質の代謝 1) 脂質の種類とその特徴 2) 脂質の代謝 3) 脂質異常症	
5	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝 1) アミノ酸の種類 2) アミノ酸およびタンパク質の代謝 3) アミノ酸およびタンパク質と疾患	
6	生体内における核酸の役割 1) 核酸の構造と機能 2) 転写・翻訳, DNAの複製 3) 遺伝子と疾患	
7	体液 1) 体液の組成 2) 電解質と酸・塩基平衡 3) 輸液の基礎	
8	ホルモン 1) ホルモンの種類と作用機序 2) 内分泌疾患	
9	内部環境の恒常性(ホメオスターシス) 1) 恒常性の調節機序 2) 恒常性の維持と疾患	
10	消化・吸収と栄養価, ビタミン 1) ビタミンの種類と作用 2) 消化・吸収の過程 3) 栄養の評価と静脈・経腸栄養	
11	血液の生化学 1) 血液成分とはたらき 2) 血液疾患	

12	尿 1) 腎臓の構造とはたらき 2) 腎機能検査と腎疾患	榎島
13	免疫 1) 免疫の種類とはたらき 2) 免疫反応と疾患	
14	各臓器の役割 1) 各臓器のはたらきと診療科 2) 各臓器における主な疾患	
15	終了試験・まとめ	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
栄養学	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	片 瀧 剛 [医学部 (生化学)] 亀 山 久美子 [板橋病院 (栄養科)]					
学習目的	人間の生存にとって必須の食物を、健康・栄養の面から学習する。食物からの栄養素の消化・吸収から生体内での代謝とエネルギー産生について学習する。併せて妊娠・出生から老年までのライフステージにおける栄養と健康について学ぶ。さらに各種の疾病や障害における食事と栄養摂取との関係、病気治療や予防に関連する食事の問題や栄養療法など栄養学の臨床応用について学ぶ。					
到達目標	(1) わが国における食生活と栄養指針、日本人の栄養摂取基準について説明できる。 (2) 食物の消化吸収と、体内での栄養素の代謝における相互関連を説明できる。 (3) 妊産婦や乳幼児から老年期までのライフステージにおける栄養と健康について説明できる。 (4) 各種の疾病や障害における食事と栄養摂取との関係、食事療法の意義や注意点について説明できる。 (5) 経管栄養や静脈栄養の適応とその注意点について説明できる。 (6) 栄養状態を評価し、栄養指導及び保健指導を行える。 (7) 病院における実際の食事指導について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）の結果を主とするが、状況に応じ出席数も考慮する。	
教科書	わかりやすい栄養学 第3版／ヌーヴェルヒロカワ	
参考書	系統看護学講座 専門基礎3 人体の構造と機能 [3] 栄養学／医学書院 新しい臨床栄養／南江堂 食事療法シリーズ／医歯薬出版 糖尿病食事療法のための食品交換表／文光堂 コンパクト生化学／南江堂 三訂 基礎栄養学／建帛社 など	
回数	授 業 内 容	担当者
1	栄養とはなにか・健康と栄養評価・看護と栄養 食生活の評価、栄養状態の評価方法の種類と特徴、栄養パラメーター、食文化と疾病の関連について理解する。	片淵
2	食物と栄養（Ⅰ） 栄養素の種類とその役割、糖質および脂質の栄養学について理解する。	
3	食物と栄養（Ⅱ） タンパク質、ビタミン、無機質の栄養学について理解する。	
4	食物と栄養（Ⅲ） 体内における各栄養素の代謝相関について理解する。	
5	日常生活と栄養（Ⅰ） 日常生活における健康と食事、日本の食生活と栄養指針について理解する。	
6	日常生活と栄養（Ⅱ） 日本人の食事摂取基準と現状の課題、スポーツやストレスと栄養の関連について理解する。	
7	ライフステージと栄養（Ⅰ） 妊産婦（母性）の栄養、乳幼児期、学童期における栄養について理解する。	
8	ライフステージと栄養（Ⅱ） 青少年期、成人期、老年期における栄養について理解する。	
9	疾病と栄養（Ⅰ） 代謝系・循環器系の障害と栄養について理解する。	
10	疾病と栄養（Ⅱ） 呼吸器・脳神経系の障害と栄養について理解する。	
11	栄養療法の種類と適応（Ⅰ） 代謝系・泌尿器・消化器系の障害と栄養について理解する。	
12	栄養療法の種類と適応（Ⅱ）、栄養指導及び保健指導 経腸栄養と経静脈栄養の適用、経管栄養法について理解する。 在宅における経管栄養、高カロリー輸液療法について理解する。 栄養診断と栄養指導について理解する。 栄養学のまとめと演習	

13	ライフステージ別の食事について	亀山
14	疾患別の食事と栄養指導	
15	チーム医療（NST） 看護師の役割	

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎薬理学	1	前期	1	15	講義	必修
担当教員	大塚 進 [板橋病院(薬剤部)] 葉山 達也 [板橋病院(薬剤部)] 坪井 伸也 [板橋病院(薬剤部)] 堤 大輔 [板橋病院(薬剤部)] 今野 千春 [看護専門学校]					
学習目的	医薬品と法令, 薬の有益作用と有害作用, 投与方法と薬効に影響をおよぼす要因について学習する。					
到達目標	(1) 医薬品の取り扱いについて述べることができる。 (2) 与薬量と安全性及び体内動態について述べることができる。 (3) 薬が与薬方法や食事によって受ける影響について述べることができる。 (4) 薬物を併用(複数の薬を与薬する)する目的について説明できる。 (5) 有害作用をあげることができる。 (6) 多職種の役割とチーム医療について述べることができる。 (7) 薬物療法における看護師の役割を述べることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習: 30分~1時間 復習: 30分					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学／医学書院	
参考書	看護学全書2，人体の構造と機能 生理学／メヂカルフレンド社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	看護と薬理学	今野
2	1) 薬理学とは 薬とは何か（薬の役割，剤形） *内服薬 2-1) 薬と法律 医薬品に関する法律と取り扱い及び安全管理 2-2) 薬と法律 治験 3) 薬が作用するしくみ（*内服） 体内動態（吸収，分布，代謝，排泄） 6-2) 多職種連携について 処方せん，添付文書の読み方 *消毒薬の種類と適用	大塚
3	6-1) 多職種連携について チーム医療と薬剤師の役割，病院薬剤師の業務，服薬指導， 服薬コンプライアンス，	葉山
4	3) 薬が作用するしくみ（総論） 体内動態（吸収，分布，代謝，排泄） 4-1) 薬効に影響を与える因子 薬物相互作用 5-1) 薬の有益性と有害性 用量の指標，薬物依存 5-2) 薬の有益性と有害性 副作用の発現，催奇形性	坪井
5	1) 薬とは何か（薬の役割，剤形） *注射 3) 薬が作用するしくみ（*注射） 体内動態（吸収，分布，代謝，排泄） 4-2) 薬効に影響を与える因子 小児用量と個人差に影響する要因 6-2) 多職種連携について 処方せん，添付文書の読み方 6-3) 多職種連携について 薬の濃度および単位と投与量の計算	堤
6	薬物療法における看護師の役割，	今野
7	看護業務に必要な知識	今野
	終了試験	今野

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
薬物治療学	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	酒寄 朗 [非常勤講師]					
学習目的	疾患とその治療薬, その作用副作用, 投与方法などを理解する。					
到達目標	1. 薬物の体内での動態や効果を理解する。 2. 代表的な疾患とその治療薬について理解する。 3. 薬物投与時の副作用について理解する。 4. 薬物に対する正しい知識を身につける。 5. 国家試験の問題に対応できる最低限のレベルは確保する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分 復習：30分～1時間					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記) 100%					

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学／医学書院	
参考書	看護学全書2, 人体の構造と機能 生理学／メヂカルフレンド社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	基礎薬理学の復習	酒寄
2	薬理学総論	
3	抗感染症（第1章）	
4	抗がん薬（第2章） 免疫治療薬（第3章）	
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬（第4章）	
6	末梢での神経活動に作用する薬物（第5章）	
7	中枢神経系に作用する薬物(1)（第6章）	
8	中枢神経系に作用する薬物(2)（第6章）	
9	心臓・血管系に作用する薬物(1)（第7章）	
10	心臓・血管系に作用する薬物(2)（第7章）	
11	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物（第8章）	
12	物質代謝に作用する薬物（第9章）	
13	皮膚科用薬・眼科用薬（第10章） 救急の際に使用される薬物（第11章） 漢方薬（第12章）	
14	消毒薬（第13章）輸液製剤・輸血剤（付章） その他（付章）	
15	終了試験,まとめ	

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
病理学	1	前期	1	30	講義	必修	
担当教員	羽生 裕之 [医学部 (病理学)] 尾沼 利倫 [医学部 (病理学)] 大荷 澄江 [医学部 (病理学)] 佐野 誠 [医学部 (病理学)] 吉田 研一 [医学部 (病理学)] 楠美 嘉晃 [医学部 (病理学)] 石毛 俊幸 [医学部 (病理学)] 辻村 隆介 [医学部 (病理学)] 小林 弘子 [医学部 (病理学)] 絹川 典子 [医学部 (病理学)] 西卷 はるな [医学部 (病理学)] 山田 清香 [医学部 (病理学)]						
学習目的	病因と病変の特徴について理解する。						
到達目標	(1) 人体における病気の成立機序を簡単に述べるができる。 (2) 各臓器における病変の特徴について述べるができる。 (3) 主病変と二次的病変の因果関係について簡単に説明できる。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							

準備学習	授業の予習・復習として2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 評価内容	絶対評価 終了試験（筆記試験） 100%
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学/医学書院	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	【総論】 第1章 病理学で学ぶこと	羽尾
2	第2章 細胞・組織の障害と修復 第6章 代謝障害	佐野
3	第3章 循環障害	生沼
4	第4章 炎症と免疫, 膠原病	山田
5	第5章 感染症	絹川
6	第7章 老化と死 第9章 腫瘍	石毛
7	第8章 先天異常と遺伝子異常 【各論】 第15章 内分泌系の疾患	山田
8	第10章 循環器系の疾患	小林
9	第11章 血液・造血器系の疾患	辻村
10	第12章 呼吸器系の疾患	西巻
11	第13章 消化器系の疾患 No.1	大荷
12	第13章 消化器系の疾患 No.2	
13	第14章 腎・泌尿器, 生殖器の疾患	楠美
14	第16章 神経系の疾患	吉田
15	第17章 骨, 関節系の疾患 第18章 耳, 眼, 皮膚の疾患 (付) 病理検査	辻村

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
病態生理学 I	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	平 沼 久 人 [医学部 (呼吸器内科)] 小 林 ひとみ [医学部 (血液膠原病内科)] 内 野 慶 人 [医学部 (血液膠原病内科)] 坂 田 省 三 [医学部 (呼吸器外科)]					
学習目的	呼吸器, アレルギー・膠原病, 血液疾患患者の病態生理, 検査, 治療について理解する。					
到達目標	1) 主な呼吸器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 2) 主なアレルギー・膠原病疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 3) 主な血液系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（2）呼吸器／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（4）血液、造血器／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（11）アレルギー・膠原病・感染症／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護各論／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	基礎疾患	(1) 解剖生理 (2) 症状と病態生理 (3) 検査と介助	平沼
2	炎症性肺疾患	(1) かぜ症候群 (2) 急性気管支炎・インフルエンザ (3) 肺炎 (4) 肺結核 (5) 非定型抗酸菌症	
3	気道疾患	(1) 気管支喘息 (2) 慢性閉塞性肺疾患 (3) 気管支拡張症	
4	間質性肺疾患	(1) 特発性間質性肺炎 (2) 肺線維症 (3) 過敏性肺炎 (4) サルコイドーシス (5) 薬剤性肺炎 (6) 放射線肺炎	
5	胸膜疾患・腫瘍・その他	(1) 胸膜炎 (2) 肺腫瘍 (3) 過換気症候群 (4) 睡眠時無呼吸症候群 (5) 肺循環障害（肺血栓・塞栓症） (6) 無気肺	
6	【呼吸器外科】	解剖，術式，術後合併症と管理	坂田
7		胸壁疾患，炎症性疾患，肺化膿症，肺結核，膿胸，肺癌（原発性肺癌，転移性肺腫瘍）	
8		縦隔腫瘍，自然気胸，胸膜腫瘍，横隔膜ヘルニア，胸部外傷	

9	【免疫系】	免疫の基礎知識とアレルギー疾患	(1) 免疫 (2) 検査と診断 (3) 症状と病態	小林
10		膠原病総論	(1) 診断, 検査, 治療	
		膠原病各論	(1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス	
11		膠原病各論	(3) 強皮症 (4) 多発筋炎・皮膚筋炎 (5) 血管炎症候群 (6) 混合性結合組織病	
12		膠原病各論	(7) 膠原病類縁疾患 (シェーングレン症候群, ベーチェット病, 血管炎症候群) (8) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) と日和見感染	
13	【血液系】	血液成分の異常によっておこる病態生理, 腫瘍以外の血管疾患各論	内野	
14		血液型と輸血, 輸血の種類と副作用, 血液系の腫瘍性疾患(総論)		
15		血液系の腫瘍疾患(各論) : 白血病, リンパ腫, 骨髄腫 血液疾患の治療薬, 骨髄移植		

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
病態生理学Ⅱ	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	依田 俊一 [医学部(循環器内科)] 瀬在 明 [医学部(心臓血管外科)] 福家 吉伸 [医学部(腎臓高血圧内分泌系内科)] 畑中 善成 [医学部(腎臓高血圧内分泌系内科)]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理、検査、治療について理解する。					
到達目標	1) 主な循環器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 2) 主な腎臓疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 3) 主な内内分泌・代謝系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分					

成績評価基準		評価方法 絶対評価		
		評価内容 終了試験(筆記) 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3) 循環器/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(8) 腎・泌尿器/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(6) 内分泌・代謝/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護各論/医学書院		
参考書		なし		
回数	授業内容			担当者
1	【循環器】	心臓の解剖と生理	1) 心臓の大動脈・肺動脈・上下大静脈との位置関係を理解する。 2) 心膜, 心筋, 4つの弁の特性と収縮・拡張における心内循環を理解する。 3) 冠循環の特殊性を理解する。 (1) 解剖生理 (2) 症状と病態生理 (3) 検査と介助	依田
2		虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)	1) 冠動脈リスクファクターを理解する。 2) 発症機序を述べることができる(動脈硬化病変, 血小板機能亢進, 血栓形成)。 3) 症状の特徴と診断における心電図の有用性を理解する。 4) 急性冠症候群の診断法と治療法を理解する。 5) 心筋梗塞の部位別の特徴と合併症を理解する。	
3		心不全	心不全の以下の概要を理解する。 1) 分類: 急性・慢性, 左心不全・右心不全, 収縮不全・拡張不全 2) 診断: 症状の特徴, 血行動態の理解, 生化学的診断法 3) 原因疾患 4) 治療の進歩	
4		不整脈	1) 刺激伝導系の解剖と生理を理解する。 2) 徐脈性・頻脈性不整脈を理解し, 基本的な治療法を述べることができる。 3) 緊急性の高い不整脈を知り, それに対する適切な対応ができる。	
5		心筋症 心弁膜症	1) 大動脈弁・僧帽弁疾患の病態を理解する。 2) 肺動脈弁・3尖弁疾患の病態を理解する。 3) 狭窄性雑音と逆流性雑音の特徴を理解する。	
6	【心臓血管外科】	虚血性心疾患・心不全		瀬在
7		弁膜症		
8		血管疾患		

9	【腎系】	腎系の症状と病態生理	福家
10		糸球体腎炎, ネフローゼ症候群	
11		腎不全, 血液浄化法 (透析)	
12	【内分泌・代謝系】	下垂体疾患, バセドウ病	畑中
13		甲状腺機能低下症, 副甲状腺	
14		副腎皮質, 副腎髄質, 性腺疾患	
15		糖尿病, 高尿酸血症, 痛風, 脂質異常症, 栄養, 代謝	

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
病態生理学Ⅲ	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	松井美貴 [医学部(麻醉科)] 多田敬一郎 [医学部(乳腺内分泌外科)] 葉山譲 [医学部(消化器肝臓内科)] 今武和弘 [医学部(消化器肝臓内科)] 吉田直 [医学部(消化器外科)] 青木優 [医学部(消化器外科)] 金本彰 [医学部(消化器外科)] 眞宮淳 [医学部(歯科・口腔外科学)] 北野尚孝 [医学部(歯科・口腔外科学)]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理, 検査, 治療について理解する。					
到達目標	1) 麻酔・手術療法についての意義や特徴について説明できる。 2) 主な消化器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 3) 主な歯疾患疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（5） 消化器医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（15） 歯・口腔／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護各論／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	【麻酔】	(1) 手術における麻酔の必要性および重要性を理解する。 (2) 全身麻酔と局所麻酔の違いを理解する。 (3) 全身麻酔について、基礎と臨床についての知識を習得する。 (4) 脊椎麻酔と硬膜外麻酔について、基礎と臨床についての知識を習得する。	松井
2	【手術療法】	(1) 外科治療の基本概念：侵襲・栄養・感染 (2) 手術の基本手技 (3) 外科学の進歩・今後 ※チーム医療	多田
3	【消化器内科】	肝の解剖，機能，肝疾患の症候，肝機能検査	葉山
4		肝機能検査，肝炎，肝硬変，肝癌	
5		胆石，胆のう炎，胆管炎，胆のう癌，膵炎，膵癌	
6		症候	
7	診察と検査	今武	
8	胃・十二指腸潰瘍，潰瘍性大腸炎，クローン		
9	(1)外科的解剖 (2) 消化器の働き		
10	【消化器外科】	(1)胃・十二指腸潰瘍（手術適応） (2)胃癌	青木
11		(1)食道癌 (2)大腸癌 (3)急性虫垂炎	
12		(1)肝疾患 (2)膵疾患 (3)胆道疾患	金本
13			
14	【歯科】	う歯，歯周炎，口腔ケア	眞宮
15		菌性感染症，腫瘍，嚢胞，変形症，骨折	北野

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
病態生理学IV	2	前期	1	30	講義	必修
担当教員	小川 克彦 [医学部(神経内科)] 小林 一太 [医学部(脳神経外科)] 穂坂 邦弘 [非常勤講師] 大幸 英至 [医学部(整形外科)] 山口 智大 [理学療法室] 萩原 紀子 [理学療法室]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理, 検査, 治療について理解する。					
到達目標	1) 主な脳・神経疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 2) 主な運動器疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 3) 理学療法の意義や特徴について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習: 30分~1時間 復習: 30分					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記) 100% ※各講師の評価割合は, 評価一覧表を参照					

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（7）脳・神経／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（10）運動器疾患／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護各論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 リハビリテーション看護／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	【脳神経・神経内科】	脳・神経学の構造と機能	小川
2		脳波，筋電図，腰椎穿刺，頭痛，てんかん	
3		脳梗塞，脳血管性認知症，頸椎症，後縦靭帯骨化症	
4		パーキンソン病，多発性硬化症，ギランバレー症候群，重症筋無力症	
5	【脳神経外科】	神経症候・脳血管障害（脳梗塞以外）	小林
6		脳腫瘍，頭部外傷，先天奇形等	
7	【運動器系】	診察・検査	大幸
8		治療処置	
9		外傷（骨折）	穂坂
10		RA	
11		下肢人工関節	
12		脊椎疾患 骨軟部腫瘍 絞扼性神経障害 など	
13	【理学療法】	リハビリテーションの歴史，基礎運動学，関節可動域，Human's Natural Action	山口
14		各論：脳卒中・運動器・心臓リハビリテーション	
15		摂食嚥下リハビリテーション	萩原

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
病態生理学V	2	後期	1	30	講義	必修
担当教員	藤 澤 大 輔 [医学部 (皮膚科)] 松 浦 大 輔 [医学部 (皮膚科)] 佐 野 優 [医学部 (眼科)] 町 田 弓美子 [医学部 (眼科)] 田 中 真 琴 [医学部 (耳鼻咽喉・頭頸外科)] 大日方 大 亮 [医学部 (泌尿器科)] 梶 田 賢 司 [医学部 (産婦人科)] 多 田 敬一郎 [医学部 (乳腺内分泌外科)]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理，検査，治療について理解する。					
到達目標	(1) 主な感覚器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 (2) 主な泌尿器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 (3) 主な女性生殖器系疾患の病態生理学・症状・治療・検査について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い，科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち，関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として，生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分					

成績評価基準	評価方法 絶対評価		
	評価内容	終了試験（筆記）	100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照
教科書	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学（12）皮膚／医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学（13）眼／医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学（14）耳鼻咽喉／医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学（8）腎・泌尿器／医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学（9）女性生殖器／医学書院
参考書	なし		
回数	授業内容		担当者
1	【皮膚】	熱傷，湿疹，じん麻疹	
2		皮膚感染症	
3	【眼科】	(1) 基礎知識 解剖生理	
4		(2) 疾患の理解 ・眼瞼，結膜の疾患 ・角膜の疾患 ・ぶどう膜，眼底の疾患 ・白内障，緑内障 ・屈折の異常	
5	【耳鼻咽喉】	耳の解剖・生理，疾患	
6		鼻・副鼻腔の解剖・生理，疾患	
7		口腔・咽頭・喉頭の解剖・生理，疾患	
8	【泌尿器・男性生殖器】	総論 ・腎・泌尿器の構造と機能 ・泌尿器科疾患の症状とその病態生理 ・泌尿器科における診察と検査	
9		各論 ・尿路・性器感染症 ・尿路通過障害と機能障害：前立腺肥大症，尿失禁など ・尿路損傷・異物各論	
10		各論 ・尿路結石症 ・尿路・性器腫瘍：腎腫瘍，尿路上皮腫瘍，前立腺癌，精巣腫瘍など ・発生・発育の異常	
11	【女性生殖器系】	(1) 患者の理解，看護の目的と役割 (2) 女性生殖器の解剖と性機能の生理 (3) 婦人科疾患の症状と病態生理	
12		(1) 診療・検査 理学的検査，病理検査，血液検査，画像検査，内視鏡検査 (2) 治療・処置 診療・治療器具，薬物療法，手術	

13	【女性生殖器系】	疾患の理解① 外陰，膣，子宮，卵管，卵巣の疾患	梶田
14		疾患の理解② 月経異常，更年期障害，感染症，不妊症	
15		疾患の理解③ 乳癌	多田

区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
微生物学	1	前期	1	30	講義	必修	
担当教員	早川 智 [医学部(微生物学分野)] 相澤 志保子 [医学部(微生物学分野)] トリン・ズイ・クワン [医学部(微生物学分野)] 高田 和秀 [医学部(微生物学分野)] 高野 智圭 [医学部(微生物学分野)]						
学習目的	微生物とヒトとの関係を理解し、将来co-medical staffとして医療の現場を支えるのに必要な微生物学の知識を習得する。						
到達目標	感染症の予防と治療について説明し、実践できる。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							

準備学習	教科書にない内容を講義するので、教科書の記載事項を予め理解しておくこと。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価	評価内容 終了試験（筆記） 100 %	
教科書	新体系看護学 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕微生物・感染防御学／メヂカルフレンド社		
参考書	標準微生物学 / 医学書院 イラストレテッド免疫学 / 丸善 ナースのための微生物学／水口康雄・中山宏明・南鴨洋一著／南山堂 メモリーノートー看護・微生物学ー／中野壽夫著／廣川書店 クイックマスター 微生物学／奥脇義行・高橋信二著／医学芸術社 標準看護学講座7 病原微生物学／横田健著／金原出版		
回数	授 業 内 容		担当者
1	【微生物学序論】	(1) 感染症の重要性を理解する。 (2) 微生物の種類と特徴について説明できる。 (3) 感染と感染症について説明できる。 (4) 感染・発病を規定する因子について説明できる。 (5) 感染と感染経路について説明できる。 (6) 病原因子について説明できる。 (7) 生体防御因子について説明できる。 (8) 常在細菌叢について説明できる。	早川
2	【免疫学】	免疫応答の基礎 (1) 1次応答と2次応答について説明できる。 (2) 抗原について説明できる。 (3) 免疫不全症候群について説明できる。 (4) 抗体について説明できる。 (5) 補体について説明できる。 (6) 抗原抗体反応について説明できる。 (7) 細胞性免疫と液体性免疫について説明できる。 (8) 移植免疫と腫瘍免疫について説明できる。	
3	【免疫学】	感染防御免疫と免疫病 (1) 感染防御免疫について説明できる。 (2) 予防接種について説明ができる。 (3) 血清療法および免疫グロブリンについて説明できる。 (4) 過敏症について説明できる。 (5) 自己免疫疾患について説明できる。	
4	【細菌学】	細菌の基本的性質 (1) 細菌の大きさ、形、3次元配列について説明できる。 (2) 染色性について説明できる。 (3) 菌体の構造について説明できる。 (4) 菌体の科学組成について説明できる。 (5) 増殖の物理的・化学的環境について説明できる。 (6) 増殖に要求される因子と物質代謝について説明できる。	高野

5		<p>感染症の予防と細菌学的検査法</p> <p>(1) 感染症に対する対応の仕方を説明できる。</p> <p>(2) 感染経路の処置について説明できる。</p> <p>(3) 個人的予防対策法について説明できる。</p> <p>(4) 集団的予防対策について説明できる。</p> <p>(5) 院内感染とその予防法について説明できる。</p> <p>(6) 感染症監視法について説明できる。</p> <p>(7) 顕微鏡を用いた細菌観察法について説明できる。</p> <p>(8) 細菌培養法について説明できる。</p> <p>(9) 細菌の単離と同定法について説明できる。</p> <p>(10) 微生物の保存法について説明できる。</p>	高野
6	【細菌学】	<p>グラム陽性菌</p> <p>(1) グラム陽性菌が引き起こす疾患名を述べることができる。</p> <p>(2) グラム陽性菌の細菌学的な特徴を述べることができる。</p> <p>(3) グラム陽性菌が増殖する培地名を述べることができる。</p> <p>(4) グラム陽性菌検査法について述べることができる。</p>	相澤
7		<p>グラム陰性菌</p> <p>(1) グラム陰性菌が引き起こす疾患名を述べることができる。</p> <p>(2) グラム陰性菌の細菌学的な特徴を述べることができる。</p> <p>(3) グラム陰性菌が増殖する培地名を述べることができる。</p> <p>(4) グラム陰性菌検査法について述べることができる。</p>	
8		<p>リケッチアとクラミジア</p> <p>(1) リケッチアが引き起こす疾患名を述べることができる。</p> <p>(2) リケッチアの細菌学的な特徴を述べることができる。</p> <p>(3) リケッチアが増殖する培地名を述べることができる。</p> <p>(4) リケッチア検査法について述べることができる。</p> <p>(5) クラミジアが引き起こす疾患名を述べることができる。</p> <p>(6) クラミジアの細菌学的な特徴を述べることができる。</p> <p>(7) クラミジアが増殖する培地名を述べることができる。</p> <p>(8) クラミジア検査法について述べることができる。</p>	
9		<p>ウイルスの性質</p> <p>(1) ウイルスの特性と定義について説明できる。</p> <p>(2) ウイルスの構造について説明できる。</p> <p>(3) ウイルスの増殖機構について説明できる。</p> <p>(4) ウイルスの分類について説明できる。</p>	
10	<p>DNAウイルスとその感染</p> <p>(1) DNAウイルスが引き起こす疾患名を述べることができる。</p> <p>(2) DNAウイルスの特徴を述べることができる。</p>		
11	<p>RNAウイルスとその感染</p> <p>(1) RNAウイルスが引き起こす疾患名を述べることができる。</p> <p>(2) RNAウイルスの特徴を述べることができる。</p>		
12	【真菌学】	<p>真菌とその感染</p> <p>(1) 細菌と真菌の違いについて説明できる。</p> <p>(2) 真菌の形態について説明できる。</p> <p>(3) 真菌の培養について説明できる。</p> <p>(4) 真菌の病原性について説明できる。</p> <p>(5) 真菌の化学療法薬について説明できる。</p> <p>(6) 真菌の分類法について説明できる。</p> <p>(7) 下記に属する真菌と引き起こす疾患について説明できる。</p>	トリン・ズイ・クアン

13	【原虫学】	<p>原虫とその感染</p> <p>(1) 原虫の形態について説明できる。</p> <p>(2) 原虫の病原性について説明できる。</p> <p>(3) 原虫の化学療法薬について説明できる。</p> <p>(4) 原虫の分類法について説明できる。</p> <p>(5) 原虫の引き起こす疾患について説明できる。</p>	トリン・ズイ・クアン
14	【感染防御学】	<p>菌消毒と化学療法</p> <p>(1) 滅菌と消毒の違いを説明できる。</p> <p>(2) 代表的な滅菌法を説明できる。</p> <p>(3) 消毒法と消毒薬について説明できる。</p> <p>(4) 消毒薬の効果判定法を説明できる。</p> <p>(5) 抗細菌性化学療法薬と抗生物質について説明できる。</p> <p>(6) 抗真菌性化学療法薬と抗生物質について説明できる。</p> <p>(7) 抗ウイルス性化学療法薬について説明できる。</p> <p>(8) 薬剤感受性試験について説明できる。</p> <p>(9) 抗菌スペクトルについて説明できる。</p> <p>(10) 薬剤耐性菌について説明できる。</p>	高野
15	終了試験および解説		早川

区分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
公衆衛生学	1	後期	2	30	講義	必修
担当教員	兼 板 佳 孝 [医学部(公衆衛生学)] 松 本 悠 貴 [医学部(公衆衛生学)] 大 塚 雄 一 郎 [医学部(公衆衛生学)] 中 込 祥 一 [医学部(公衆衛生学)] 岩 崎 賢 一 [医学部(衛生学)] 鈴 木 健 修 [非常勤講師] 城 戸 尚 治 [非常勤講師] 森 岡 久 尚 [非常勤講師]					
学習目的	保健・医療・福祉従事者として臨床的及び社会的活動を行ううえで必要な下記の点について、それぞれの意義と内容を理解する。 (1)公衆衛生論・衛生統計 (2)疫学“スクリーニング検査”・統計・健康教育 (3)親子保健, 成人・老人保健 (4)感染症対策・産業保健 (5)学校保健・環境保健					
到達目標	(1)公衆衛生の概念及び歴史を理解する。 (2)現在の日本及び世界の各種統計指標を比較する。 (3)疫学の手法を理解し, 実際の研究に応用する。 (4)感染症の概念を理解し, 各種伝染病における対処法を理解する。 (5)労働安全衛生法を中心として職域における健康管理の法的根拠・産業保健・産業医学について理解する。 (6)日本における生活習慣病の実態を把握し, 生活習慣病予防のリスクファクターを理解する。 (7)学校保健法を中心として学校における健康管理状況, 学校伝染病, 学校環境について理解する。 (8)快適な生活環境の維持の面から, 空気, 温度, 照度, 上下水道, 廃棄物について理解する。 (9)第1次予防の観点から健康教育の概念を理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。						

- コミュニケーション力
看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る
- リーダーシップ力
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。
- 省察力
専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）を主な評価対象とするが、出席状況・学習態度などを総合的に判断する	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障制度と生活者の健康 [2] 公衆衛生/医学書院 国民衛生の動向/厚生統計協会	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	序章・1章 公衆衛生を学ぶにあたって・公衆エッセンス (1) 公衆衛生学の重要性を学ぶ	兼板
2	人口と公衆衛生，衛生統計 (1) 衛生統計の資料から世界・日本の現状を学ぶ	中込
3	第3章 公衆衛生のしくみ (1) 公衆衛生のしくみを理解する (2) 医療計画，健康日本21，健やか親子21を学ぶ (3) 国と地方公共団体，保健所，市町村保健センターなどを学ぶ	松本
4	第4章 集団の健康をとらえるための手法―疫学・保健統計 (1) 疫学について理解する (2) 有病率，罹患率，平均寿命，平均余命，健康寿命を学ぶ (3) 公衆衛生学の場合での疫学などを学ぶ	
5	第5章 環境と健康 (1) 地球規模の環境と健康として環境汚染とその健康被害を学ぶ (2) 身の回りの環境と健康として室内環境とその健康被害を学ぶ (3) 食品管理，食品安全確保対策を学ぶ (4) 家庭用品の安全対策，ごみ・廃棄物問題，バリアフリーなどを学ぶ	岩崎
6	第8章B 地域における公衆衛生の実践・母子保健① (1) 母子保健について理解する (2) 母子保健統計，母子保健の変遷を学ぶ (3) 母子保健の活動，しくみなどを学ぶ	森岡
7	第8章B 地域における公衆衛生の実践・母子保健② (1) 母体保護，育児支援，児童虐待防止のための活動を学ぶ (2) その他の母子保健活動などを学ぶ	
8	第9章 学校と健康 (1) 学校保健について理解する (2) 健康課題を学ぶ (3) 健康診断，学校感染症などを学ぶ	大塚

9	第8章C, D 地域における公衆衛生の実践 成人保健・高齢者保健① (1) 成人保健について理解する (2) 疾病予防, ヘルスプロモーションを学ぶ (3) 生活習慣病対策, がん対策, 健康教育などについて学ぶ	中込
10	第8章C, D 地域における公衆衛生の実践 成人保健・高齢者保健② (1) 高齢者保健について理解する (2) 高齢者保健の制度や課題などを学ぶ	
11	第6章 感染症とその予防対策 (1) 感染症法とその予防対策について学ぶ (2) 院内感染とその対策を学ぶ (3) 公衆衛生上の重要な感染症などを学ぶ	鈴木
12	第7章 国際保健 (1) 国際保健について理解する (2) 国際保健に関する組織を学ぶ (3) 国際保健と日本などについて学ぶ	
13	第8章E, G 地域保健 精神保健・障害者保健・難病保健 (1) 精神保健について理解する (2) 制度や精神障害者の医療などを学ぶ (3) 難病支援・障害者支援などを学ぶ	大塚
14	第10章・11章 職場と健康 健康危機管理・災害保健① (1) 産業保健について理解する (2) 労働者の健康問題と労働関連法規の変遷を学ぶ (3) 労働安全衛生法に基づく健康管理などを学ぶ	城戸
15	第10章・11章 職場と健康 健康危機管理・災害保健② (1) 産業保健活動と今後の課題を学ぶ (2) 健康危機管理, 災害保健などを学ぶ	

※順序は変更する場合があります。

区分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
社会福祉 (社会福祉・社会保障)	1	後期	2	30	講義	必修
担当教員	小 櫃 俊 介 [非常勤講師] 野 村 浩 明 [板橋病院(医療福祉相談室)] 佐 藤 佳 奈 [板橋病院(医療福祉相談室)]					
学習目的	社会福祉・社会保障の基本、制度、分野とサービス、実践、医療・看護、歴史について、全般に渡り理解する。					
到達目標	(1) 社会福祉の成り立ちとその理由を理解する。 (2) 社会の変化と課題からみる社会福祉を理解する。 (3) 社会福祉の全体像を理解する。 (4) 社会福祉の対象者を理解する。 (5) 保健、医療、社会福祉の相互性を理解する。 (6) 社会福祉と看護師の役割を理解する。 (7) 今後の社会福祉と専門性を考える。 (8) 社会福祉を理解し、看護との関連について理解を深める。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	予習30分 復習30分とする。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）・授業態度・レポート等により、総合的に評価する。	
教科書	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 メディカ出版	
参考書	授業資料は、随時配付いたします。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	社会福祉の概要	小 櫃
2	社会福祉の成り立ち 英国の生活課題	
3	社会福祉の変遷 英国の支援・米国の社会福祉	
4	日本の社会福祉の歴史	
5	現在社会と社会福祉の対象	
6	児童・家族と社会福祉	
7	障害者と社会福祉 ノーマライゼーション	
8	高齢者と社会福祉 地域包括ケアシステム 介護保険等	
9	貧困と社会福祉	
10	社会福祉の諸制度	
11	社会福祉の動向 など	
12	まとめ	
13	(1) 対人援助の学問としての社会福祉について理解する。 「対人援助とは何か」という学習を通じて科学としての社会福祉を理解する。また、看護も対人援助の学問であることを理解する。 (2) ソーシャルケースワークの技法について学ぶ。 バイステックのケースワークの七原則を通じて「個」としての人間について理解する。	野村
14	(3) 医療・看護を受ける人びとの生活問題について理解する。 「病い」とともにある患者・家族について理解する。 (4) 医療におけるソーシャルワーカーの役割と業務について学習し、チーム医療についての理解を深める。	
15	(5) 看護職の専門職化の歩みに触れながらMSWが看護とどう連携して動いているか事例を通して学習する。	佐藤

*授業の進度をふくめ、状況により、内容が変わる事があります。

区 分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度					R 2 (2 0 2 0) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
関係法規	2	前期	2	30	講義	必修	
担当教員	井 谷 修 [医学部 (公衆衛生学)] 松 本 悠 貴 [医学部 (公衆衛生学)] 大 塚 雄一郎 [医学部 (公衆衛生学)] 小 川 洋二郎 [医学部 (衛生学)] 鈴 木 健 修 [非常勤講師] 城 戸 尚 治 [非常勤講師] 須 賀 雅 彦 [非常勤講師] 勝 木 美佐子 [非常勤講師]						
学習目的	1) 医療従事者として業務を行う上で必要とされる法令・法規について理解する。 2) 公衆衛生を法令・法規体系毎に整理し再度学習するor復習する。						
到達目標	(1) わが国の衛生行政組織及び法体系を理解する。 (2) 医療衛生法規において医療職の関連する法規を、保健師助産師看護師法を中心に理解する。 (3) 医療施設法規及び業務法規について理解する。 (4) 公衆衛生法規においては保健衛生法規を中心に予防衛生法規、環境衛生法規を加えて理解する。 (5) 年齢の推移に合わせて、親子保健、学校保健、成人・老人保健、産業保健、社会保障社会福祉 (介護保険制度) に関連した法規を理解する。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）を主な評価対象とするが、出席状況・学習態度などを総合的に判断する。	
教科書	ナーシング・グラフィカ 医療関係法規 健康支援と社会保障④ メディカ出版	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	関係法規 序論 (1) 法体系について理解する	井 谷
2	保健衛生法規 (1) 地域保健法，健康増進法などを学ぶ	松 本
3	予防衛生法規 (1) 感染症法，予防接種法などを学ぶ	
4	環境衛生法規 (1) 食品衛生法を学ぶ (2) 水道法，下予防衛生法規 (3) 環境基本法，大気汚染防止法，水質汚濁防止法などを学ぶ	小 川
5	学校保健法規 (1) 学校保健安全法などを学ぶ	城 戸
6	社会保障関係法規 (1) 健康保険，国民健康保険法 (2) 障害者基本法，障害者総合支援法，難病法などを学ぶ	鈴 木
7	社会福祉衛生法規 (1) 社会福祉法，生活保護法などを学ぶ	
8	医務衛生法規① (1) 保健師助産師看護師法，医師法などを学ぶ社会福祉衛生法規	須 賀
9	医務衛生法規② (1) 医療法，臓器移植法などを学ぶ	
10	精神保健 (1) 精神保健福祉法，精神保健福祉士法などを学ぶ	松 本
11	薬務衛生法規 (1) 医薬品医療機器等法，麻薬取締法などを学ぶ	大 塚
12	母子保健関係法規 (1) 母子保健法，母体保護法などを学ぶ	松 本
13	老人保健関係法規 (1) 老人福祉法，介護保険法，高齢者虐待防止法などを学ぶ	
14	労働衛生法規① (1) 労働基準法，労働安全衛生法 (2) 労災保険法などを学ぶ	勝 木
15	労働衛生法規② (1) 男女雇用機会均等法 (2) 育児介護休業法，看護師等人材確保法などを学ぶ	勝 木

※順序は変更する場合があります。

專門分野 I

基礎看護学

看護の対象の理解，人間のライフサイクルにおける健康の意義，保健医療福祉における看護の機能と役割について理解する。また看護実践の基礎となる知識，技術，態度を習得する。

これらの学びは各領域で活用され深められていく。

区分	専門基礎分野 I				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護学概論 I	1	前期	1	30	講義 演習 実験実習校外	必修
担当教員	大橋初枝 [看護専門学校]					
学習目的	看護とは何か、看護の基本となる概念・看護の役割について学ぶ。 看護活動の実際を見学し、看護への学習意欲を図ると共に関心を高める。					
到達目標	(1) 看護とは何かを学び、看護の役割と機能について理解できる。 (2) 看護技術の特性について説明できる。 (3) 看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)を説明できる。 (4) 生活者としての人間を理解し、その人らしい生活を援助することの重要性を理解できる。 (5) チーム医療に携わるさまざまな職種が理解できる。 (6) 看護活動の実際を見学し、看護の役割・機能を理解できる。 (7) 看護の歴史の変遷を知り、看護職の社会的位置づけについて説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	授業の予習・復習として、1時間程度の自主学習をし、授業に臨む。 病院見学実習については、見学実習前後の課題に取り組み参加する。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）80% レポート課題：20%		
教科書	系統看護学講座，専門分野 I，看護学概論，基礎看護学①／医学書院 系統看護学講座，専門分野 I，基礎看護学〔2〕，基礎看護学技術 I／医学書院 フロレンス・ナイチンゲール著，湯槇ます他訳：看護覚え書，改訳第6版／現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます他訳：看護の基本となるもの／日本看護協会出版会 星野富弘著：愛、深き淵より。新版／立風書房		
参考書	適宜提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 看護と看護学	講義	大橋
2	2. 看護技術とは 1) 看護技術とは何か 2) 技術と技能の関連	講義	
3			
4	3. 看護の歴史の変遷 1) 職業的看護の芽生え，看護職の変遷 2) 第二次世界大戦以降の日本の看護 3) 看護教育の動向	講義	
5	4. 看護の対象の理解 5. 看護の主要概念：「人間」「健康」「環境」「看護」 1) G・W学習 テーマ：看護の主要概念を理解する。	演習	
6			
7			
8	2) G・Wの発表：看護学の主要概念	演習	
9	6. 看護の役割と機能 1) 看護ケア 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 ①看護過程 ②クリティカルシンキング ③EBN ④看護研究	講義	
10			
11	7. 保健・医療・福祉システムチーム医療における看護の役割	講義	
12	8. 病院見学実習 目的 ①入院患者と入院生活環境について理解する。 ②看護活動の実際について理解する。	実験実習 郊外	
13			
14			
15	9. 病院見学実習のまとめ G・W／発表	演習	

区分	専門基礎分野 I				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護学概論Ⅱ	1	後期	1	15	講義 演習	必修
担当教員	大橋初枝 [看護専門学校]					
学習目的	看護倫理・看護と法律・看護理論を学び、社会の中での看護の位置づけや役割を理解する。					
到達目標	(1) 看護実践に必要な保健師助産師看護師法について理解する。 (2) 看護の専門職化への動向を学び、看護独自の役割を説明できる。 (3) 看護実践における倫理的判断に必要な基礎的な判断基準について説明できる。 (4) 実践科学としての看護に必要な看護理論の基礎が理解できる。 (5) 看護を取り巻く社会的な動向とこれからの看護を考えることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	授業の予習・復習として、1時間程度の自主学習をし、授業に臨む。 4回～6回の看護理論については、事前課題に取り組み参加する。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）80% レポート課題：20%		
教科書	系統看護学講座，専門分野 I，看護学概論，基礎看護学①／医学書院 城ヶ端初子：やさしい看護理論，改定2版，職場で活かせるベースの考え方／メデイカ出版 東京都医科大学看護専門学校著：よくわかる看護者の倫理綱領／照林社		
参考書	適宜提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 看護と法 1) 保健師助産師看護師法 2. 看護の専門職化	講義	大橋
2	3. 看護における倫理 1) 看護師の倫理規定・倫理綱領 2) 患者の権利	講義	
3	3) 倫理的判断に必要な判断基準 ①臨床看護の場で生じやすい倫理的な問題	講義	
4	4. 看護理論 1) 看護理論の意義と活用 ①ナイチンゲール②ヘンダーソン ③オレム④ロイ⑤ベナー	講義	
5	2) 看護理論GW：ヘンダーソンのニード論を理解する。	演習	
6			
7	5. 看護提供のしくみ 1) 看護の提供の場 2) 看護をめぐる制度と政策 3) 看護サービスの管理 6. これからの看護の課題と展望	講義	
	終了試験		

区 分	専門分野 I				R 2 (2 0 2 0) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法 I - 1	1	前期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	小倉 英里 [看護専門学校] 浦川 寿美子 [看護専門学校] 正路 裕子 [看護専門学校]					
学習目的	対象を理解し、対象の安全・安楽・自立を基本とする看護実践ができるための基礎的技術を習得する。					
到達目標	共通基本技術の原則と方法を理解し実施できる。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	<p>1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。</p> <p>1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学などの学習をする。</p> <p>2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。</p> <p>2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。</p>			
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価</p> <p>評価内容 筆記試験及び演習・校内実習の取り組みなど総合的に評価する。(100%)</p> <p>※評価割合は、各講師から開講時に明示される</p>			
教科書	<p>系統看護学講座, 専門分野 I 基礎看護学[2], 基礎看護技術 I /医学書院</p> <p>系統看護学講座, 専門分野 I 基礎看護学[3], 基礎看護技術 II /医学書院</p> <p>看護技術ベーシックス /サイオ出版</p> <p>写真でわかる基礎看護技術アドバンス /インターメディカ</p>			
参考書	適宜提示			
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	安全・安楽	看護における安全・安楽の意義と看護師の役割	講義	小倉
2		ボディメカニクス, 体位の基本	講義	
3		同一体位が心身に与える影響	講義	
4		安全・安楽を守る技術	校内実習	
5	コミュニケーション・指導	看護におけるコミュニケーションとは(1)	講義	浦川
6		看護におけるコミュニケーションとは(2)	講義	
7		指導技術とは	講義	
8		指導技術の方法	講義	
9	感染予防	感染防止の基礎知識	講義	正路
10		感染予防の重要性とその方法	講義	
11		洗浄・滅菌・消毒	講義	
12		無菌操作	講義	
13		無菌操作の実際(1) 鑷子の操作, カストの取り扱い, 滅菌手袋の装着	校内実習	
14		無菌操作の実際(2) ガウンテクニック, 消毒法	校内実習	
15		医療廃棄物の取り扱い 包帯法	講義	

区分	専門分野 I				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法 I-2	1	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	小倉 英里 [看護専門学校]					
学習目的	看護の対象となる人に適切な看護を行うために、看護の視点から対象の健康状態(身体面)を客観的かつ正確に把握することができる。また、身体情報の収集の仕方やアセスメントについて理解を深めることができる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践に必要なフィジカル・アセスメントの意義を理解する。 2. 対象の基本情報を聞き取り、および主観的情報を得るための看護面接について理解する。 3. 対象の系統的な観察、問診、視診、触診、打診、聴診により、対象の健康状態を身体的側面から把握し、評価する技術を習得する。 4. 問診、視診、触診、打診、聴診から得られた情報をもとに健康状態(身体面)のアセスメントを考慮することができる。 5. バイタルサイン測定の意味を理解し、技術が実施できる。 6. 健康状態を評価する対象者への気遣いができる。 					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	<p>1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。</p> <p>1) 講義においては、各單元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学などの学習をする。</p> <p>2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。</p> <p>2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。</p>		
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価</p> <p>評価内容 終了試験(筆記) 80% 課題レポート 20%</p>		
教科書	<p>系統看護学講座, 専門分野 I 基礎看護学[2], 基礎看護技術 I / 医学書院</p> <p>系統看護学講座, 専門分野 I 基礎看護学[3], 基礎看護技術 II / 医学書院</p> <p>看護技術ベーシックス / サイオ出版</p> <p>写真でわかるフィジカルアセスメント / インターメディカ</p>		
参考書	適宜提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	フィジカルアセスメントの基本と必要な技術	講義	小倉
2	一般状態のアセスメント1 (バイタルサイン, 身体計測)	講義	
3	一般状態のアセスメント2	講義	
4	一般状態のアセスメント3	講義	
5	バイタルサイン測定の実際	校内実習	
6	皮膚・爪・目のアセスメント	講義	
7	呼吸器系のアセスメント	講義	
8	呼吸器系のアセスメントの実際	校内実習	
9	循環器(心臓・血管)系のアセスメント	講義	
10	循環器(心臓・血管)系のアセスメントの実際	校内実習	
11	シミュレーションモデルを使用し, 呼吸器系, 循環器系(心臓・血管系)のアセスメントの実際	校内実習	
12	腹部・消化器系のアセスメント	講義	
13	腹部・消化器系のアセスメントの実際	校内実習	
14	シミュレーションモデルを使用し対象の症状に合わせたフィジカルアセスメントの実際	校内実習	
15	まとめ・終了試験	講義	

区分	専門分野 I				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法 I - 3	1	後期	1	30	演習	必修
担当教員	越智 知子 [看護専門学校]					
学習目的	看護を实践するうえで必要な看護過程の基礎理論を理解し、事例を用いて看護過程の展開の技術を習得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における看護過程の意義を理解できる。 2. 看護過程の構成要素と各段階が理解できる。 3. 事例を用いて、看護過程が展開できる。 4. 記録・報告の目的と方法について理解できる。 5. 看護診断の定義と位置づけが理解できる。 					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を实践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学などの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。 					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）80% 課題レポート20%		
教科書	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 [2]，医学書院，2019 2) 看護過程冊子 3) 高木永子：看護過程に沿った対症看護，学研，2018		
参考書	1) 古橋洋子：はじめて学ぶ看護過程，医学書院，2017 2) 石川ふみよ：看護過程の解体新書，学研，2015 3) 阿部俊子：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図，中央法規，2014 4) 黒田裕子：しっかり身につく看護過程 改訂第2版，昭林社，2018 5) 任 和子：実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド（プチナースBOOKS），昭林社，2015		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	I. 看護過程とは 1. 看護過程の意義 2. 看護過程と問題解決法 看護過程の5段階 3. 看護過程とクリティカル・シンキング 4. 看護過程と看護理論の関係	演習	越智
2	II. 看護過程の展開 1. アセスメント 1) 情報収集と観察 (1) ＜グループ学習＞ ※情報の持つ意味		
3	2) 情報収集と観察 (2) ※課題発表		
4	3) 情報整理と情報分析 (1) ※「アセスメントシート」情報整理 「関連図」作成		
5			
6	4) 情報整理と情報分析 (2) ※「関連図」完成 ・解説		
7	6) 情報整理と情報分析 (3) ※「アセスメントシート」 作成・解説		
8			
9	2. 問題の明確化 ※「問題リスト」作成		
10	3. 看護計画立案 ※「看護計画」作成		
11	3. 看護計画立案 ※「看護計画」解説		
12	4. 実施 5. 評価		
13	III. 記録・報告		
14	IV. 看護診断		
15	終了試験・まとめ		

区分	専門分野 I				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法 I-4	1	前期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	平野裕子 [看護専門学校] 小倉英里 [看護専門学校]					
学習目的	対象を理解し、対象の安全・安楽・自立を基本とする看護実践ができるための基礎的技術を習得する。					
到達目標	共通基本技術の原則と方法を理解し実施できる。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						
準備学習	<p>1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。</p> <p>1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学などの学習をする。</p> <p>2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。</p> <p>2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。</p>					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験及び演習・校内実習の取り組みなど総合的に評価する。(100%) ※評価割合は、各講師から開講時に明示される			
教科書	系統看護学講座, 専門分野 I 基礎看護学[3], 基礎看護技術Ⅱ/医学書院 看護技術ベーシックス/サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス/インターメディカ			
参考書	適宜提示			
回数	授業内容		授業方法	担当者
1	環境	環境とは(内部環境と外部環境)	講義	平野
2		生活環境の調整の意義とその方法	講義	
3		ベッドメイキングの基礎知識 リネンのたたみ方の実際	校内実習	
4		ベッドメイキングの実際	校内実習	
5		ベッドメイキングの技術テスト	校内実習	
6		臥床患者のシーツ交換	講義	
7		臥床患者のシーツ交換の実際	校内実習	
8		病室環境整備と安全	講義	
9		病室環境整備の方法とその実際	講義	
10	活動と休息	活動と休息の意義	講義	小倉
11		基本的活動の援助	講義	
12		体位変換の援助の実際	校内実習	
13		移動・移送の援助	講義	
14		移動・移送の援助の実際	校内実習	
15		休息への援助	講義	

区 分	専門分野 I				R 2 (2 0 2 0) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法 I - 5	1	前期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	越智知子 [看護専門学校]					
学習目的	対象を理解し、対象の安全・安楽・自立を基本とする看護実践ができるための基礎的技術を習得する。					
到達目標	1. 日常生活援助技術の原則と方法を理解し実施できる。 1) 衣服および衣生活援助の意義・目的を述べることができる。 2) 人間にとっての清潔および清潔援助の意義・目的を述べることができる。 3) 身体各部および衣服の清潔を保持するための援助方法を習得することができる。 4) 清潔援助をうける患者の心理を述べることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	<p>1. 授業の予習・復習として2時間程度の自主学習が望まれる。</p> <p>1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学・基礎看護学・看護の方法Ⅰなどの学習をする。</p> <p>2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。</p> <p>2. 教科書・配布される資料等を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。</p>
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価</p> <p>評価内容 筆記試験及び演習・校内実習の取り組みなど総合的に評価する。(100%) ※評価割合は各講師から開講時に明示される。</p> <p>・看護の方法Ⅰ－5（清潔・衣生活）100点</p>
教科書	<p>系統看護学講座，専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3]，基礎看護技術Ⅱ/医学書院</p> <p>看護技術ベーシックス/サイオ出版</p> <p>写真でわかる基礎看護技術アドバンス/インターメディカ</p>
参考書	適宜提示

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	健康生活における清潔の意義，清潔援助の効果	講義	越智
2	健康生活における衣生活の意義	講義	
3	清潔への援助（1） 入浴・シャワー浴の援助方法と留意点	講義	
4	清潔への援助（2） 全身・部分清拭の援助方法と留意点	講義	
5	皮膚の清潔援助の実際（全身清拭）	校内実習	
6			
7	清潔への援助方法（3） 部分浴と粘膜の清潔保持と留意点	講義	
8	皮膚の清潔援助の実際（足浴）	講義	
9	陰部の清潔援助の実際（陰部洗浄）	講義	
10	健康障害のある対象への援助	講義	
11	頭部の清潔法	講義	
12	頭皮・頭髪の清潔法の実際（ケリーパッドを用いた洗髪）	校内実習	
13			
14	清潔への援助方法（4）洗面・整容の援助方法と留意点	講義	
15	まとめ・終了試験	講義	

区分	専門分野 I				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法 I-6	1	後期	1	30	講義 校内実習	必修
担当教員	平野 裕子 [看護専門学校] 浦川 寿美子 [看護専門学校]					
学習目的	対象を理解し、対象の安全・安楽・自立を基本とする看護実践ができるための基礎的技術を習得する。					
到達目標	1. 食と排泄援助に必要な基礎的知識を理解する。 2. 食と排泄援助における看護師の役割を理解する。 3. 食と排泄援助に必要な看護技術を習得する。 4. 食と排泄援助を受ける対象の心理を理解し配慮ある対応について考える。 5. 嘔気(悪心)、嘔吐、下痢、便秘時の看護について理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	1. 教科書、配布資料等を基に予習をし、疑問点を明らかにして授業に臨む。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学などの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 予習：1時間程度 復習：1時間程度					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ / 医学書院		
参考書	看護技術ベーシックス / サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス / インターメディカ		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	健康と食事	講義	浦川
2	食事援助の基本	講義	
3	食事援助の実際	校内実習	
4	健康と排泄	講義	平野
5	自然排泄への援助	講義	
6	排泄援助の基本	講義	
7	排泄援助の実際(尿器, 便器, おむつ)	校内実習	
8			
9	排便障害のある患者への援助	講義	
10	排便を促す援助の実際 (グリセリン浣腸)	校内実習	
11	排尿障害のある患者への援助	講義	
12	排便を促す援助の実際 (一時的導尿)	校内実習	
13	食事・栄養療法を必要とする患者の看護 嘔気(悪心)・嘔吐のある患者の看護	講義	
14	経鼻経管栄養法の実際	校内実習	
15	まとめ 終了試験	講義	

区分	専門基礎分野 I				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法Ⅱ-1	1	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	平野裕子 [看護専門学校] 上川直子 [看護専門学校] 梅田富子 [板橋病院]					
学習目的	健康障害を持つ対象の疾病の経過や症状，実施される治療・処置を理解し，対象に必要な看護を行うための基礎的な知識を習得する。					
到達目標	診療の援助技術の原則と方法を理解し，実施できる。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い，科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち，関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として，生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	<p>1. 授業の予習・復習として2時間程度の自主学習が望まれる。</p> <p>1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学・基礎看護学・看護の方法Ⅰなどの学習をする。</p> <p>2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。</p> <p>2. 教科書・配布される資料等を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。</p>		
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価</p> <p>評価内容 筆記試験及び演習・校内実習の取り組みなど総合的に評価する。(100%) ※評価割合は各講師から開講時に明示される。</p> <p>・看護の方法Ⅱ-1 (診療の補助技術：与薬，創傷処置，検査) 100点</p>		
教科書	<p>系統看護学講座，専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3]，基礎看護技術Ⅱ/医学書院 看護技術ベーシックス/サイオ出版</p>		
参考書	<p>写真でわかる基礎看護技術アドバンス/インターメディカ</p>		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	与薬と看護	講義	平野
2	与薬方法の種類と特徴	講義	
3	注射法 (1) 皮内・皮下・筋肉内注射	講義	
4	注射法 (2) 静脈内・点滴静脈内注射	講義	
5	注射方法の実際 (薬液の準備～実施)	校内実習	
6			
7	与薬と医療安全	講義	梅田
8	創傷処置を必要とする患者の看護 (1)	講義	
9	創傷処置を必要とする患者の看護 (2)	講義	
10	検査の目的と看護師の役割	講義	上川
11	検体検査・生体検査の目的と方法	講義	
12	静脈血採血法	講義	
13	静脈血採血法の実際	校内実習	
14	機能検査の目的と方法 (1)	講義	
15	機能検査の目的と方法 (2)	講義	

区分	専門分野 I				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法Ⅱ-2	1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	越智 知子 [看護専門学校] 正路 裕子 [看護専門学校] 小倉 英里 [看護専門学校]					
学習目的	健康障害を持つ対象の疾病の経過や症状、実施される治療・処置を理解し、対象に適切な看護を行うための基礎的な知識を習得する。					
到達目標	1. 健康状態の経過に基づく看護を理解する。 2. 主要症状を示す患者の看護を理解する。 3. 治療・処置を受ける患者の看護を理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書・配布資料等を基に予習をし、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。講義においては関係する解剖生理学・病態生理学などの学習をする。 予習：1時間程度 復習：1時間程度					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	新体系看護学全書 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論／メヂカルフレンド社 看護過程に沿った対症看護―病態生理と看護のポイント／学研 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ／医学書院		
参考書	看護技術ベーシックス／サイオ出版 症状別看護ケア関連図／中央法規 根拠が分かる症状別看護過程／南江堂 看護生理学／メヂカルフレンド社		
回数	授 業 内 容		担当者
1	経過別看護	経過とは 急性期・回復期・慢性期・終末期の定義と看護の特徴	越智
2	症状別看護	発熱時の看護（1）	正路
3		発熱時の看護（2）	
4		呼吸困難のある患者の看護（1）	
5		呼吸困難のある患者の看護（2）	
6		意識障害のある患者の看護	
7		痛みのある患者の看護	
8		浮腫のある患者の看護	
9		出血傾向のある患者の看護	
10	治療・処置別看護	安静療法を必要とする患者の看護	小倉
11		薬物・輸液療法を必要とする患者の看護	
12		輸血療法を必要とする患者の看護	
13		化学療法を必要とする患者の看護	
14		放射線療法を必要とする患者の看護	
15		リハビリテーションを必要とする患者の看護	

区分	専門分野 I				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
基礎看護学 看護の方法Ⅲ	1	後期	1	15	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	平野 裕子 [看護専門学校] 他専任教員					
学習目的	基礎看護技術を総合的に実施することによって、基礎看護技術の基本を身につけることができる。					
到達目標	(1) 対象の状態を考慮して、原理・原則に基づいた援助方法が考えられる。 (2) 安全・安楽を考慮した基礎看護技術が実施できる。 (3) 必要な観察・報告ができる。 (4) 積極的に技術練習に取り組むことができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	1. 基礎看護技術の原理・原則、観察・報告に関する復習をしておく。 2. 技術グループ学習に積極的に取り組み、基本動作を身につけておくことが望ましい。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 実技試験100%（出席，受講態度を含む）		
教科書	特になし		
参考書	系統看護学講座， 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]，基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座， 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]，基礎看護技術Ⅱ／医学書院 看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス／インターメディカ		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	オリエンテーション	講義	平野
2	看護技術練習1	校内実習	担当教員
3	看護技術練習2	校内実習	
4	看護技術練習3	校内実習	
5	看護技術練習4	校内実習	
6	看護技術練習5	校内実習	
7	看護技術練習6	校内実習	
8	実技試験	校内実習	

專門分野Ⅱ

成人看護学

成人期は人生の大半を占め、身体的・精神的・社会的にも複雑で多様である。身体的には成長・成熟・衰退と変化し、精神的・社会的には役割や責任が変化し、これらの変化に伴い心身のストレスや危機状態に陥りやすい。したがって成人期にある対象を理解し、あらゆる健康レベルにある成人とその家族の看護に必要な知識・技能・態度を習得する。

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
成人看護学概論	1	後期	1	15	講義 演習	必修
担当教員	齊藤 美鈴 [看護専門学校]					
学習目的	ライフサイクルにおける成人期の対象を理解し、看護の役割を学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期・壮年期・向老期の身体的、精神的、社会的特徴と発達段階を理解することができる。 2. 成人期に生きる意味を多面的に捉えることができる。 3. 成人期の健康に及ぼす要因と健康問題を理解することができる。 4. 地域や職場における成人の健康保持・増進活動を理解することができる。 5. 成人看護の役割を理解することができる。 					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	各回予習・復習として2時間程度の自主学習が望ましい。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記) 80% レポート, GW参加度, 受講態度 20%		
教科書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 /メディカ出版		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学概論 /医学書院 新体系看護学全書14 成人看護学① 成人看護学総論 成人保健 /メディカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ24 成人看護学 セルフケアの再獲得 /MCメディカ出版 ナーシング・グラフィカ25 成人看護学 セルフマネジメント /MCメディカ出版 成人看護学 成人看護学総論 /ヌーベルヒロカワ		
回数	授業内容	授業方法	担当者
1	I. 成人看護学の概念と特性 1. 成人の定義 2. 成人期における対象の捉え方 3. 成人の発達課題と特徴	演習	齊藤
2		講義	
3	II. 地域や職場における健康保持・増進の現状と課題	演習	
4			
5	III. 成人期の保健・医療・福祉における動向と課題 1. 成人期における健康障害の特徴 2. 健康予防の現状と対応	講義	
6	IV. 成人期にある人への看護援助 1. 成人看護に使用される理論・モデル 2. 成人におけるヘルスアセスメント 3. 成人学習者の特性	講義	
7		講義	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
成人看護学 看護の方法Ⅰ-1	2	前期	1	15	講義	必修
担当教員	齊藤 美鈴 [看護専門学校]					
学習目的	急性期における対象の特徴と看護が理解できる。					
到達目標	(1)周手術期の看護の目的と対象の特徴が理解できる。 (2)術前の患者心理を理解し、不安緩和のための援助の必要性が理解できる。 (3)術前看護の必要性と援助方法が理解できる。 (4)術中看護の必要性と援助方法が理解できる。 (5)術後の回復過程における援助内容が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	解剖学Ⅰ・Ⅱと生理学Ⅰ・Ⅱ，病態生理学Ⅰ～Ⅴおよび病理学の内容について復習しておく。各授業の予習，復習として2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：筆記試験 (100%)	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護総論 /医学書院 術中／術後の生体反応と急性期看護 /医歯薬出版社 看護学テキストNICE 成人看護技術 /南江堂	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	I. 周手術期看護師の役割 II. 手術前の患者の看護 1. 対象の心理・身体状態の把握と援助	齊藤
2	II. 手術前の看護 1. 手術前の訓練と処置 III. 手術中の看護	
3	IV. 手術直後の看護 1. 手術による生体機能の変化 2. 術直後の状態変化と看護	
4	V. 術後合併症に対する看護 1. 循環器合併症予防のための看護	
5	2. 呼吸器合併症予防のための看護	
6	3. 腎・泌尿器合併症予防のための看護 4. 消化器合併症予防のための看護 5. 中枢神経系合併症予防のための看護	
7	6. 創部の感染・縫合不全予防のための看護 VI. 自己管理に向けた看護 1. 形態機能の変化への適応に対する援助 2. 退院指導と継続看護	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
成人看護学 看護の方法Ⅰ-2	2	後期	1	30	講義	必修
担当教員	齊藤 美鈴 [看護専門学校] 山田 尚子 [板橋病院看護部]					
学習目的	急性期における対象の特性と看護が理解できる。					
到達目標	(1) 各術式によって生じる身体イメージの変化および身体機能の変化を理解できる。 (2) 適応された術式が患者に与える影響を理解できる。 (3) 主要な手術を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。 (4) 主要な術式に関連した基本的な検査・処置時の援助方法が理解できる。 (5) 救急状態にある患者への援助の必要性と方法が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	解剖学Ⅰ・Ⅱと生理学Ⅰ・Ⅱ，病態生理学Ⅰ～Ⅴおよび病理学の内容について復習しておく。各授業の予習，復習として2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：筆記試験 (100%)	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護総論 /医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 臨床外科看護各論 /医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 消化器・女性生殖器・呼吸器・脳・神経 /医学書院 術中／術後の生体反応と急性期看護 /医歯薬出版社 看護学テキストNICE 成人看護技術 /南江堂	
参考図書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	I. 消化・吸収機能障害のある患者への看護 1. 胃切除術を受ける患者の看護 2. 腸切除術を受ける患者の看護	齊藤
2		
3		
4		
5	II. 排泄機能障害のある患者の看護 1. 人工肛門造設術を受ける患者の看護 2. 人工膀胱造設術を受ける患者の看護	山田
6		
7	III. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 1. 肝切除術を受ける患者の看護 2. 腹腔鏡下胆嚢摘出術を受ける患者の看護	齊藤
8		
9	IV. 性機能障害のある患者の看護 1. 乳房切除術を受ける患者の看護 2. 子宮全摘出術を受ける患者の看護	
10		
11	V. 呼吸機能障害のある患者の看護 1. 肺切除術を受ける患者の看護	
12		
13	VI. 認知機能・コミュニケーション障害の患者の看護 1. 脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術を受ける患者の看護	
14		
15	VII. 救急救命時の看護	

区分	専門分野Ⅱ					R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
成人看護学 看護の方法Ⅰ-3	2	後期	1	15	講義	必修	
担当教員	菅原 紀子 [看護専門学校] 中山 華絵 [看護専門学校]						
学習目的	回復期における対象の特徴と看護を理解する。						
到達目標	1. 回復期にある患者の身体的、精神的、社会的特徴と問題が理解できる。 2. 運動機能障害のある患者の症状、検査、治療に伴う看護が説明できる。 3. 脳神経障害のある患者の症状、検査、治療に伴う看護が説明できる。 4. 障害を持ちながら回復過程をたどる患者の看護が説明できる。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							
準備学習	解剖学Ⅰ・Ⅱ，生理学Ⅰ・Ⅱ，病態生理学Ⅳで学習した内容を想起し整理しておく。 各授業の予習復習として，2時間程度の自主学習が望ましい。						

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経/医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護/医学書院 看護過程に沿った対症看護/学研 看護学テキストNiCE 成人看護技術/南江堂	
参考書	整形外科疾患別マニュアル/メディカ出版 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム/医学書院 脳神経ナーシングマップ/メディカ出版 脳神経外科看護のポイント/メディカ出版 病気がみえる Vol.7 脳・神経/MEDIC MEDIA	
回数	授 業 内 容	担当者
1	I. 回復期にある患者の看護 1. 回復期の特徴 2. 患者の特徴と看護師の役割	菅原
2	II. 運動機能障害のある患者の看護 1. 機能障害のアセスメント 1) 良肢位 2) ポジショニング 3) アライメント	
3	III. 運動器系の主な検査・治療と看護 1. 脊髄造影 2. 保存療法 1) ギプス固定 2) 牽引	
4	IV. 運動器疾患患者の看護 1. 人工関節置換術を受ける患者の看護 2. 脊椎疾患患者の看護	
5	V. 脳・神経機能障害のある患者の看護 1. 機能障害のアセスメント 1)意識障害 2)高次脳機能障害 3)運動機能障害 4)感覚機能障害	中山
6	VI. 脳・神経系の主な検査と看護 1. 髄液検査 2. 脳波 3. 脳血管造影	
7	VII. 脳・神経疾患患者の看護 1. 脳血管障害患者の看護	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
成人看護学 看護の方法Ⅱ-1	2	前期	1	30	講義	必修
担当教員	菅原 紀子 [看護専門学校]					
学習目的	慢性期における対象の特徴と看護を理解する。					
到達目標	1. 呼吸機能障害のある患者の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 2. 循環機能障害のある患者の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 3. 生体防御機能障害のある患者の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 4. 免疫不全のある患者の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い，科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち，関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として，生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	解剖学1・Ⅱ，生理学1・Ⅱ，病態生理学Ⅰ・Ⅱで学習した内容を想起し整理しておく。 各授業の予習復習として，2時間程度の自主学習が望ましい。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症／医学書院 看護学テキストNiCE 成人看護技術／南江堂	
参考書	病気がみえる Vol.2 循環器／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.4 呼吸器／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.5 血液／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症／MEDIC MEDIA	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 呼吸機能障害のある患者の看護 1) 呼吸器系の基礎知識 2) 呼吸器系の主な検査, 治療の看護 3) 呼吸器疾患患者の看護 (1)慢性閉塞性肺疾患 (2)肺癌	菅原
2		
3		
4		
5		
6	2. 循環機能障害のある患者の看護 1) 循環器系の基礎知識 2) 循環器系の主な検査, 治療の看護 3) 循環器疾患患者の看護 (1)虚血性心疾患 (2)心不全	
7		
8		
9		
10		
11	3. 生体防御機能障害のある患者の看護 1) 血液・造血器系の基礎知識 2) 血液・造血器系の主な検査, 治療の看護 3) 血液・造血器疾患患者の看護 (1)白血病 (2)悪性リンパ腫	
12		
13		
14		
15	4. 免疫不全のある患者の看護 1) 膠原病患者の看護 (1)全身性エリテマトーデス	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
成人看護学 看護の方法Ⅱ-2	2	前～後	1	30	講義	必修
担当教員	菅原 紀子 [看護専門学校] 中山 華絵 [看護専門学校]					
学習目的	慢性期における対象の特性と看護を理解できる。					
到達目標	(1) 慢性期患者の身体的・精神的・社会的特徴が説明できる。 (2) 慢性期患者の看護の特徴が説明できる。 (3) 消化・吸収機能障害のある患者の看護が説明できる。(検査と援助) (4) 栄養代謝機能障害のある患者の症状、検査、治療に伴う援助内容が説明できる。 (5) 内部環境調節機能障害のある患者の症状、検査、治療に伴う援助内容が説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	各授業の予習復習として、2時間程度の自主学習が望ましい。 病態生理学Ⅰ・Ⅱで学習した解剖生理学と疾患の成り立ちを想起し、整理しておく。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験100%	
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 写真でわかる 臨床看護技術①② インターメディカ 成人看護学 成人看護技術 南江堂	
参考書	病気がみえる 消化器 メディックメディア 病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌 メディックメディア 病気がみえる 腎・泌尿器 メディックメディア 写真でわかる 透析看護 インターメディカ 成人看護学 慢性期看護 -病気とともに生活する人を支える- 南江堂 透析ハンドブック 第4版 医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	I 慢性期の患者の看護 1) セルフコントロールへの援助 2) 社会的支援の獲得	菅原
2	代謝障害のある患者の看護 1) 糖代謝の観察とアセスメント	中山
3	2) 糖代謝障害のある患者の看護	
4	(1) 薬物療法	
5	(2) 食事療法	
6	(3) 運動療法 (4) 合併症予防と生活指導	
7	消化・吸収機能障害のある患者の看護 1) 検査と援助（上部消化管造影・大腸内視鏡・ERCP）	菅原
8	肝機能障害のある患者の看護	
9	1) 肝機能の検査と実際（肝生検）	
10	2) 肝機能の低下に伴う症状の観察と看護	
11	3) インターフェロン療法 4) 食道静脈瘤破裂予防と破裂時の対応 5) 食道静脈瘤硬化療法 6) 肝性脳症の予防と援助	
12	内部環境調整障害のある患者の看護 1) 体液調節機能の観察とアセスメント	中山
13	2) 体液不均衡のある患者の看護	
14	(1) 腎生検	
15	(2) 慢性腎臓病 (3) 透析療法（血液透析・腹膜透析）	

区 分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度		
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
成人看護学 看護の方法Ⅱ-3	2	後期	1	15	講義	必修	
担当教員	上川 直子〔看護専門学校〕 加藤 実〔医学部(麻酔科)〕						
学習目的	終末期における対象の特性と看護が理解できる。						
到達目標	(1) 終末期にある患者、および緩和ケアを必要とする患者と家族の特徴が理解できる。 (2) エンド・オブ・ライフ・ケアについて理解できる。 (3) アドバンス・ケア・プランニングについて理解できる。 (4) がん性疼痛コントロールの実際を理解できる。 (5) 全人的苦痛緩和のための援助方法が理解できる。 (6) 生命と向き合い自己の死生観を深めることができる。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							

準備学習	各授業の予習復習として、2時間程度の自主学習が望ましい。 薬物治療学、生命と倫理で修得した内容について想起し、整理しておく。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験90% レポート10%	
教科書	経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 終末期の理解 1) 「いのち」を考える①・・・死の理解 死とは何か なぜ死は怖いのか 2) 「いのち」を考える②・・・GW 2. 終末期と終末期医療の理解 1) エンド・オブ・ライフ・ケアの考え方	上 川
2	2) 終末期にある患者・家族の理解 3. 終末期医療における倫理的課題 1) 意思決定支援；「死の選択」尊厳死 安楽死 リビングウィル 2) アドバンス・ケア・プランニング	
3	4. 全人的苦痛の緩和と看護師の役割 1) 緩和ケアとは； 2) 緩和ケアにおける看護の役割 (1) 身体的ケア：疼痛 倦怠感 呼吸困難 便秘など (2) 精神的ケア：キュアとケア 心に寄り添うということ	
4	[4. 全人的苦痛の緩和と看護師の役割] 身体的苦痛への援助 《がん性疼痛コントロール》	加 藤
5	(3) 社会的ケア (4) スピリチュアルケア 3) 臨死期の看護 (1) 臨死期の理解と看護師の役割	上 川
6	5. 臨終前後の看護；死後の処置 1) 臨終前後の経過と看護 2) 最期の看護の実際（エンゼルケア） 3) 看取りとグリーフケア	
7	* 「最期の看護」DVD学習 6. 苦痛緩和の援助 1) ボディケア 2) マウスケア 3) ハンドケア ※「爪もみ療法」	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
成人看護学 看護の方法Ⅱ-4	2	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	菅原 紀子 [看護専門学校] 齊藤 美鈴 [看護専門学校] 中山 華絵 [看護専門学校] 上川 直子 [看護専門学校]					
学習目的	成人期にある患者の看護過程の展開の特徴・方法を理解する。 成人における看護技術(吸引・輸液・術前処置・血糖測定)が理解できる。					
到達目標	(1) 健康障害をもつ成人の看護過程の展開が理解できる。 ①慢性的な経過をたどる ②生命危機状態にある対象の (2) 成人における看護技術を実施できる。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	基礎看護学で修得した看護過程の内容について想起し整理しておく。 各授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（慢性期60%，急性期20%），GW参加度，受講態度20%		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 /医学書院 看護過程に沿った対象看護 /学研 目で見るとからだのメカニズム /医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 /医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 /医学書院 写真でわかる臨床看護技術 /インターメディカ ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 /MCメディカ出版 看護学テキストNiCE 成人看護技術 /南江堂		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 慢性期にある患者	演習	菅原 他
2	1) 事例：糖尿病 (1)アセスメントシート：成長発達段階，健康の段階を踏まえ，その人の生活背景に密着したアセスメントの視点		
3	(2)関連図：病態関連図 全体関連図（精神的・社会的側面の追加）		
4	(3)問題点の抽出		
5	(4)優先順位の考え方：患者の状態が変化するとき 治療内容・方針が変化するとき		
6	(5)看護計画の立案 ①根拠：アセスメントから導き出す ②到達目標の立案：根拠から導き出す ③具体策：指導プランの立案（O-P，T-P，E-Pの関連）		
7	(6)評価：ロールプレイの実際を見てから行う		
8	到達目標との関連		
9			
10	2. 周手術期にある患者	演習	齊藤 他
11	1) 事例：消化器の障害により手術をうける患者 (1)アセスメントシート：成長発達段階，健康の段階を踏まえ，麻酔・手術が及ぼす身体侵襲に関連させたアセスメントの視点		
12	(2)優先順位の考え方：Mooreの回復過程		
13			
14	3. 成人における看護技術	校内実習	齊藤 菅原 中山 上川
15	1) 血糖測定 2) 吸引法 (1)口腔・鼻腔吸引 (2)気管内吸引 3) 術前訓練 4) 包帯法		

老年看護学

老年期にある対象とその家族を理解し，老化と健康障害をもつ高齢者およびその家族に対し，看護を実践するために必要な知識，技術，態度を習得する。

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
老年看護学概論Ⅰ	2	前期	1	15	講義 演習	必修
担当教員	渡邊厚子 [看護専門学校] 齋藤康彦 [外部講師 (日本大学経済学部)]					
学習目的	ライフステージにおける老年期の身体的・心理的・社会的側面の変化を知り、老年期の看護の対象を理解する。					
到達目標	1. 加齢に伴う高齢者の身体的・心理的側面の変化が理解できる。 2. 老年期を生きる人々の特徴・健康・日常生活が理解できる。 3. 高齢者の発達課題が理解できる。 4. 高齢社会の統計的指標から老年期を理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。 高齢者理解において、事前学習をレポートしてから講義に臨む。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 90% レポート 10%		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論／医学書院 ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害／メディカ出版 老年看護概論「老いを生きる」を支えることとは／南江堂		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	I 老いるということ 1. 老いのイメージ 2. 加齢と変化 3. ライフサイクルからの老年期の理解	講義	渡邊
2	II 老年期を生きる人々の特徴 1. 高齢者の多様性 2. 高齢者の健康の特徴 3. 高齢者の生きがいと生活の満足感 4. 高齢者の暮らし		
3	III 加齢に伴う変化 1. 身体的側面の変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器 2) 視聴覚とその他の感覚 3) 循環系 4) 呼吸器系		
4	5) 消化・吸収系 6) ホルモン分泌 7) 泌尿生殖器系 8) 運動系		
5	2. 心理的側面の変化 1) 知能 2) パーソナリティ IV 老いを生きるということ 1. 高齢者の発達課題 2. 老年期における死生観, スピリチュアリティ		
6	V 老年期の理解 ※GW・発表 1. 高齢者インタビューを通して学んだこと	演習	
7	VI 高齢社会の統計的輪郭 1. 人口学的指標からの老年期の理解 2. 健康指標からの老年期の理解 3. 生活の視点からの老年期の理解	講義	齋藤

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
老年看護学概論Ⅱ	2	前期	1	15	講義 演習	必修
担当教員	渡邊厚子 [看護専門学校]					
学習目的	1. 高齢社会における老人医療と福祉の意義について理解し、高齢者に伴う保健活動と看護師の役割について理解する。 2. 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の基本を理解する。					
到達目標	1. 老人保健医療福祉の動向を説明できる。 2. 高齢者の生活を維持するための地域の役割・ソーシャルサポートシステムの構造を説明できる。 3. 高齢者を支える社会資源とその活用について理解できる。 4. 高齢者をとりまく家族と他の人々との支援関係を説明できる。 5. 高齢社会における権利擁護について理解できる。 6. 高齢者の死の諸統計とエンド・オブ・ライフ・ケアの考え方が理解できる。 7. 老年看護の目標および原則が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	<p>毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公衆衛生学」「社会福祉」「関係法規」で学習した高齢者の統計・法律や制度を想起し整理しておく。 ・老年看護学概論Ⅰで学習した高齢者の特徴を復習し授業に臨む。 		
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価</p> <p>評価内容 筆記試験 95% レポート 5%</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院</p> <p>国民衛生の動向／厚生労働統計協会</p>		
参考書	<p>高齢者看護学／中央法規出版</p> <p>最新 老年看護学／日本看護協会出版会</p> <p>ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害／メディカ出版</p>		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	<p>I 高齢社会における保健医療福祉の動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者とソーシャルサポート 2. 保健医療福祉システムの構築 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉制度 2) 高齢者医療 3) 介護保険制度の整備 	講義	渡邊
2	<p>II 生活・療養の場における看護の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅高齢者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護予防と看護 	講義	
3	<ol style="list-style-type: none"> 2. 介護家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護家族の生活と健康 2) 介護家族との協力による援助 	講義	
4 5	<p>III 高齢社会における権利擁護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に対するスティグマと差別 <ol style="list-style-type: none"> 1) エイジズム 2) アドボカシー 2. 高齢者虐待 3. 身体への拘束（ディベート） 4. 権利擁護のための制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成年後見制度 2) 日常生活自立支援事業 	演習 講義	
6	<p>IV 老年看護の理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護とは 2. 老年看護の構成要素と老年看護実践の特徴 3. 老年看護の目標・原則 <p>V さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持と介護予防 2. 健康段階に応じた高齢者の看護 3. 外来を受診する高齢者の看護 	講義	

7	VI 高齢者と災害看護 1. 高齢者に特徴的な災害時の看護 VII 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア 1. 高齢者の死 2. 終末期ケアとは 3. グリーフケア	講義	渡邊
---	--	----	----

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
老年看護学 看護の方法Ⅰ	2	後期	1	15	講義	必修
担当教員	渡邊厚子 [看護専門学校]					
学習目的	高齢者の特徴的な健康障害について学び、障害を持つ高齢者と家族に対する看護の方法を理解する。					
到達目標	1. 高齢者の診断・治療過程における援助方法が理解できる。 2. 高齢者の生活機能を整える看護について理解できる。 3. 高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。 基礎看護学で学習した日常生活援助の基礎知識を復習し整理しておく。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 100%					

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院	
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論／医学書院 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践／メディカ出版	
回数	授 業 内 容	担当者
1	I 治療を必要とする高齢者の看護 1. 医療を受ける高齢者への看護 (DVD) 1) 検査と看護 2) 薬物療法時の看護 3) 手術療法時の看護	渡邊
2	II 高齢者の生活機能を整える看護 1. 日常生活を支える基本動作と看護 (ADL障害, 転倒予防)	
3	2. 栄養と摂食・嚥下に対する看護 (DVD)	
4	3. 排泄に対する看護 (尿失禁, 便秘, 下痢) 4. 清潔に対する看護	
5	5. コミュニケーション障害のある高齢者の看護 (難聴・視覚障害・失語症) 6. 生活リズムを整える看護 (睡眠, アクティビティケア)	
6	III 健康逸脱からの回復を支える看護 1. 脱水 2. 骨粗鬆症・骨折	
7	3. パーキンソン症候群 4. 認知機能障害に対する看護 (うつ, せん妄, 認知症)	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
老年看護学 看護の方法Ⅱ	2	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	渡邊厚子 [看護専門学校] 松土理恵 [板橋病院 (理学療法士)]					
学習目的	高齢者の日常生活援助に必要な看護技術と事例の看護過程を理解する。					
到達目標	1. 高齢者に必要な日常生活の看護技術を実践できる。 2. 合併症予防およびリハビリテーションに向けた援助が理解できる。 3. 事例展開を通して健康障害を持つ高齢者を対象にした看護過程が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。 ・校内実習：テキスト・参考書を読み留意事項を整理し授業に臨む。 ・看護過程：1年次の看護過程の授業内容を復習しておく。 毎回、事前に指示された課題を行い授業に臨む。 授業で学んだことを自分の記録に反映させ修正を行う。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 90% レポート・看護過程記録 10%		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 リハビリテーション看護／医学書院		
参考書	看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス 看護過程に沿った対症看護—病態生理と看護のポイント—／学研		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	I 高齢者の看護技術 1. 高齢者の日常生活援助技術の特徴と留意点	講義	渡邊
2 3	2. 1) 高齢者体験；高齢者の加齢による自然な老化を体験する 2) 視覚障害者体験；視覚障害（盲目状態）の歩行と介助を体験する	校内実習	
4	3. 高齢者の看護技術 ①口腔ケア ②ひげそり ③爪きり（手足） ④靴下の着脱 ⑤とろみアップ	校内実習	
5 6	4. 高齢者のリハビリテーションに向けた援助 ①廃用症候群とその予防 ②基本動作（起き上がり～歩行まで）	講義 校内実習	
7	II 高齢者の看護過程 看護過程の展開①；事例紹介・説明，関連図説明，情報の整理	演習	渡邊
8	看護過程の展開②；関連図	演習	
9 10	看護過程の展開③④；アセスメント （生活機能の視点からアセスメント）	演習	
11	看護過程の展開⑤；問題リスト 優先順位 看護計画立案	演習	
12	看護過程の展開⑥；看護計画（根拠・到達目標）	演習	
13 14	看護過程の展開⑦⑧；看護計画（具体策）・看護計画・評価説明	演習	
15	終了試験／高齢者看護のまとめ	講義	

小児看護学

小児各期の特徴を理解し，成長発達に応じた生活の援助とあらゆる健康レベルにある小児とその家族に対する看護を实践する為の基礎的知識・技術・態度を習得する。

区 分	専門分野Ⅱ					R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択	
小児看護学概論Ⅰ	2	前期	1	30	講義	必修	
担当教員	石井祐子[看護専門学校]						
学習目的	小児の成長・発達と健康増進のための、小児と家族の看護を理解する。						
到達目標	(1)小児の概念と小児看護の特性について理解する。 (2)小児医療、小児看護の変遷について学び、今後の課題を理解する。 (3)子どもの人権と看護について理解する。 (4)小児の成長と発達について理解する。 (5)新生児、乳児、幼児、学童、思春期の健康増進のための看護を理解する。 (6)母子保健の動向と小児保健統計について理解する。 (7)健康問題・障害および入院が小児と家族に及ぼす影響と看護について理解する。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							

準備学習	第1～15回 各回の講義の予習として、テキストの内容について1時間程度の自主学習が望まれる。また、復習として講義資料や国家試験問題を用い、1時間程度の自主学習が望まれる。 第4～7回 講義内容をもとに小児各期の成長発達をワークシートにまとめる（各30～1時間程度）	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験90% レポート10% ※評価割合は評価一覧に示された通りとする。	
教科書	新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健／メジカルフレンド社 新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護／メジカルフレンド社	
参考書	適時提示	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 小児看護の対象 1) 小児の特徴 2) 小児看護の対象 2. 小児看護の特徴 1) 小児看護の対象と目標・役割 2) 小児看護の場と看護の特徴	石井
2	3. 小児の特徴と成長・発達 1) 成長・発達の概念, 区分, 原則, 成長に関連する因子 2) 形態的成長 3) 機能的発達 4) 心理・社会的成長・発達	
3		
4	4. 小児各期における成長・発達	
5	1) 新生児, 乳児期	
6	2) 幼児期	
7	3) 学童期 4) 思春期, 青年期	
8	5. 小児看護における概念と理論 1) 成長・発達に関する概念と理論 2) 母子関係に関する概念と理論 3) 家族関係に関する概念と理論 4) 小児の健康促進にかかわる概念と理論	
9	6. 小児看護・医療の諸統計と変遷・展望 1) 小児看護・医療の歴史 2) 小児看護・医療における諸統計 3) 小児看護・医療の国際的動向 4) 小児看護・医療の課題と展望	
10	7. 小児を守る法律と制度 1) 小児看護・医療における法律 2) 子どもの権利条約と医療における子どもの権利 3) 小児医療・小児看護における倫理的配慮 8. 小児保健 1) 母子保健と子育て支援 2) 学校保健施策 3) 予防接種 4) 難病・障害児保健福祉	
11	9. 健康問題・障害が小児と家族に与える影響と看護 1) 小児の病気の理解と説明 2) 病気や診療・入院が小児, 家族に与える影響と看護	

12	10. 小児各期の発達段階に応じた看護 1) 新生児, 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期, 青年期
13	
14	
15	終了試験／まとめ

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
小児看護学概論Ⅱ	2	前期	1	30	講義 校外実習 演習	必修
担当教員	石井祐子[看護専門学校]					
学習目的	小児とのコミュニケーション，遊びについて理解する。 保育園実習を通して，小児看護に必要な乳幼児の成長発達，保育を理解する。					
到達目標	(1)家庭生活，入院生活を送る小児とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。 (2)小児の遊びの意義と分類について理解できる。 (3)小児看護援助に遊びを取り入れる必要性を理解できる。 (4)対象の状態に合わせて，遊びを取り入れた援助を考えることができる。 (5)乳幼児の日常生活行動を観察し，成長発達段階の特徴を知る。 (6)保育士の乳幼児への関わりから，成長発達段階に応じた保育の在り方を知る。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い，科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち，関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として，生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	<p>第1回 小児看護学概論Ⅰで学習した小児期の区分や発達を意識しながら、日常生活の中で目にする子どもの様子を観察しておく効果的である。</p> <p>第2回 保育園実習オリエンテーションを受けた後、実習グループ個々に実習保育園の園長から実習の事前オリエンテーションを受ける日程を調整し、保育園に赴き、事前オリエンテーションを受ける。2日間の実習の配置クラスを決めてもらい、教員が指示した実習記録の事前学習を行う。 ※事前オリエンテーションに関しては、実習学生5～6名の日程と実習先の園長の日程を合わせる必要があること、優先事項として日程を組むこと。 ※事前学習においては、2～3時間の自主学習を要する。</p> <p>第3～10回 実習後に実習記録を教員へ提出し、指導を受けて追加、修正等を行う。振り返り学習として、2～3時間の自主学習を要する。</p> <p>第11～15回 第1回、第11～12回の講義と保育園実習の学びを受けて、教員が指示した患者設定でのグループワークとして、講義時間外で2～3時間のグループワークを必要とする。演習後、レポート学習として、1時間程度の自主学習を要する。</p>		
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験40%、グループワークレポート20%、保育園実習態度及び保育園実習記録40% *5月中旬から6月中旬：板橋区立保育園において、保育園見学実習のための事前オリエンテーションを受ける。</p>		
教科書	<p>新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健／メジカルフレンド社 新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護／メジカルフレンド社</p>		
参考書	適時提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 小児とのコミュニケーション 2. 小児と遊び 1) 遊びの意義と分類	講義	石井
2	3. 保育園見学実習オリエンテーション		
3	4. 保育園見学実習 1) 形態的成長、精神的・社会的発達の程度 2) 日常生活習慣の自立の程度 3) 個人差の有無 4) コミュニケーションのとり方 5) 子どもの生活習慣の自立に応じた保育者の関わり 6) 子どもの遊びに対する保育者の関わりと子どもの反応 7) 安全への配慮・指導のしかた	校外学習	石井 他教員
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	5. 病児への遊びの援助 1) 病児にとっての遊び	講義	石井
12	2) 病院での遊び 3) 小児看護援助の中での遊び		
13	4) 病児への遊びの援助の実際 グループワーク	演習	石井
14			
15	5) 病児への遊びの援助の実際 発表		

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
小児看護学看護の方法Ⅰ	2	後期	1	30	講義	必修
担当教員	阿部 百合子 [医学部(小児科学)] 西村 光司 [医学部(小児科学)] 武藤 智和 [医学部(小児科学)] 金澤 剛二 [医学部(小児科学)] 石井 和嘉子 [医学部(小児科学)] 岡橋 彩 [医学部(小児科学)] 井上 真味 [板橋病院看護部] 浦川 寿美子 [看護専門学校]					
学習目的	小児に特徴的な健康障害と看護について理解する。					
到達目標	(1)小児に特徴的な健康障害について理解する。 (2)小児と家族に起こりやすい状況と看護について理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	各回の講義の予習として、テキストの内容について1時間程度の自主学習が望まれる。 また、復習として講義資料や国家試験問題を用い、1時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験100% ※評価割合は評価一覧に示された通りとする。	
教科書	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護/メジカルフレンド社	
参考書	適時提示	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 小児によく見られる疾患とその治療 1) 先天異常 遺伝性疾患・先天代謝異常とマススクリーニング・染色体異常症 2) 循環器疾患 先天性心疾患 3) 呼吸器疾患 気道の疾患(感染症)・乳児突然死症候群	阿部
2	4) アレルギー疾患 アレルギー反応(即時型, 遅延型), 小児の主なアレルギー疾患(気管支喘息) 5) 感染症 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・ロタウイルス・RSウイルス	西村
3	6) 消化器疾患 口腔の疾患(唇裂・口蓋裂), 胃の疾患(肥厚性幽門狭窄症), 腸の疾患(ヒルシュスプルング病, 鎖肛, 腸重積症, 腸閉塞, 乳児下痢症, 急性虫垂炎) 7) 運動器疾患 発育性股関節形成不全・小児の骨折	武藤
4	8) 血液疾患と腫瘍 血液疾患(紫斑病), 腫瘍(小児がん, 白血病, リンパ腫, 神経芽腫, ウィルムス腫瘍, 骨肉腫)	金澤
5	9) 神経・筋疾患 発作性疾患(てんかん, 熱性痙攣), 慢性疾患(脳性麻痺), 急性疾患(髄膜炎, 脳炎), 外科治療の適用疾患(水頭症, 二分脊椎, 脳腫瘍)	石井
6	10) 内分泌・代謝疾患 糖尿病(I型), 成長ホルモン分泌不全性低身長症 11) 腎・泌尿器疾患 腎疾患(ネフローゼ症候群), 泌尿器疾患(尿路感染症, 停留精巣) 12) 皮膚疾患 乳児性脂漏性湿疹・接触皮膚炎(かぶれ)	岡橋
7	急性期にある小児と家族の看護 プライマリヘルスケアで出会う小児と家族の看護 外来における小児と家族への看護	浦川
8	検査・処置を受ける小児と家族への看護 活動制限が必要な小児と家族への看護 クリティカルな状況にある小児と家族への看護 救急処置を要する小児と家族	井上

9	感染予防の必要がある小児と家族 周術期における小児と家族の看護	井上
10	慢性期にある小児と家族の看護	浦川
11	先天的な健康問題のある小児と家族への看護 心身障害のある小児と家族の看護 発達障害のある小児と家族への看護	
12	発達障害のある小児と家族への看護 心の問題を抱えている小児と家族への看護	
13	医療的ケアを必要としながら退院する小児と家族への看護 家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族への看護 地域・在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族への看護	
14	終末期にある小児と家族の看護	
15	虐待を受けている小児と家族への看護 災害を受けた小児と家族への看護	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
小児看護学看護の方法Ⅱ	2	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	石井 祐子[看護専門学校] 浦川寿美子[看護専門学校]					
学習目的	健康障害を持つ小児の経過症状に応じた看護を理解する。 小児の看護過程展開を理解する。					
到達目標	(1)健康障害をもつ小児の経過に応じた看護を理解する。 (2)小児にみられる主な症状に応じた看護を理解する。 (3)小児看護に必要な看護技術が理解できる。 (4)事例展開を通して健康障害をもつ小児の看護過程展開の特徴、方法を理解する。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	<p>第1回～7回：各回の講義の予習として，教科書の内容について1時間程度の自己学習が望まれる。また，復習として教科書，配布資料を用い，1時間程度の自主学習が望まれる。</p> <p>第8回～13回：事前に指示された課題についてレポートをまとめ，提出する。また，1年次の看護過程の講義内容を復習しておく。各回の講義の復習，演習で終わらなかった内容について1～2時間の自主学習が望まれる。看護過程展開についての課題レポートをまとめ提出する。</p> <p>第14回～15回：演習内容についての課題レポートをまとめ，提出する。</p>		
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験80%，レポート20%</p>		
教科書	<p>新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健／メジカルフレンド社 新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護／メジカルフレンド社</p>		
参考書	適時提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 症状と看護 1) 啼泣，不機嫌， 2) 痛み	講義	浦川
2	3) 呼吸困難， 4) 発疹		
3	5) 発熱， 6) 脱水		
4	7) 嘔吐， 8) 下痢		
5	9) 痙攣， 10) 意識障害		
6	2. 小児に必要な看護技術 1) フィジカルアセスメント (身体計測，バイタルサイン測定)		
7	2) 輸液管理，与薬	石井	
8	3. 看護過程の展開 1) 小児看護過程展開の基礎知識		
9	2) 関連図の描写，アセスメント	演習	石井 浦川
10	3) アセスメント		
11	4) アセスメント		
12	5) 問題点の抽出，優先順位の決定，到達目標		
13	6) 具体策の立案，評価		
14	4. 小児看護技術演習 1) 看護場面での援助技術	校内実習	石井
15	2) 日常生活の援助技術		

母性看護学

ひとのもつ種族保存の働き（生殖）とその意義，母性保健活動における看護の役割を理解し，妊産褥婦および新生児の看護を実践できる基礎的知識と技術，態度を習得する。

区分	専門分野 II				R2 (2020) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
母性看護学概論	2	前期	1	30	講義 演習	必修
担当教員	中島 隆広 [医学部 (産婦人科)] 小林 理 [医学部 (産婦人科)] 今野 千春 [看護専門学校]					
学習目的	次代の健全な母性の育成の意義を学び、母性各期の対象の特徴と看護の目的を理解する。					
到達目標	(1) 母性の概念と母性看護の意義および特性について理解する。 (2) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。 (3) 現代女性のライフサイクルの変化について理解する。 (4) 性についての概念と人間の性の特徴について理解する。 (5) 現代医療における生殖医学に関する生命倫理の諸問題について理解する。 (6) リプロダクティブヘルスケアに関する看護について理解する。 (7) 女性のライフサイクル各期の健康と看護について理解する。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	1年次の「解剖学Ⅱ」，「生理学Ⅰ」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して，30分程度で復習を行い，次回の講義に臨むこと。または，講義時に適宜指示する。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験70%（筆記：今野70点）＋レポート10%＋グループワーク20%		
教科書	系統看護学講座，専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論／医学書院 系統看護学講座，専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論／医学書院		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	母性看護の概念と母性の特性	講義	今野
2	母性看護の対象を取り巻く環境 現代女性のライフサイクルの変化		
3	生殖器の形態・機能 性周期と月経異常 性分化のメカニズム，出生前診断		中島
4	女性のライフサイクル各期の健康問題 （性感染症・人工妊娠中絶・不妊症・更年期障害）		小林
5	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 母性看護と倫理 母性看護における安全・事故予防		今野
6	母性看護の歴史 母子保健統計からみた動向		
7	母性看護に関する組織と法律		
8	ライフサイクル各期の特徴と保健指導（思春期）		
9	ライフサイクル各期の特徴と保健指導（思春期）		
10	ライフサイクル各期の特徴と保健指導（成熟期）		
11	ライフサイクル各期の特徴と保健指導（成熟期）		
12	ライフサイクル各期の特徴と保健指導（更年期・老年期）		
13	グループワーク（母性に関するテーマ）の発表		演習
14			
15	終了試験（50分）－解説－	講義	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
母性看護学 看護の方法Ⅰ-1	2	前期	1	30	講義	必修
担当教員	田中 ゆりあ [医学部(産婦人科)] 加藤 果野子 [医学部(産婦人科)] 川上 香織 [医学部(産婦人科)] 千島 史尚 [医学部(産婦人科)] 小松 篤史 [医学部(産婦人科)] 加藤 恵利奈 [非常勤講師] 宮川 康司 [医学部(産婦人科)]					
学習目的	妊娠分娩産褥期の健康な母子および異常のある母子における生理的变化と特性を理解する。					
到達目標	(1) 正常な経過をたどる妊娠分娩産褥および新生児の生理的变化について理解する。 (2) 妊娠分娩産褥および新生児の異常について理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。 <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	1年次の「解剖学Ⅱ」, 「生理学Ⅰ」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して、30分程度で復習を行い、次回の講義に臨むこと。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記)100点 妊娠期〔田中・加藤(果)20点+川上10点〕+分娩期〔千島15点+小松15点〕+産褥期〔加藤(恵)20点〕+新生児期〔宮川20点〕					

教科書		系統看護学講座, 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論/医学書院 系統看護学講座, 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論/医学書院	
回数	授 業 内 容		担当者
1	<<妊娠期>> ・基礎知識 解剖生理, 性周期 ・不妊治療 不妊とその原因, 不妊検査, 不妊治療	田中	
2	・遺伝相談 遺伝相談とは, 出生前診断, 出生前診断の実際, 着床前診断 胎児治療と遺伝子治療	加藤 (果)	
3	・妊娠期の身体的特性 妊娠の生理, 胎児の発育とその生理, 母体の生理的变化		
4	・妊婦と胎児のアセスメント 妊娠とその診断, 妊娠期に行う検査とその目的, 胎児の発育と健康状態の診断, 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント		
5	・周産期医療のシステム 母体搬送, 新生児搬送, チーム医療, 周産期ネットワーク ・妊娠の異常 ハイリスク妊娠, 妊娠期の感染症	川上	
6	・妊娠の異常 妊娠疾患, 多胎妊娠, 妊娠持続期間の異常, 子宮外妊娠		
7	<<分娩期>> ・分娩の要素 分娩とは, 分娩の3要素, 胎児と子宮および骨盤との関係, 分娩機序	千島	
8	・分娩の経過 分娩の進行と産婦の身体的変化, 産痛, 胎児に及ぼす影響 ・産婦と胎児の健康状態のアセスメント		
9	・分娩の異常 産道の異常, 娩出力の異常, 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常	小松	
10	・分娩の異常 胎児機能不全, 分娩時の損傷, 分娩第3期および分娩直後の異常		
11	・分娩の異常 分娩時異常出血, 産科処置と産科手術		

12	<<産褥期>> ・産褥期の身体的変化，心理的变化（マタニティブルーズ） ・産褥の異常 帝王切開術後，子宮復古不全，産褥期の発熱，産褥血栓症 産後精神障害	加藤（恵）
13	<<新生児期>> ・新生児の特徴と生理的变化	宮川
14	・新生児の健康と発育のアセスメント	
15	・新生児の異常 新生児仮死，新生児一過性多呼吸，呼吸窮迫症候群，胎便吸引症候群 分娩外傷，早産児，低出生体重児，高ビリルビン血症，低血糖症 新生児一過性ビタミンK欠乏症	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
母性看護学 看護の方法Ⅰ-2	2	前期 後期	1	30	講義	必修
担当教員	内 菜緒子 [板橋病院 (看護部)] 桂田 陽子 [板橋病院 (看護部)] 今野 千春 [看護専門学校]					
学習目的	妊娠分娩産褥期の健康な母子および異常のある母子, 家族に対して必要な看護を理解する。					
到達目標	(1) 正常な経過をたどる妊娠分娩産褥および新生児の看護について理解する。 (2) 妊娠分娩産褥および新生児の異常に伴う看護について理解する。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						
準備学習	2年次の「母性看護学 看護の方法Ⅰ-1」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して, 30分程度で復習を行い, 次回の講義に臨むこと。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 100% (筆記: 今野60点+内20点+桂田20点)					
教科書	系統看護学講座, 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論/医学書院 系統看護学講座, 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論/医学書院					

回数	授 業 内 容	担当者
1	<<妊娠期>> ・妊婦と胎児のアセスメント ・妊婦健康診査	今野
2	・妊婦の保健指導（日常生活の援助） ・妊娠中のマイナートラブルと看護	
3	・親になるための準備教育 ・妊娠期の心理，社会的特性	
4	・妊娠の異常と看護	
5	<<分娩期>> ・分娩の経過と看護	桂田
6	・産婦の心理，社会的変化	
7	・分娩の異常と看護	
8	<<産褥期>> ・褥婦の健康と生活のアセスメント ・全身（子宮）復古促進の看護	今野
9	・不快症状の看護 ・感染予防の看護	
10	・母乳栄養確立の看護	
11	・育児準備 ・産褥期の心理，社会的変化	
12	・産褥の異常と看護	
13	<<新生児期>> ・新生児の特徴と生理的变化 ・新生児のアセスメント	内
14	・新生児の看護 出生直後の看護，出生後から退院時までの看護 生後1か月健康診査に向けた退院時の看護	
15	・新生児の異常と看護	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
母性看護学 看護の方法Ⅱ	2	後期	1	30	講義 演習 実験実習(校内)	必修
担当教員	今野 千春 [看護専門学校]					
学習目的	妊娠分娩産褥および新生児の看護に必要な基本的技術を習得し、母子の看護が実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標	(1) 妊娠分娩産褥および新生児の看護に特有な基礎的技術を習得する。 (2) 早期産褥期における褥婦の看護過程の展開に必要な知識と方法を理解する。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						
準備学習	2年次の「母性看護学 看護の方法Ⅰ-1」, 「母性看護学 看護の方法Ⅰ-2」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して、30分程度で復習を行い、次回の講義に臨むこと。または、講義時に適宜指示する。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記)60%+ロールプレイング20%+看護過程20%					
教科書	系統看護学講座, 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論/医学書院					

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	母性看護に必要な技術（妊娠期・分娩期）	講義	今野
2	母性看護に必要な技術（産褥期・新生児期）		
3	≪産褥期≫ ・乳房マッサージ，乳頭・乳輪マッサージ		
4	≪妊娠期≫ ・疑似妊婦体験（妊婦体験ジャケット着用） ・妊婦の健康診査 （子宮底測定，腹囲測定，児心音聴取レオポルドの触診法） ≪産褥期≫ ・褥婦の観察 （子宮底測定と輪状マッサージ，創部と悪露パッドの観察） ≪新生児≫ ・児の抱き方と寝かせ方，排気のさせ方	校内実習	
5	ロールプレイング準備	演習	
6	≪新生児≫ ・沐浴，臍処置，耳鼻腔の清潔，衣類の着脱	校内実習	
7	ロールプレイング準備	演習	
8	ロールプレイング発表		
9			
10	≪看護過程≫ ・産褥期における看護過程の考え方 ・産褥期の看護過程の特徴と概要	講義	
11	・褥婦に関する情報の意味		
12	・退行性変化のアセスメント		
13	・進行性変化のアセスメント，心理社会的なアセスメント		
14	・具体策，評価		
15	終了試験（50分）・解説		

精神看護学

人間の精神の発達とそれに影響を与える要因を理解し，現代社会における精神の健康の保持・増進及び危機状態への援助に必要な知識，技術，態度を学び，その過程を通して自己洞察し得る能力を習得する。

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
精神看護学 対象の理解	1	前期	1	30	講義	必修
担当教員	山田 幸樹 [医学部(精神医学)] 大寄 公一 [医学部(精神医学)]					
学習目的	精神の心の発達、ライフサイクルに伴う発達課題、心理、社会的危機及び精神の健康に影響をもたらす現代社会の環境的要因の側面から理解する。					
到達目標	1. 精神保健・精神医療の沿革が理解できる。 2. 心の健康を理解し、人間の発達と精神保健が理解できる。 3. 生活の場と精神保健が理解できる。 4. 精神に障がいをもつ人と、その家族の精神保健が理解できる。 5. 地域精神保健活動が理解できる。 6. 社会精神科医学的問題が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	講義の予習・復習として、1時間程度の自主学習を望む。					

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：修了試験（筆記）100%	
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 /メヂカルフレンド社	
参考書		
回数	授 業 内 容	担当者
1	「精神看護学」で学ぶこと	山田
2	「精神（心）」のとらえかた I	
3	「精神（心）」のとらえかた II	
4	「精神（心）の発達」I	
5	「精神（心）の発達」II	
6	「家族と精神（心）の健康」I	
7	「家族と精神（心）の健康」II	
8	「暮らしの場と精神（心）の健康」	
9	精神（心）の危機状況と精神保健 I	大嵯
10	精神（心）の危機状況と精神保健 II	
11	現代社会と精神（心）の健康 I	
12	現代社会と精神（心）の健康 II	
13	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 I	
14	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 II	
15	終了試験・まとめ	

※精神看護学においては、人を形容する場合には、「障がい」と表記する。

区 分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
精神看護学 看護の目的	2	前期	1	15	講義	必修
担当教員	山内 亜由巳 [看護専門学校]					
学習目的	精神看護の変遷を理解し、精神看護の目的、役割を理解する。					
到達目標	1. 精神看護の目的、対象が理解できる。 2. 精神看護の役割と機能が理解できる。 3. 精神看護の倫理と法が理解できる。 4. 精神を障がいされた人とその家族を取り巻く地域精神医療資源が理解できる。 5. 精神科看護の現状と課題を理解し、今後の看護の方向を展望することができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の各講義内容についての自主学習を望む。	
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：修了試験（筆記）80% レポート20%	
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 /メヂカルフレンド社	
参考書	看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 /メヂカルフレンド社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	I. 精神看護の目的と対象 II. 精神看護の役割	山内
2	III. 精神に障がいをもつ人の理解 1. 新たな回復（リカバリー）へのモデル 1) レジリエンス 2) ストレングスモデル	
3	IV. 精神に障がいをもつ人とその家族の思いの理解	
4		
5	V. 精神保健福祉活動と法制度の変遷 1. 精神の障がいと治療の歴史 2. 精神科領域で必要な法律と制度 3. 現代社会の法律と制度における課題	
6	VI. 生活を支える社会制度 1. 地域における精神看護の実際 2. 社会制度の現状と課題	
7	VII. 精神看護における倫理 1. 精神医療における権利擁護の重要性	

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
精神看護学 看護の方法Ⅰ	2	前期	1	30	講義 演習	必修
担当教員	宮本 武 [医学部(精神医学)] 山内 亜由巳 [看護専門学校]					
学習目的	精神の危機状況や精神に障がいをもつ人とその家族への援助方法を理解する。					
到達目標	1. 精神障がいと病理が理解できる。 2. 診断と検査が理解できる。 3. 精神障がいの治療方法が理解できる。 4. 精神障がいの回復過程が理解できる。 5. 精神障がいの代表的な症状を理解し、ケアプランの一般論が理解できる。 6. 検査・治療をうける患者の看護の方法が理解できる。 7. 現代社会に注目される障がいとその看護が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の各講義内容についての自主学習を望む。					

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）90% レポート10%		
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護/メヂカルフレンド社		
参考書	看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 /メヂカルフレンド社		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	I. 精神障がいをもつ人の抱える症状と診断のための検査 1. 精神障がいの考え方	講義	宮本
2	2. 精神症状と精神科的診察		
3	II. 主な精神疾患, 障がいと治療法 1. 統合失調症, 気分障害		
4	2. 発達障害 3. 物質関連障害及び嗜癖性障害群		
5	4. 強迫症及び関連症群 5. 心的外傷及びストレス因関連障害群		
6	6. 解離性障害, 身体症状症 7. 摂食障害 8. パーソナリティ障害		
7	9. 精神科での主な治療法 III. 精神科医療の現状と問題点		
8	IV. 統合失調症の看護の基本 1. 統合失調症患者の理解 2. 主な精神症状と看護 3. 統合失調症のケアプラン	講義	山内
9	V. 気分障害の看護の基本 1. うつ病患者の看護 2. うつ病のケアプラン 3. 双極性障害の看護		
10	VI. 主な治療に伴う看護 1. 精神療法 2. 薬物療法 3. 作業療法 4. 修正型電気痙攣療法 5. S S T		
11	VII. 精神科レクリエーション 1. 精神科レクリエーションにおける看護の役割	演習	
12	2. レクリエーション企画		
13	VIII. 現代社会に注目される障がいの看護 1. 依存 2. 摂食障害 3. パーソナリティ障害	講義	
14	4. P T S D 5. 発達障害		
15	IX. 患者家族の理解とその援助		

区分	専門分野Ⅱ				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
精神看護学 看護の方法Ⅱ	2	後期	1	30	講義 演習	必修
担当教員	山内 亜由巳[看護専門学校]					
学習目的	精神に障がいをもつ人の看護過程を理解する。					
到達目標	1. 精神看護の基本となる患者－看護師関係が理解できる。 2. 精神看護過程の展開のための知識が理解できる。 3. 精神看護に必要な看護技術が理解できる。 4. 精神科看護における安全・事故防止について理解できる。 5. 精神に障がいをもつ人の看護過程の特徴・方法が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	講義の予習・復習、課題への取り組みとして2時間程度の各講義内容についての自主学習を望む。					

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：看護過程 50% プロセスレコード 20% 課題・グループワーク参加状況 30%		
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 /メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 /メヂカルフレンド社		
参考書	看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 /メヂカルフレンド社 学生—患者のストーリーで綴る実習展開「精神看護学」/医歯薬出版 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 /医歯薬出版		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	I. 患者—看護師関係の理解 1. 精神看護における治療的コミュニケーション	講義	山内
2	2. 患者—看護師関係をアセスメントする。 1) プロセスレコードを用いたアセスメントの実際	演習	
3	2) 対自化		
4	3) ロールプレイング		
5	II. 精神科病棟入院時の生活環境と制限に関する援助 1. 治療的環境 2. 安全を確保する環境調整に配慮した関わり 1) CVPPP 2) 隔離・拘束時の看護	講義	
6	III. 精神に障がいをもつ人の看護過程の展開 1. ウェルネス看護診断の活用	講義	
7	2. 精神科における観察	講義	
8	3. 統合失調症の看護過程の展開 ①情報収集	演習	
9	②アセスメント		
10			
11	③問題リスト		
12	④看護計画		
13			
14	⑤看護計画発表会 ⑥評価		
15	4. 気分障害（うつ病）の看護過程の特徴		

統合分野

在宅看護論

在宅医療サービスにとどまらず，広く保健・福祉サービスや他の社会サービスの活用も含めて，対象者が「在宅」で，「地域社会」で，質の高い日常生活の営みを獲得し，維持できるよう援助する在宅看護の意義と役割を理解する。また，在宅医療サービスに包括される在宅看護の実践に必要な基礎的知識・日常生活および療養生活に必要な基礎的援助技術・態度を習得する。

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
在宅看護概論	2	前期	1	15	講義	必修
担当教員	木根 久江 [看護専門学校]					
学習目的	在宅看護の目的, 対象, 制度, 特性と看護の役割について理解する。					
到達目標	1. 在宅看護を学ぶ目的と特性を理解できる。 2. 在宅看護の特徴と看護の役割を理解できる。 3. 在宅看護を支えるしくみが理解できる。 4. 在宅看護における支援の基本が理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い, 科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 <input type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち, 関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input type="checkbox"/> 省察力 専門職として, 生涯にわたり自己研鑽することができる。 						

準備学習	教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分程度で予習すること。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分程度読み復習をすること。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 100%（記述試験）	
教科書	系統看護学講座 統合 在宅看護論 / 医学書院	
参考書	新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 新版 在宅看護論 / 医歯薬出版株式会社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	在宅看護の目的と特性	木根
2	在宅看護を支える制度	
3	訪問看護の制度と機能	
4	地域包括ケアシステム	
5	ケアマネジメント：社会資源，継続看護，退院支援と退院調整	
6	在宅看護における家族支援	
7	在宅看護におけるリスクマネジメント	
	終了試験	

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
在宅看護論 看護の方法 I	2	前期	1	30	講義 校外実習 演習	必修
担当教員	木根 久江 [看護専門学校] 川田 しのぶ [看護専門学校]					
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の場が在宅であるという特質を理解し、訪問看護師に求められる知識・技術が理解できる。 2. 在宅医療サービスに包括される在宅看護の実践に必要な日常生活援助技術・医療処置技術が理解できる。 3. 在宅看護の対象である人々の価値観・生活信条を尊重した看護を行えるための基本的な態度を考える。 4. 社会資源が対象にもたらす影響と、利用に際して看護に期待される役割を考える。 					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護に必要な日常生活援助・医療技術の基本が理解できる。 2. 看護の場が在宅であるという特徴を理解し、対象の生活に合わせ応用される看護援助を理解できる。 3. 対象の価値観・生活信条を尊重した看護技術や援助の工夫を考えることができる。 4. 社会資源活用における看護師の役割について理解できる。 5. 福祉機器を体験し、対象の生活への影響を考えることができる。 					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	<p>毎回講義前に教科書の該当箇所、講義内容に関連する他領域の教科書を30分以上読んで臨むこと。 講義終了後に教科書の該当箇所、講義資料を30分以上読み復習をすること。</p>		
成績評価基準	<p>評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 80% 出席・グループワーク・提出物・授業態度等を含む 20%</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 統合 在宅看護論 / 医学書院 押川眞喜子監修：「写真でわかる訪問看護」インターメディカ</p>		
参考書	<p>新体系看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 / メディカ出版</p>		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	在宅におけるコミュニケーションの基本	講義	川田
2	在宅ケアにおける医療処置援助の概要		
3	在宅における食事・栄養のアセスメントと援助		
4	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法とその看護		
5	在宅における排泄のアセスメントと援助		
6	在宅における導尿・膀胱留置カテーテル・ストーマ管理と看護		
7	在宅における移動・移乗		
8	在宅における褥瘡ケア		
9	在宅看護における呼吸アセスメントと援助		
10	在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法とその看護		
11	社会資源の種類と活用方法 (国際福祉機器展オリエンテーション)		
12	国際福祉機器展見学	校外実習	川田 木根
13	国際福祉機器展のまとめ・発表	演習	
14			
15	在宅における清潔のアセスメントとその援助	講義	川田

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
在宅看護論 看護の方法Ⅱ-1	2	後期	1	15	講義	必修
担当教員	木根 久江 [看護専門学校]					
学習目的	在宅で療養生活する対象の状態別看護を理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長期臥床状態にある療養者への在宅看護について理解できる。 2. 独居の生活自立困難者への在宅看護について理解できる。 3. 難病の療養者への在宅看護について理解できる。 4. 終末期の療養者の在宅看護について理解できる。 5. 在宅で療養者を介護する家族の看護について理解できる。 6. 精神障害者、子どもの療養者への在宅での看護について理解できる。 					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	毎回講義前に教科書の該当箇所、講義内容に関連する他領域の教科書を30分以上読んで臨むこと。 講義終了後に教科書の該当箇所、講義資料を30分以上読み復習をすること。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(記述試験)および提出物の評価点 100%	
教科書	系統看護学講座 統合 在宅看護論 / 医学書院	
参考書	新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 / 日本看護協会出版会	
回数	授 業 内 容	担当者
1	長期臥床状態にある(寝たきり)療養者への在宅看護	木根
2	独居の生活自立困難者への在宅看護	
3	難病の療養者への在宅看護	
4	終末期にある療養者への在宅看護	
5		
6	家族看護	
7	精神障害者・子どもの療養者への在宅看護	

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
在宅看護論 看護の方法Ⅱ-2	2	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	木根 久江 [看護専門学校] 川田 しのぶ [看護専門学校] 神永 卓教 [響き合いネットワーク東京SPの会]					
学習目的	1. 在宅看護における看護過程の展開を理解する。 2. 在宅で療養生活する対象の状態別看護を理解する。					
到達目標	1. 認知症療養者への接し方を理解できる。 2. 在宅看護における看護過程の特徴が理解できる。 3. ペーパーシュミレーションを用いて在宅看護過程の展開ができる。 4. 看護過程の中で、在宅の特徴をふまえ具体的な援助方法を理解できる。 5. 看護過程の中で、在宅の特徴をふまえ具体的な社会資源の活用方法が理解できる。 6. 在宅で行われる援助の工夫ができる。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	毎回講義前に教科書の該当箇所、講義内容に関連する他領域の教科書を30分以上読んで臨むこと。 講義終了後に教科書の該当箇所、講義資料を30分以上読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(記述試験)および提出物の評価点		
教科書	系統看護学講座 統合 在宅看護論 / 医学書院		
参考書	強みと弱みからみた在宅看護過程 / 医学書院 新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	認知症療養者への在宅看護 ロールプレイングのオリエンテーション	講義	木根 川田
2	認知症療養者への在宅看護 ロールプレイング「認知症療養者との関わり場面」	校内実習	木根 川田 S P 4人
3		校内実習	
4	ロールプレイング学びの発表・まとめ	演習	木根 川田
5	在宅看護における看護過程	講義	
6	在宅看護における看護過程の特徴	演習	
7	情報収集		
8	関連図(アセスメントと問題抽出)		
9	看護計画(考え方と実践)		
10	社会資源について	講義	
11	まとめ		
12	在宅で行われる援助・物品の工夫	講義	
13	在宅で使用される物品の作成と援助方法	校内実習	
14		校内実習	
15	終了試験	講義	

看護の統合と実践

チーム医療および他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解するとともに看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。

医療安全や危機管理，災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解し，また国際社会において，広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えることができる態度を養う。

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
災害看護	2	後期	1	15	講義 校内実習 校外実習	必修
担当教員	西尾治美〔板橋病院 看護部〕 杉本 環〔板橋病院 看護部〕					
学習目的	看護基礎教育において災害時の看護について理解を含め、災害直後から支援できる看護の基本的知識について理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害および災害看護に必要な基礎知識が理解できる。 2. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響について理解できる。 3. 災害発生時の社会の対応やしぐみについて理解できる。 4. 災害時における看護の役割、災害各期における看護活動について理解できる。 5. 災害時に必要な看護技術が理解できる。 6. 被災者の心理的ケアの必要性が理解できる。 7. 災害医療と救急医療の違いが理解できる。 8. 災害時における看護の役割の重要性および継続的な災害看護教育・訓練の必要性が理解できる。 					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	毎回の授業の予習復習として1時間程度の自主学習が望まれる。 1. 通常の医療・看護と災害時の医療・看護の違いについて考える。 2. 災害時に求められる看護の役割について考える。 3. 一次救命処置の必要性和手順について学習する。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 100%		
教科書	新体系看護学全書38 看護の統合と実践② 災害看護学/メヂカルフレンド社		
参考書	系統的看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学/医学書院		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 災害医療・災害看護概論 1) 災害及び災害看護の定義 2) 災害医療・災害看護の特徴 3) 災害医療と救急医療の違い 2. 救急医療・救急看護概論 1) 救急医療・救急看護の特徴・機能・役割 2) 救命救急医療センターの紹介（構造・看護の実際など） 3. 一次救命処置（BLS）の知識と技術	講義	西尾
2	1. 一次救命処置（BLS）の実際（演習）	校内実習	杉本
3	2. 救命救急センターの見学と学びの共有（※）	校外実習	西尾
4	1. 災害の種類と特徴 2. 災害医療の基本原則 CSCATTT 3. 災害時の対応 1) 情報伝達の重要性 2) 広域災害救急医療情報システム	講義	西尾
5	4. トリアージ 1) トリアージの目的・方法 2) START式トリアージ（一次トリアージ） 3) トリアージの実際（演習） 5. 災害派遣医療チーム（DMAT）		
6	1. 災害発生時の対応 1) 我が国の災害医療体制 2) 災害拠点病院の機能・役割 3) 災害と関係法規 4) 災害対応トレーニング 2. 災害医療・災害看護活動 1) 災害サイクル 2) 災害各期に必要な医療と看護 3) 災害現場での応急処置	講義	西尾
7	4) 災害時の致命的な外傷に対する処置 5) がれきの下の医療 3. 災害時の精神反応 1) 被災者のストレスとケア 2) 救援者のストレスとケア 4. 災害関連死の予防		

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
国際看護	3	前期	1	15	講義 演習	必修
担当教員	庄木 里奈 [非常勤講師] 上川 直子 [看護専門学校]					
学習目的	1. グローバルに看護を考えることができる。 2. 人々の健康を取り巻く世界の保健医療を知り、国内外での看護活動の実際がわかる。					
到達目標	1. グローバル化における日本の現状がわかり、国内外での看護の実際がわかる。 2. 日本の国際協力の現状がわかる。 3. 異文化を理解し、人を尊重した看護の対応が考えられる。 4. 医療現場における様々な外国人への看護の対応が考えられる。 5. 国際看護師活動に実際を知り、国際協力を理解することができる。					
<p>専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連</p> <p><自ら学ぶ></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。</p> <p><自ら考える></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。</p> <p><自ら道を開く></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>						

準備学習	配布される資料等を復習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 授業の予習・復習として、1時間程度の自主学習をし、授業に臨む。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	配布資料		
参考書	系統的看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学/医学書院 国際看護/南江堂 国際看護学/中山書店 国際化と看護/メディカ出版 国際看護/学研 ワークブック国際保健・看護基礎論/PILAR PRESS		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	看護における国際化 1) 世界の情勢とグローバルな課題 2) 災害看護の対象（在留外国人・在外日本人・帰国日本人） 3) 日本と諸外国の看護制度	講義	上川
2 3	異文化理解と看護 1) 文化的背景 2) 文化的背景を考慮した看護	演習	
4	世界の保健医療 1) 地球規模課題としての社会的健康格差と健康目標 2) 世界の保健医療を支える機関と重要な概念 3) 国際協力活動にと看護	講義	庄木
5 6	海外における看護の実際（JICA, 赤十字, NPO等の活動）	講義	
7	在日外国人・在外日本人への医療と看護の実際 1) 在日外国人・訪日外国人への医療と看護の実際 2) 在外日本人の医療と看護	講義	上川

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
看護管理	3	前期	1	15	講義	必修
担当教員	富澤 かづ江 [板橋病院 看護部] 佐藤 今子 [板橋病院 看護部] 大橋 初枝 [看護専門学校]					
学習目的	1. 看護の現状と看護管理が果たす役割について理解する。 2. キャリアマネジメントを考え方を理解し専門職業人への自覚と意識を高める。					
到達目標	1. 看護管理及び看護におけるマネジメントの基礎について理解できる。 2. 看護専門職としてのキャリアマネジメントについて理解できる。 3. 自分自身のキャリアプランをたて、看護職としての「ありたい将来像」を展望することができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	各回の講義の予習として教科書の内容について30～1時間程度の自主学習が望まれる。また復習として、教科書を用いた講義内容をノートにまとめる自主学習が望まれる。その際、国家試験問題との関連を確認すると効果的である。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験〔筆記〕 100点					

教科書	看護の統合と実践〔1〕 看護管理/医学書院	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 看護とマネジメント 1)看護管理学とは 2)マネジメントとは 3)看護におけるマネジメント	富澤
2	2. ケアのマネジメント 1)ケアのマネジメントと看護職の機能 2)看護基準・看護手順 3)患者の権利 4)安全管理 5)看護職・多職種との協働（チーム医療） 6)情報・研究成果の活用	
3	3. 看護サービスのマネジメント 1)組織目的達成のマネジメント 2)人材のマネジメント 3)情報のマネジメント 4)施設・設備・物品のマネジメント 5)サービスの評価	
4	4. 看護を取り巻く諸制度 1) 看護の定義 2) 看護職とは	
5	5. マネジメントに必要な知識と技術 1)組織とマネジメント 2)リーダーシップ 3)組織の調整 4)組織と個人	
6	6. 看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成 2) 看護職のキャリアマネジメントモデル 3) 自分自身のキャリアプラン	大橋
7	4) キャリアマネジメントの実際	佐藤

区 分	統合分野				R 2 (2 0 2 0) 年度	
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
医療安全	2	前期	1	15	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	松井孝拓〔板橋病院 臨床工学技士室〕 上川 直子〔看護専門学校〕					
学習目的	基礎教育において必要な医療安全の基礎知識を理解できる。					
到達目標	1. 人間の行動にはヒューマンエラーが存在することができる。 2. 医療事故の定義・分類について理解ができる。 3. 看護業務における事故の特徴が理解できる。 4. 医療事故の分析方法が理解できる。 5. ヒューマンエラーを起こす存在であることを自覚し、自己モニタリングの必要性が理解できる。 6. 医療事故を予防するための方法が理解できる。 7. 医療機器における事故の要因を理解することができる。 8. 医療安全に対する組織としての取り組みが理解できる。 9. 医療事故防止のために、倫理観が関与することを理解できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	授業の予習・復習として30分～1時間程度の自主学習が望まれる。 演習・校内実習では課題に取り組み疑問点を明らかにしておく。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）80点 課題レポート20点		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全/医学書院		
参考書	医療安全に活かすKYT/メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック/医学書院 実践的医療安全トレーニング/医学書院 医療安全/Gakken 医療事故の再発防止に向けた提言/医療事故調査・支援センター		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 人間の行動とヒューマンエラー 2. 医療事故とは 1) 医療事故の分類 2) 医療事故の原因	講義	上川
2	1. 看護業務の特異的な環境とリスク：看護の現場に潜む危険性 2. 医療安全対策 1) 医療法における医療安全対策 2) 医療安全の取り組み 3. 医療事故発生メカニズムと分析方法 4. 事故対策 1) 事故を起こさないための対策 2) 事故が起こった後の対策		
3 4	1. 診療の補助の事故防止・療養上の世話の事故防止 事例による事故の要因・原因・事故防止策 KYT（危険予知トレーニング） 2. 医療安全とコミュニケーション	演習	
5	1. ME機器とは：ME機器を活用する視点の育成 1) ME機器の特徴と事故の要因 2. 臨床工学士とは 1) 臨床工学士が必要とされるようになった経緯 2) 看護師との連携 3. ME機器の種類 4. 事故が起こりやすい機器と事故の実際 5. 医療機器トラブルに対する医療安全対策の実際	講義	松井
6	ME機器の取り扱いの実際とアラーム対応 1) 人工呼吸器 2) 除細動器 3) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	校内実習	
7	1. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 2. 組織的な安全管理体制への取り組み	講義	上川

区分	統合分野				R2(2020)年度	
科目名	対象学年	学期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
ケース・スタディ	3	前期 後期	1	30	講義 演習	必修
担当教員	大橋初枝〔看護専門学校〕					
学習目的	ケース・スタディを通して、看護の研究や実践の仕方を学ぶ。					
到達目標	1. 看護実践上の疑問や未知な事柄をもとに、研究目的を明確にすることができる。 2. 研究目的に沿って必要な情報を正確に記述できる。 3. 科学的根拠や理論を用いて、看護実践の根拠・原因・要因などを考察できる。 4. 学生自身がどんな努力をしたか、発見できたこと、学習できなかった点とその理由、今後の学習課題などを記述できる。 5. 聴き手にわかりやすく、効果的な発表ができる。 6. 興味・関心を持ち、積極的に聴講することで、学びを共有できる。 7. 看護を探究する姿勢を持つことができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連 <自ら学ぶ> <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> <input checked="" type="checkbox"/> 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> <input checked="" type="checkbox"/> 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る <input type="checkbox"/> リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	日頃の臨地実習での看護実践上の疑問や未知な事柄に対し，研究的思考する姿勢をもって臨む。 ケース・スタディ発表については，抄録を読み積極的に質疑・聴講に臨む。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：論文内容60% 取組み・態度・発表30% レポート課題：10%		
教科書	坂本玲子他：系統看護学講座（別巻） 看護研究 / 医学書院		
参考書	適時提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 研究とは 1) 看護研究の意義・目的	講義	大橋
2	2. 看護研究のはじめ方 1) リサーチクエスチョンとは 2) 研究における倫理的配慮 3) 研究のデザイン	講義	
3	3. ケース・スタディの進め方 1) エピソード記述 2) 計画書の書式と書き方 4. ケース・スタディのまとめ方	講義	
4	5. 文献の活用 1) 文献とは 2) 文献の種類 3) 文献レビューの目的 4) 文献提示方法	講義	
5	6. 文献検索の実際 1) 文献検索データベース 2) シソーラスとは 3) AND検索/OR検索/NOT検索	演習	
6	7. エピソード記述の実際 8. 研究計画書作成の実際	演習	
7	9. 抄録の書き方 10. これからの看護研究	講義	
8	11. 論文作成指導	演習	
9			
10			
11	12. 口頭発表 1) 発表準備（発表原稿・発表補助資料） 2) 質疑応答の方法 ※レポート課題	講義	大橋
12	13. ケース・スタディ発表・聴講	演習	大橋 全教員
13			
14			
15			

専門・実習

臨地実習

基礎的知識・技術・態度を統合し，対象に応じた看護が実践できるための基礎的能力を養う。

臨地実習

科目	時間	単位	目的
基礎看護学実習Ⅰ	45	1	患者の基本的ニーズを把握し、対象に適した日常生活の援助ができる。
基礎看護学実習Ⅱ	90	2	看護過程の展開の技術を理解する。
成人看護学実習Ⅰ	135	3	急性期・回復期の患者の看護を体験し、実践に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。
成人看護学実習Ⅱ	135	3	慢性期・終末期の患者の看護を体験し、実践に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。
老年看護学実習	180	4	老年期にある対象を理解し、健康障害をもつ対象および家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。
小児看護学実習	90	2	発達段階にある小児とその家族の看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。
母性看護学実習	90	2	妊娠・分娩・産褥期における母性および新生児の特徴を理解し、母性と家族に必要な看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。
精神看護学実習	90	2	精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された個々およびその家族の理解を深め、精神の健康回復への援助、その過程を通して自己洞察し得る能力を習得する。
在宅看護論実習	90	2	在宅医療サービスにとどまらず、広く保健・福祉サービスや他の社会サービスの活用を含めて、対象が「在宅」で「地域社会」で、質の高い日常生活の営みを獲得し、維持できるよう援助する在宅看護の意義と役割を理解する。また、在宅サービスに包括される在宅看護の実践に必要な基礎的知識・日常生活および療養生活に必要な基礎的援助技術・態度を習得する。
統合実習	90	2	看護活動を総合的に実習し、知識・技術・態度を統合した看護実践能力を深める。

学習効果を高めるための教科外学習

1. 教育課程外に設定する学習

教科外活動	学年		
	1年	2年	3年
ケース・スタディ聴講	8	8	
看護学生看護研究学会		4	
技術総合学習		15	
国家試験対策 総合講義			72
国家試験対策 総合試験			22

実務経験のある教員による授業内容

区 分	科 目	時間	単位	氏 名	内 容
専門分野Ⅰ	看護学概論Ⅰ	30	1	大橋 初枝	国立病院（手術室・脳外科）、市立病院（循環器外科・消化器内科）での実務経験、さらに看護教員としての現在までの経験から、看護の基本となる概念、看護の役割・機能、看護の対象の理解や多職種チームにおける看護師の役割等をわかりやすく教授していきます。また、入院環境・看護の実際を見学する機会を設け、対象の理解や看護師としてのやりがいや実感できるように、また感性豊かな学生が育つよう支援します。
					国立病院（手術室・脳外科）、市立病院（循環器外科・消化器内科）での実務経験、さらに看護教員としての現在までの経験から、看護における倫理、看護理論、広がる看護の活動領域等を教授し、経験を踏まえながら看護職のさまざまなキャリアアップの状況、社会が求める看護職のあり方について具体的に説明します。
	看護の方法Ⅰ-1	30	1	小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験を活かし、健康障害を抱える対象へ日常生活援助及び診療の補助技術援助を行う上で守らなければならない対象の安全と安楽についてその意味や具体的な方法について、臨床での経験を交えながらわかりやすく講義したいと思います。
				浦川 寿美子	看護師、助産師として大学病院、市民病院、総合病院などでの臨床経験がある。その経験を活かした病院におけるコミュニケーションについて、学習支援について講義を行います。
	看護の方法Ⅰ-2	30	1	小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験や基礎看護学領域での教授経験を活かし、対象把握に必要な観察技術及びフィジカルアセスメントについて、臨床での経験を交えながらわかりやすく講義したいと思います。
	看護の方法Ⅰ-3	30	1	越智 知子	臨床経験12年、内科、外科病棟、ICU、基礎看護学領域で6年の教授経験を活かし、対象者にとって必要な援助を見きわめ、提供する手段・方法を初學者でも理解し、実践できるように教授していきます。
	看護の方法Ⅰ-4	30	1	平野 裕子	総合病院での臨床経験を活かし、看護における環境の意味を考え、援助に結び付けられるようにしていきます。また、安全・安楽な技術の習得とともに「望ましい環境」について、一人ひとりが考えを深められる講義を目指します。
				小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験を活かし、健康障害を抱える対象の回復の促進に必要な安楽な日常生活への援助について、活動と休息の意義やその具体的な方法について、臨床での経験を交えながらわかりやすく講義したいと思います。
	看護の方法Ⅰ-5	30	1	越智 知子	臨床経験12年、内科、外科病棟、ICUでの経験を活かし、対象に合わせた日常生活の看護援助の必要性について、教授していきます。また、基礎看護学領域で6年の教授経験を活かし、看護援助の原理・原則、安全・安楽を考慮した根拠に基づく理解が深められるように教授していきたいと考えています。
	看護の方法Ⅰ-6	30	1	平野 裕子	総合病院での看護経験の話を交えながら、食事・排泄における看護技術の意義や特徴を伝えていきます。更に、技術の習得を目指すとともに、対象の思いにも気づける機会にしたいと考えています。
	看護の方法Ⅱ-1	30	1	平野 裕子	総合病院での臨床経験を活かし、臨床で日々提供される与薬について、看護師の役割とその具体的な援助方法、薬品管理についてわかりやすく講義したいと思います。
	看護の方法Ⅱ-2	30	1	小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験を活かし、患者に提供されるさまざまな治療についての概論と、治療を必要とする患者がイメージでき、患者に必要な看護について理解できるように、臨床の事例を交えながら講義したいと思います。
	看護の方法Ⅲ	15	1	小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験を活かし、看護援助の原理・原則、安全・安楽を考慮した根拠に基づく理解が深められるように教授していきたいと考えています。
				平野 裕子	総合病院での臨床経験を活かし、看護実践力の基礎となる看護技術について教授します。ここでは、原理・原則を踏まえた上で、対象の状況に応じた対応まで総合的に学べるように支援していきます。
	基礎看護学実習Ⅰ	45	1	小倉 英里	これまでの臨床経験や基礎看護領域の教授経験を活かし、健康障害をもつ患者に対し、どのように療養生活を整えることが必要か対象との関わりを通して具体的に学び、看護の実際が理解できるよう指導していきたいです。また、看護学生として初めて患者や医療者と接する実習でもあるため、倫理的態度を養うのと同時に、看護が楽しいと実体験できるよう支援していきたいと考えています。
				越智 知子	総合病院と大学病院での経験での経験と実習指導者との経験を活かし、初めての实習を不安なく行えるようにしていきたいと考えています。
石井 祐子				総合病院消化器外科病棟（約1年）、内科・小児科クリニック（約1年）での実務経験を生かし、これまでの机上・学内での学習が臨床実習でいかに展開されるのかを具体的に学ばせ、知識・技術と実践を統合させ、看護を発展的に捉えられるよう指導したいと考えています。	
菅原 紀子				日本大学医学部附属板橋病院での5年間の看護師経験の話を交えながら、臨床現場においての基礎看護学で学ぶ看護技術・特徴が実際にどのように活かさせるか学ぶ場を提供したいと考えています。	
基礎看護学実習Ⅱ	90	2	平野 裕子	総合病院（血液内科・循環器内科）での臨床経験を活かし、机上の知識と実践との統合を図れるように支援していく。また、看護過程の展開では、思考過程と実践課程のつながりを実感として学べる機会としたい。基礎看護学実習は、各看護学の土台となる実習であり、自己の学習課題を明確にするとともに、看護に対する考えを深め、今後の学習意欲の向上に繋がられるように支援していきます。	
			越智 知子	総合病院と大学病院での経験での経験と実習指導者との経験を活かし実習し安全・安楽・自立を考えた看護援助ができるようにしていきたいと考えています。	
			石井 祐子	総合病院消化器外科病棟（約1年）、内科・小児科クリニック（約1年）での実務経験を生かし、これまでの机上・学内での学習が臨床実習でいかに展開されるのかを具体的に学ばせ、知識・技術と実践を統合させ、看護を発展的に捉えられるよう指導したいと考えています。	
			小倉 英里	学生にとって初めての日常生活援助・看護過程の展開を行う実習である。これまでの臨床経験を活かし、机上の学習が臨床でどのように行われているか、具体的に学び体験し、看護の実際が理解できるよう指導していきたいです。また、看護学生として初めて患者や医療者と接する実習でもあるため、倫理的態度を養うのと同時に、看護が楽しいと実体験できるよう支援していきたいです。	
菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院での5年間の看護師経験の話を交えながら、臨床現場においての基礎看護学で学ぶ看護技術・特徴が実際にどのように活かさせるか学ぶ場を提供したいと考えています。				
平野 裕子	総合病院（血液内科・循環器内科）での臨床経験を活かし、机上の知識と実践との統合を図れるように支援していく。また、看護過程の展開では、思考過程と実践課程のつながりを実感として学べる機会としたい。基礎看護学実習は、各看護学の土台となる実習であり、自己の学習課題を明確にするとともに、看護に対する考えを深め、今後の学習意欲の向上に繋がられるように支援していきます。				

実務経験のある教員による授業内容

区分	科目	時間	単位	氏名	内容
成人看護学	成人看護学概論	15	1	齊藤 美鈴	臨床経験11年を活かし、成人期の対象を捉えるためには多角的な視点を持つことを理解できるように講義に反映させて教授します。
	看護の方法Ⅰ-1	15	1	齊藤 美鈴	ICU病棟での経験を活かし、周手術期にある対象に沿った看護の基本を理解することができるように講義に反映させて教授します。
	看護の方法Ⅰ-2	30	1	齊藤 美鈴	看護の方法Ⅰ-1での基本的な考えを基に、様々な疾患で手術をうける対象の看護が理解できるように講義できるように思っています。
	看護の方法Ⅰ-3	15	1	菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院整形外科の病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習回復期・リハビリテーション期で学ぶ看護の特徴や特有の技術が実際にどのように活かせるかを意識した講義を提供したいと考えています。
	看護の方法Ⅱ-1	30	1	菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護の特徴や特有の技術が実際にどのように活かせるかを意識した講義を提供したいと考えています。
	看護の方法Ⅱ-3	15	1	上川 直子	総合病院（一般病棟や集中治療室、外来等）での臨床で実践経験を活かし、終末期における患者・家族の援助を理解し、学生自身の自己の死生観を深められるよう教授していきます。
	看護の方法Ⅱ-4	30	1	菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における看護過程の展開についてイメージしやすいように思考を養うことができるような講義を提供したいと考えています。
老年看護学	老年看護学概論Ⅰ	15	1	渡邊 厚子	高齢者が多い地域の総合病院における病棟・外来での16年の実務を活かし、老年看護学で学ぶ高齢者の疾病の特徴や看護技術が実際にどのように看護の場で活かせるか学べるようにしたい。
	老年看護学概論Ⅱ	15	1		
	看護の方法Ⅰ	15	1		
	看護の方法Ⅱ	30	1		
小児看護学	小児看護学概論Ⅰ	30	1	石井 祐子	総合病院小児ICU（約5年）、内科・小児科クリニック（約1年）での小児看護の実践経験、及び平成17年から看護専門学校、看護大学で小児看護学を自領域として看護教育に携わってきた経験を生かし、臨床での事例に加え、看護基礎教育レベルに必要な小児看護に関する知識を精選し、健康な子どもと病気を持つ小児の理解とその看護について、初學者の学生にもイメージしやすい授業を構築・実践したいと考えています。
	小児看護学概論Ⅱ	30	1		
	看護の方法Ⅰ	30	1	浦川 寿美子	看護師、助産師として大学病院、市民病院、総合病院などでの臨床経験がある。看護師、助産師として小児科を担当したことや助産師として小児、新生児の看護に関わった経験がある。地域では新生児訪問を行い家庭訪問を行い、地域で生活する小児にかかわった経験がある。その経験を活かした講義を行います。
	看護の方法Ⅱ	30	1	石井 祐子	総合病院小児ICU（約5年）、内科・小児科クリニック（約1年）での小児看護の実践経験、及び平成17年から看護専門学校、看護大学で小児看護学を自領域として看護教育に携わってきた経験を生かし、臨床での事例に加え、看護基礎教育レベルに必要な小児看護に関する知識を精選し、健康な子どもと病気を持つ小児の理解とその看護について、初學者の学生にもイメージしやすい授業を構築・実践したいと考えています。
				浦川 寿美子	看護師、助産師として大学病院、市民病院、総合病院などでの臨床経験がある。看護師、助産師として小児科を担当したことや助産師として小児、新生児の看護に関わった経験がある。地域では新生児訪問を行い家庭訪問を行い、地域で生活する小児にかかわった経験がある。その経験を活かした講義を行います。
母性看護学	母性看護学概論	30	1	今野 千春	総合病院での助産師経験を活かし、母性看護の特徴と概要、法律や制度、女性のライフサイクル各期の特徴と看護などについて教授します。
	看護の方法Ⅰ-2	30	1	今野 千春	総合病院での助産師経験を活かし、妊娠、分娩、産褥期にある女性とその胎児・新生児および家族の看護について教授します。
	看護の方法Ⅱ	30	1	今野 千春	総合病院での助産師経験を活かし、妊娠、分娩、産褥期にある女性とその胎児・新生児に必要な看護技術と看護過程について教授します。
精神看護学	看護の目的	15	1	山内 亜由巳	精神科病院、精神科病棟で7年の臨床経験を活かし、精神看護に関わる法律や目的をわかりやすく説明します。
	看護の方法Ⅰ	30	1	山内 亜由巳	精神科病院、精神科病棟で7年の臨床経験を活かし、現在の精神科での看護の実際について体験を交えて教授します。
	看護の方法Ⅱ	30	1	山内 亜由巳	精神科病院、精神科病棟で7年の臨床経験を活かし、健康的な側面を伸ばす関わりについて看護展開できるように教授します。
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	135	3	齊藤 美鈴	自治体病院の総合内科病棟で5年、ICU・CCU病棟で6年の臨床経験を活かし、目に見えない対象の変化を捉え看護が提供できるように指導したいと思います。
				小倉 英里	大学病院や総合病院での実務経験を活かし、様々な健康障害を抱え、急性期にあるの患者に対し、疾病の治療だけでなく、その人個人の生活を支える看護とはどのようなものか、臨床での経験話を交えながらわかりやすく指導していきたいと考えます。
	成人看護学実習Ⅱ	135	3	菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護の特徴や技術が実際にどのように活かせるかを意識して、学が場を提供したいと考えています。
				平野 裕子	総合病院での臨床経験を活かし、成人看護学（慢性期・終末期）で学ぶ看護の特徴が、実際の臨床現場においてどのように活かせるか、分かりやすく伝えていきたいと考えます。
	老年看護学実習	180	4	渡邊 厚子	高齢者が多い地域の総合病院における病棟・外来での16年の実務を活かし、老年看護学で学ぶ高齢者の疾病の特徴や看護技術が実際にどのように看護の場で活かせるか学べるようにしたい。
				上川 直子	総合病院での経験を活かし、老年期にある対象及び家族に対し看護を実践できるよう教授します。
				浦川 寿美子	看護師、助産師として大学病院、市民病院、総合病院などでの臨床経験がある。また、地域での看護活動の経験があり、地域ではデイサービスや訪問入浴での看護の経験がある。看護師として病院内、地域での老年期の患者様の看護に関わった経験がある。その経験を活かした実習を行います。
小児看護学実習	90	2	石井 祐子	総合病院小児ICU病棟、内科・小児科クリニック勤務の経験を生かし、学生がスムーズに母子と関係性構築ができ、看護実践できるよう橋渡し・サポート役を担いつつ、小児看護の実際を学ばせたいと考えています。	
母性看護学実習	90	2	今野 千春	総合病院での助産師経験を活かし、臨地実習指導者と相談・調整しながら、妊娠・分娩・産褥期及び新生児期と家族の看護を実践できるように教授します。	
精神看護学実習	90	2	山内 亜由巳	精神科病院、精神科病棟での実務経験を活かし、精神に障がいをもつ人の理解を深められるようロールモデルとして指導にあたりたいと思います。	

実務経験のある教員による授業内容

区分	科目	時間	単位	氏名	内容
在宅看護論	在宅看護概論	15	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
	看護の方法Ⅰ	30	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
	看護の方法Ⅱ-1	15	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
	看護の方法Ⅱ-2	30	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
	在宅看護論実習	90	2	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を活かし、在宅看護論の講義内容と結びつけながら、保健・福祉サービスを含め対象者が地域での日常生活を維持・継続できるための看護の役割が理解できるよう指導します。
	国際看護	15	1	上川 直子	総合病院（一般病棟や集中治療室、外来等）での訪日外国人の看護の経験を活かし講義や演習を行います。
	医療安全	15	1	上川 直子	総合病院（一般病棟や集中治療室、外来等）での臨床で実践経験を活かした講義や演習を行います。
	ケース・スタディ	30	1	大橋 初枝	国立病院（手術室・脳外科）、市立病院（循環器外科・消化器内科）で取り組んだ研究経験、教員経験から、研究方法を学ぶことで問題発見や問題分析、論理的思考などの能力を身につけていけるよう教授します。また、研究方法を学ぶことで身につく様々な力が看護実践にどのように生かされるかを、ケースレポートをまとめながら実感できるように支援していきます。
				小倉 英里	これまでの臨床で行った、看護研究論文の執筆の経験を活かし、研究的態度を養い、論理的に思考し表現することができるよう、看護理論をわかりやすく説明し、実習での経験を看護としてどうであったか、考える場となり、看護観へつなげられるよう指導したいと思います。
				石井 祐子	これまでの自身の研究活動や論文執筆の経験を生かし、学生が研究的態度・問題解決思考を持って、看護活動を行えるような素地作りをしたい。また、自己の考えをまとめ、文章化する能力の低い学生も多いため、論理的思考や文章構成スキルも併せて養いたいと考えています。
菅原 紀子				日本大学医学部附属板橋病院科の5看護師経験や大学院において研究活動について学んできたことを交えながら、実際に看護における研究がどのように活かされるか学ぶ場を提供したいと考えています。	
平野 裕子				これまでの研究経験を活かし、自己の実践を理論を用いて振り返り、研究的態度や問題解決思考の育成に努めていきたい。また、文章構成力を養う機会にもしていきます。	
統合実習	90	2	越智 知子	総合病院と大学病院での経験から複数患者を受け持った時の看護の動きや患者対応など実習を通して学べるようにしていきたいと考えています。	
			石井 祐子	総合病院小児ICU病棟（約5年）、内科・小児科クリニック（約1年）での勤務経験を生かし、小児病棟の特徴や小児看護の役割・機能について、十分に理解したうえで統合実習に臨めるよう事前説明し準備態勢を整える他、個々の学生の学習状況に合わせた実習中指導を行う。また、病棟スタッフ、小児と家族と連携し、学生が円滑・効果的に実習が進行できるようサポートしたいと考えています。	
			小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験や、管理職の経験を活かし看護管理の実際やチームナーシングについて、机上の学習と臨床がつながり理解できるよう、わかりやすく指導していきたい。また、これまでと違った実習形式となることや、多重課題から、大きなストレスや臨床への不安を感じやすいため、精神的フォローについても留意して行いたいと思います。	
			菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の5年間の病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護技術・特徴が実際にどのように活かされるか学ぶ場を提供したいと考えています。	
			平野 裕子	総合病院（血液内科・循環器内科）での経験を活かし、チームの連携とは何か、複数受け持ちにおける優先順位の考え方を体験から学ぶ機会とする。更に、夜間実習を通し看護を24時間継続したものとして捉え、看護業務の多面性にも気付かせられるよう支援していく。管理実習では、既習の看護管理の講義を想起させながら実習していけるよう働きかけます。	

番・氏名
